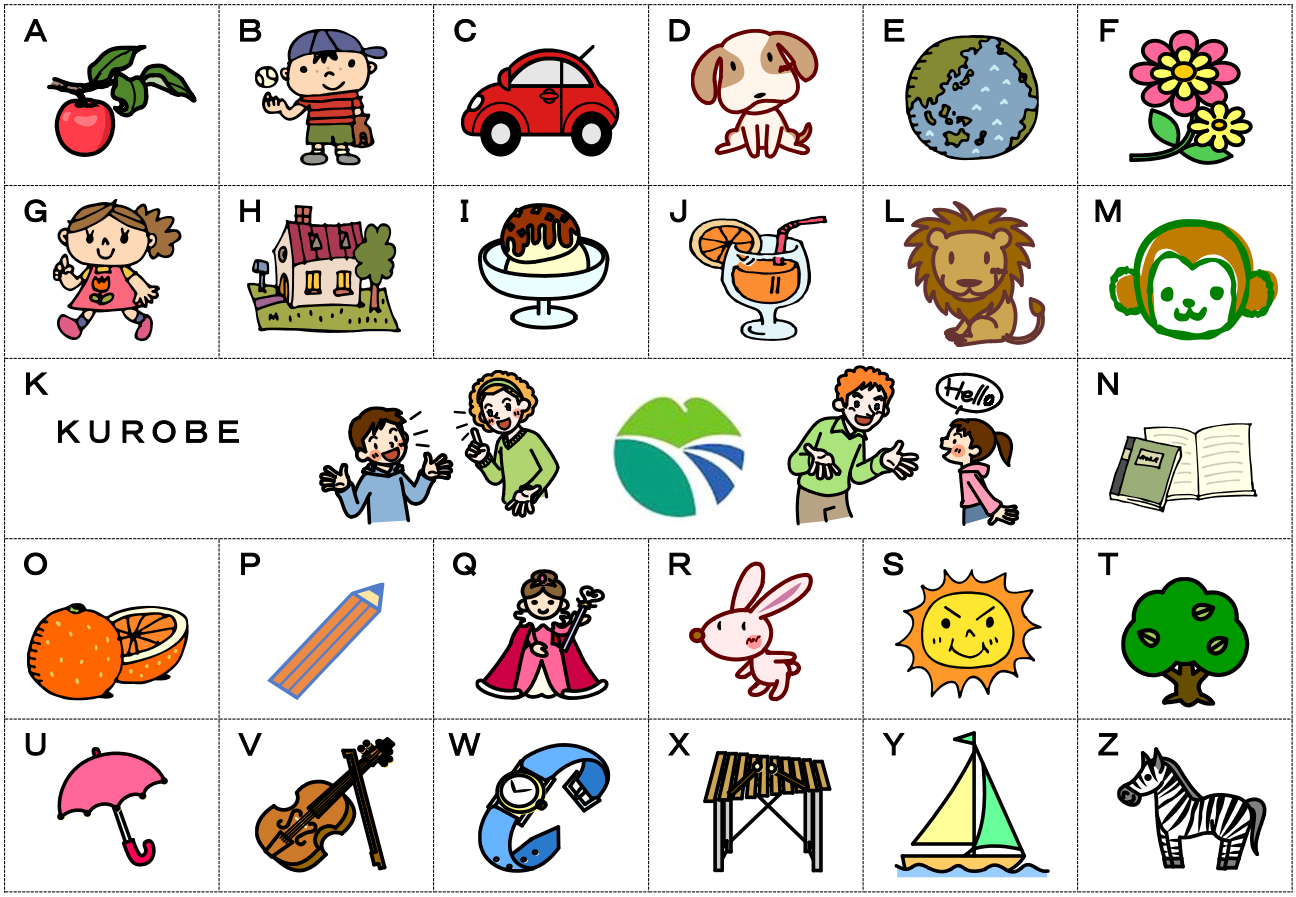
令和７年度　黒部国際化教育推進事業

英語の指導に関するまとめ



令和８年３月

黒部市教育委員会

黒部市教育センター

目　次

Ⅰ　英会話科等の取組における成果と課題

１　授業公開月間のまとめ

（１）授業公開の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）小学校の授業公開の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（３）中学校英会話科の実践

・清明中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

・明峰中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

（４）来校者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

（５）保護者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

（６）教員アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

２　外国語教育研究部会研修会のまとめ

（１）中学校英会話科の授業参観と事後研修・・・・・・・・・・・・・15

（２）文部科学省の YouTube の視聴と事後研修・・・・・・・・・・・16

（３）英語の指導におけるＩＣＴ機器活用・・・・・・・・・・・・・17

３　英会話科等の学習に関するアンケート結果・・・・・・・・・・・18

４　Enjoy talking の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

５　Speaking test の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

６　英語検定３級以上の取得率、受検率等・・・・・・・・・・・・・47

Ⅱ　英語サマーキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

Ⅲ　姉妹都市交流研修事業(メーコン・ビブ郡受入)・・・・・・・・・50

Ⅳ　黒部国際化教育推進事業についてのアンケート・・・・・・・・・51

Ⅴ　付録　　英会話科等 20 年間のあゆみ・・・・・・・・・・・・・52

Ⅰ　英会話科等の取組における成果と課題

１　授業公開月間のまとめ

（１）令和７年度「英会話科等」授業公開の概要

１　授業公開月間の目的
- これまでの実践の成果を公表する。（平成 18 年から）
- 市民全体の英語教育への関心をさらに高める。
- 指導者の授業力向上を目指す。
  ⇒授業公開は毎年開催する。
  ※普段の授業を、無理なく公開する。

２　英会話科公開月間　令和７年 10 月 15 日（水）～11 月 21 日（金）
◎今年度、公開する学校…石田小、桜井小、宇奈月小、清明中、明峰中
- 小学校は、黒部独自の英会話（１年生または２年生）を公開月間に合わせて担当校が公開する。
- 中学校は、２学期に英会話科の授業がある学年で公開する。

３　授業公開について
- ８月１日までに授業公開日とクラスを決め、黒部市教育センターに報告する。
- 公開月間に２コマは公開する。
- ALT の勤務日でない日が授業公開の場合、同じ ALT 勤務の学校と調整する。
- 中学校英会話科は、教育センターが窓口になって、指導案やまとめを作成して記録に残し、授業力向上に繋げる。
- 学校は保護者や学校運営協議委員に、教育センターは教育機関や来賓等に案内を行う。

４　その他
- 授業公開を行わない小学校でも、１年間の授業参観等の中で、低：英会話、中：外国語活動、高：外国語科の３コマを組み込んで公開するよう努める。
- 中学校の授業参観日の公開も可とする。

（２）小学校の授業公開の様子

◎石田小学校（11 月 7 日（金））

・２年「かたちで遊ぼう」

吉江純菜教諭、キャサリン・カウンツ




・６年「小学校生活の思い出」

山田香里講師、キャサリン・カウンツ




◎桜井小学校（11 月 18 日（火））

・１年「いろであそぼう」

大原彩花教諭、ナサニエル・ボイエ




・３年「This is for you.」

高木愛奈教諭、池田有里恵講師、キャサリン・カウンツ




◎宇奈月小学校（10 月 27 日（月）、28 日（火））

ＡＬＴはすべてジェシカ・クーパー

・１年「くだものやさんゲーム」
宮﨑史夏教諭



・２年「やさいを英語で言ってみよう」
米倉健之教諭



・３年「アルファベットの大文字を復習しよう」
丹保さくら教諭



・４年「文房具を持っているか聞いたり答えたりしよう」
目澤　仁教諭



・５年「自分の好きな場所を紹介して理由も言ってみよう」
笹原葉月教諭



・６年「選んだ国のみりょくを伝え合おう」
野村侑希教諭



（３）中学校英会話科の実践

◎清明中学校（11 月 13 日（木））

【清明中学校　英会話科学習指導案】

３年１組　３７名
指導者　JET：道用　裕志
ALT：ナサニエル・ボイエ

１　テーマ　Let's Interview!「クラスの一番人気を調べて発表しよう！」
２　本時の学習（全２時間、本時１／２）
(1)　ねらい　英語でインタビューし、班で協力して情報を集めて共有する。
(2)　展　開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
1　挨拶をする。　(3)	・英語で挨拶をし、本時の流れを確認する。（JET、ALT）
2　学習課題を確認する。　(3)	Let's Interview!　「３年１組の一番人気を調べて発表しよう！」
3　インタビュー活動を行う。　(25) ・教師による活動の説明を聞く。 ・班で扱うトピックを決める。 ・Spot in Kurobe　・Season ・School Lunch Menu ・School Event　・Country ・Japanese National Holiday ・Ice Cream Flavor	・本時に扱うトピックを伝える。（JET、ALT） ・１つの班に１つのトピックが与えられ、それに関して「友達に３つの質問をする」、「質問で得た情報を班に持ち帰って結果をまとめる」、「結果を全体に発表する」という流れを伝える。（JET、ALT） ・他の班も同じ活動をするので、質問するだけではなく、質問されたら答えることを確認する。（JET、ALT）
・それぞれのトピックについて、「最も好きなものは何か」、「なぜそれが好きか」の２つは必ず質問することを確認する。	・３番目の質問は、会話の流れがスムーズになるように考えて尋ねるよう促す。（JET）
・教師のデモンストレーションを聞き、本時の活動に必要な表現を口頭練習する。 ・班内でインタビューし合い、得た情報をワークシートに記入する。	・例文を紹介し、学級全体で練習して活用できるようにする。（ALT） ＜例文＞ ・What is your favorite spot in Kurobe? ・What season do you like the most? ・Why（do you like it)? ・Where do you usually get it?
・英語でどう言えばよいか分からなかった表現を ALT に質問する。	・完璧な表現でなくても、知っている英語でやり取りしてもよい。ただし、固有名詞や日本独自のもの以外は英語で表現するよう促す。（ALT）
・誰がどの友達にインタビューするか担当を決める。	・一人でインタビューをすることができない生徒は、班の友達と一緒にインタビューをしてもよいことを伝える。（JET） ・会話前後の挨拶やお礼を忘れず言うことを確認する。（JET）
・教師の合図で全体でのインタビューを始める。	※教師が生徒の会話に参加しながら、表現の仕方に困っている場合にヒントを出すなどして援助する。（JET、ALT）
4　班でインタビューの結果をまとめる。　(14)	・発表者を決める際に全班員が発表に関われるように配慮させる。（JET） ・発表の際に使う英語の表現を確認し、口頭練習させる。（JET）
5　本時の振り返りをする。　(5) ・本時で学んだことや授業中に質問できなかったことをフィードバック・フォームに記入する。	◆思考・判断・表現 相手の好きなものやその理由等について適切な表現を用いて、互いに必要な情報を得ようとやり取りしている。　＜観察・ワークシート＞

清明中学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　13　日　（　木　）　1　限

2　学年等・指導者　　第　3　学年　1　組
道用裕志、ナサニエル・ボイエ

3　実践

(1)　テーマ　　Let's Interview!「クラスの一番人気を調べて発表しよう！」

(2) 授業の様子

導入	展開
	
班ごとの話題について「一番好きな○○は何か」「何故それが好きか」などを、クラスの全員とALTにインタビューして、結果をまとめ発表するという流れを確認した。インタビューの際に使える表現をALTと練習した。	前半は、班の中でインタビューし合った。一人が右隣の人にインタビューし、他の生徒は内容を聞き取ってメモに取った。質問を受けていた生徒がそのまた右隣の人に順にインタビューした。

展開	終末
	
後半は、生徒が教室内で他の班の生徒やALTと積極的に情報交換した。質問し合うペアは事前に班内で打合せした。一人でインタビューをするのが難しいと感じた場合は班内でペアを組んでインタビューを行った。	集めた情報を各班に持ち帰り、班長を中心に共有し合った。インタビュー結果をまとめ発表の準備をした。発表の仕方の例を参考に、英語でどのようにプレゼンテーションすればよいかを班内で話し合い、口頭練習をした。

【清明中学校　英会話科学習指導案】

２年１組　３６名
指導者　JET：道用　裕志
ALT：ナサニエル・ボイエ

１　テーマ　Let's talk about 3 Options!「思いを英語で伝え合おう！」

２　本時の学習（全１時間、本時１／１）

(1)　ねらい　お互いの思いや経験を英語で発信し合いながら情報交換する。

(2)　展　開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
1　挨拶をする。　(3)	・英語で挨拶をし、本時の流れを確認する。（JET、ALT）
2　学習課題を確認する。　(5)	
３つの話題（Drinks, Dislikes, Daily Routine）について、英語で伝え合おう	
3　話題を選んでペアで会話をする。(10) ・じゃんけんで会話の切り出し係を決める。	・ペアの組み方を指示する。（JET）
・３つの話題を確認し、会話の切り出しの例文を発音練習する。 ・切り出し係は話題を１つ選び、ペアでその話題について会話を始める。 ・相手から３つ以上の情報を引き出す。	・３つの話題は口頭ではっきりと伝える。（ALT） ＜切り出しの例＞ ・Let's talk about "drinks."　What drink do you like? ・Let's talk about "dislikes."　What vegetable do you NOT like? ・Let's talk about "daily routine."　Do you have a daily routine? ・話しかけるときのあいさつや、終わったときのお礼を必ず伝えるよう促す。（JET）
4　ペア活動を振り返る。　(10) ・英語でどう表現すればよいか分からなかったことを質問し、学級で共有する。	・生徒からの質問の答えをすぐに与えず、答えられる生徒がいれば答えさせる。（ALT） ＜例＞ ・How do you say "柑橘類" in English? ・How do you say "必ず～する"?
5　全体で会話をする。　(10) ・教室を回り、できるだけ多くの人と会話をする。	※机間指導をしながら、直接生徒と会話したり、生徒同士の会話を聞いたりして、生徒の会話がスムーズに流れるように助言する。（JET、ALT）
	◆思考・判断・表現 ３つの話題について、尋ねられた内容を理解し、適切な表現を選択しながら、相手に伝えている。 ＜観察･ワークシート＞
6　全体の活動を振り返る。　(7) ・全体を通して表現方法が分からなかったものがあれば質問する。	・生徒からの質問が少ない場合、教師から生徒に質問する。（JET、ALT） ＜教師からの質問の例＞ ・Do you know how to say "炭酸飲料" in English? ・Who knows how to say "宿題は夕飯前にすることにしている"?
7　本時の振り返りをする。　(5) ・本時で学んだことや授業中に質問できなかったことをフィードバック・フォームに記入する。	

清明中学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　13　日　（　木　）　2　限

2　学年等・指導者　　第　2　学年　1　組
道用裕志、ナサニエル・ボイエ

3　実践

(1)　テーマ　　Let's talk about 3 options!「思いを英語で伝え合おう！」

(2) 授業の様子

導入	展開
	
アルファベット「D」で始まる3つの異なる話題の中から好きなものを選んで、それについて友達や教師と会話をするという流れを確認した。会話は、内容を横に広げるのではなく、下へ掘り下げていくイメージで会話を続けるようにアドバイスをした。	前半は、隣の座席の友達とペアで会話した。それぞれ選んだ話題について、制限時間内にお互いに相手から３つの情報を引き出すというルールの下、どの生徒も一生懸命会話していた。表現方法が分からなかった生徒は、会話後の「フィードバック・タイムⅠ」でALTに質問した。

展開	終末
	
後半は、教室内を回り、友達やALT、JETに積極的に声をかけ、それぞれの思いを、現在知っている語彙や表現を使って情報交換していた。ALTと自然な流れで会話する生徒の姿も見られた。多くの生徒が、声をかけるときの"Hello!"や、会話が終わった後の"Thank you." "See you!"等の挨拶の言葉も自然に言っていた。	ALTとJETは、「フィードバック・タイムⅡ」で英語でどう表現するかの質問を受けた。ここでは、生徒の質問にすぐ教師が答えるのではなく、他に答えを知っている生徒がいればまず答えさせるようにした。質問者以外の生徒も各質問を自分事として捉え、メモを取りながら真剣に学習している様子だった。

◎明峰中学校（11 月４日（火））

【明峰中学校　英会話科学習指導案】

３年２組３７名
指導者　JET：橘　純子
ALT：ﾉｱ･ﾘｰ

１　テーマ　Let’s talk about what you often do in fall
２　本時の学習（全１時間、本時１／１）
(1)　ねらい　秋によくする自分の行動について述べたり、相手の行動について聞き取り感想を伝えたりすることができる。
(2)　展 開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
１ 挨拶をする。（２） ２ Small talk をする。（４） ・黒部でする好きなことについてペアで話をする。	・英語で挨拶をし、学習の雰囲気づくりに努める。 ・やりとりの例を示す。(JET、ALT) A: What do you like to do in Kurobe? B: I like to~.
３ 学習課題を確認する。（１）	・学習課題を提示する。(JET)
秋によくすることについて自分の考えや感じたことを伝え合おう。	
４ アメリカでの秋の様子やイベントについての紹介プレゼンテーションを聞く。（１３）	・アメリカの秋の様子やイベントについての紹介プレゼンテーションを行う。(ALT)
５ ALT にプレゼンテーションについて質問をし、やり取りをしながら全体で内容を確認する。（３）	・生徒にプレゼンテーションについての質問や感想を促す。(JET、ALT)
６ 本時で使う会話表現を確認し、活動の見通しをもって練習をする。（６） A: Do you often ~ in fall? B: Yes, I do. I ~. A: What kind of ~do you like? B: I like ~. ~ make(s) me happy. / It is ~ for me to ~. A: Wow! Sounds ~!	・感情を伝える表現を確認する。 ・会話表現のモデルをスライドとワークシートで提示し、よりよい表現を工夫するための手立てとする。(JET) ・やり取りの例を示す。(JET、ALT) ・考えや理由、質問等を入れ、３往復以上のやりとりをすることを指示する。(JET)
７ ペアで、自分が秋によくすることについて相手を替えて対話を繰り返す。（１５）	・生徒のやりとりを聞きながらつまずきを捉え、必要に応じて補助をする。(JET) ・活動に参加しながら生徒の様子を把握する。(ALT)
８ 数名の生徒がモデル発表をし、生徒や ALT とやり取りをする。（４）	◆思考・判断・表現 秋にする自分の行動について述べたり、相手の行動について聞き取り感想を伝えたりすることができる。〈観察〉
９ 挨拶をする。（２）	・活動のフィードバックやコメントを述べる。(JET)

明峰中学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　4　　日　（ 火 ）　4　限

2　学年等・指導者　　第　3　学年　2　組
橘　純子、ノア・リー

3　実践

(1)　テーマ　　Let's talk about what you often do in fall

(2) 授業の様子

導入



全体で挨拶を行った後、黒部でする好きなことについて質問をしながらペアで話をした。

展開



本時の学習課題を確認し、ALTによるアメリカでの秋の様子やイベントについての紹介プレゼンテーションを聞いた。

展開



会話表現を確認し、活動の見通しをもって練習した。ペアで、秋によくすることについて相手を替えて対話を繰り返した。生徒は相手の話を聞き、感想を伝えたり、質問したりした。また、自分の行動や感情についても伝えることができた。

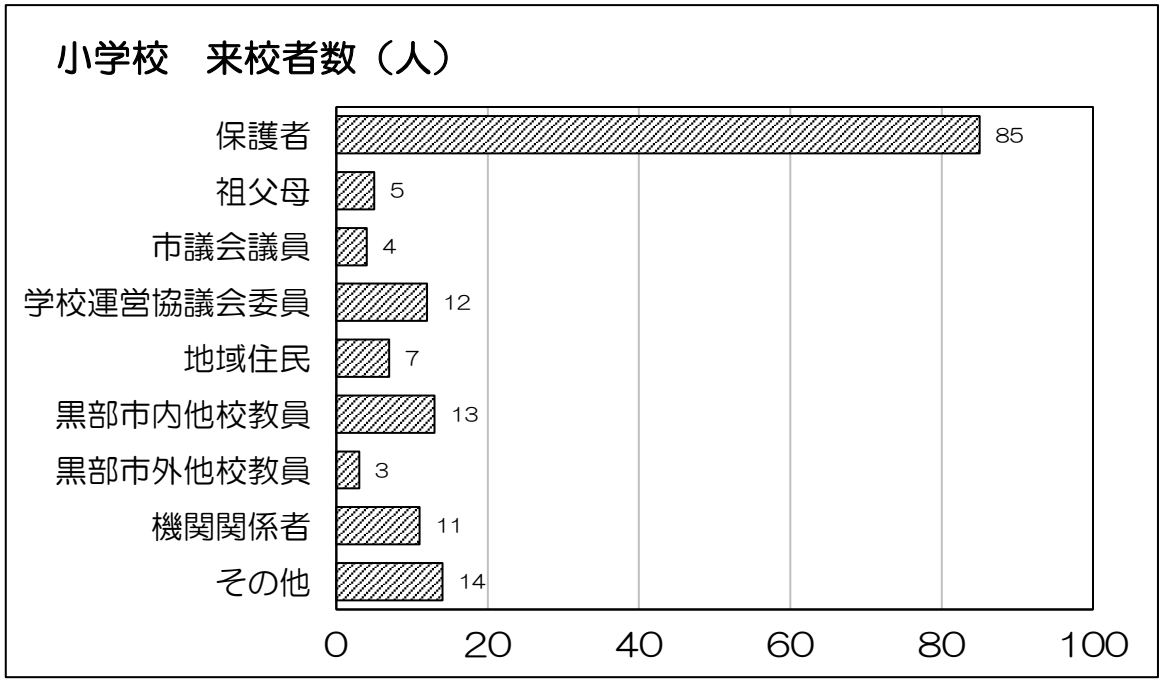
終末

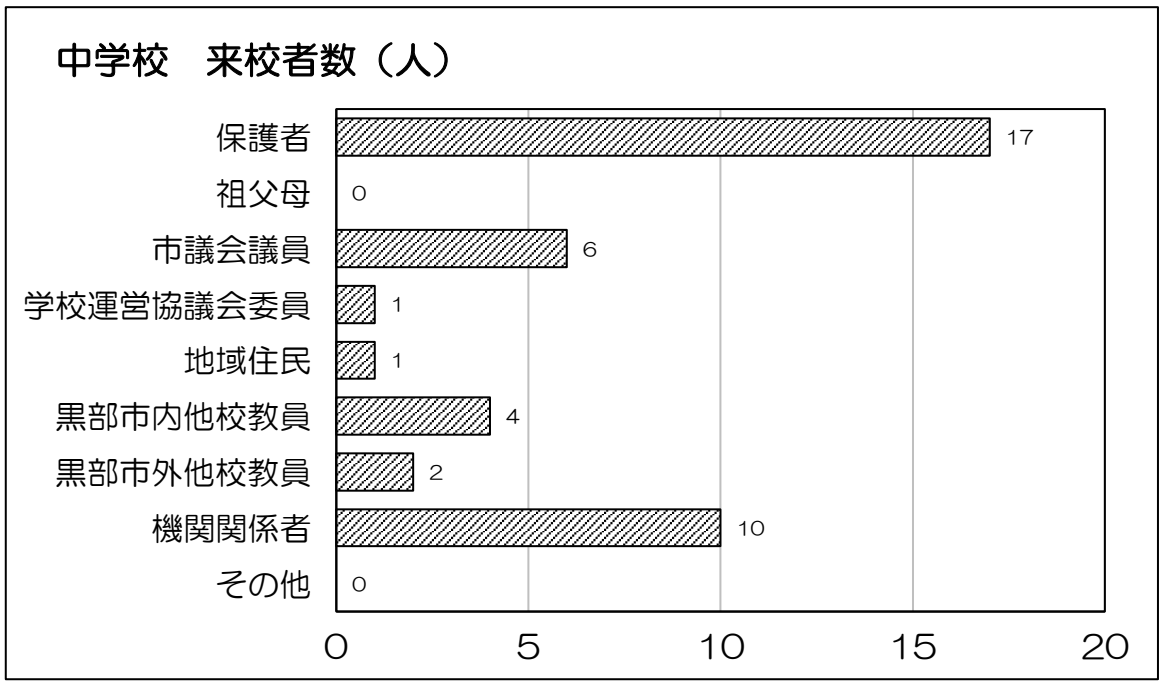


数名の生徒がモデル発表をし、生徒やALTとやり取りをした。クラス全体で表現方法を共有することで学習意欲を高めた。

（4） 来校者数

今年度は、小学校の低学年で４コマ、中・高学年で６コマ、中学校は３コマ授業公開を行った。また、授業公開の案内のデザインを一新し、安全メールで保護者に直接配信したり、教育関係者の参観申込をフォームで実施したりした。昨年は地域住民の参加はなかったが、今年は地域住民や教育関係者の数が増加した。特に、幼小連携の意識が高まり幼稚園や保育所職員の参観が増加した。幅広く英会話科等の実際を知っていただくよい機会となった。



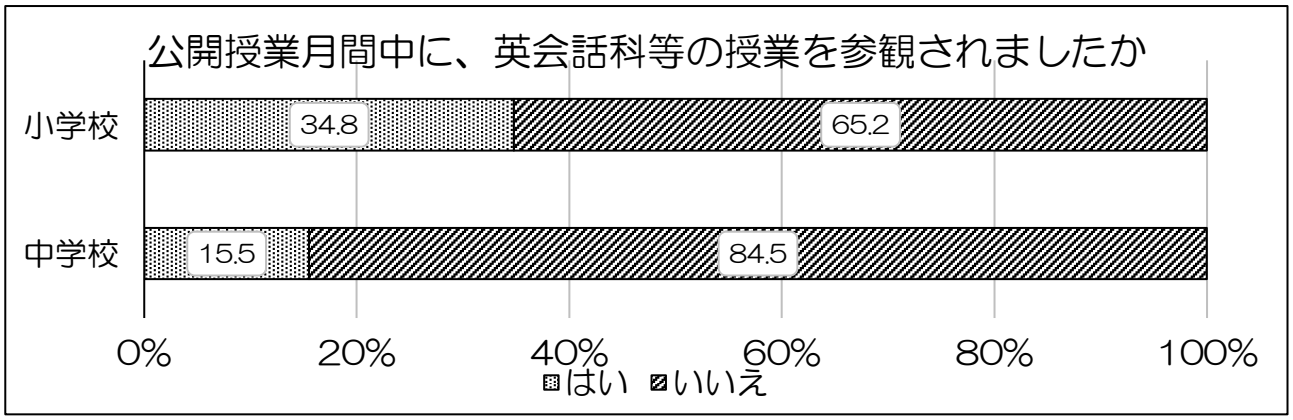


（５）　保護者アンケート

授業公開後に、授業公開を行った小・中学校の全保護者に対してアンケート調査を行った。

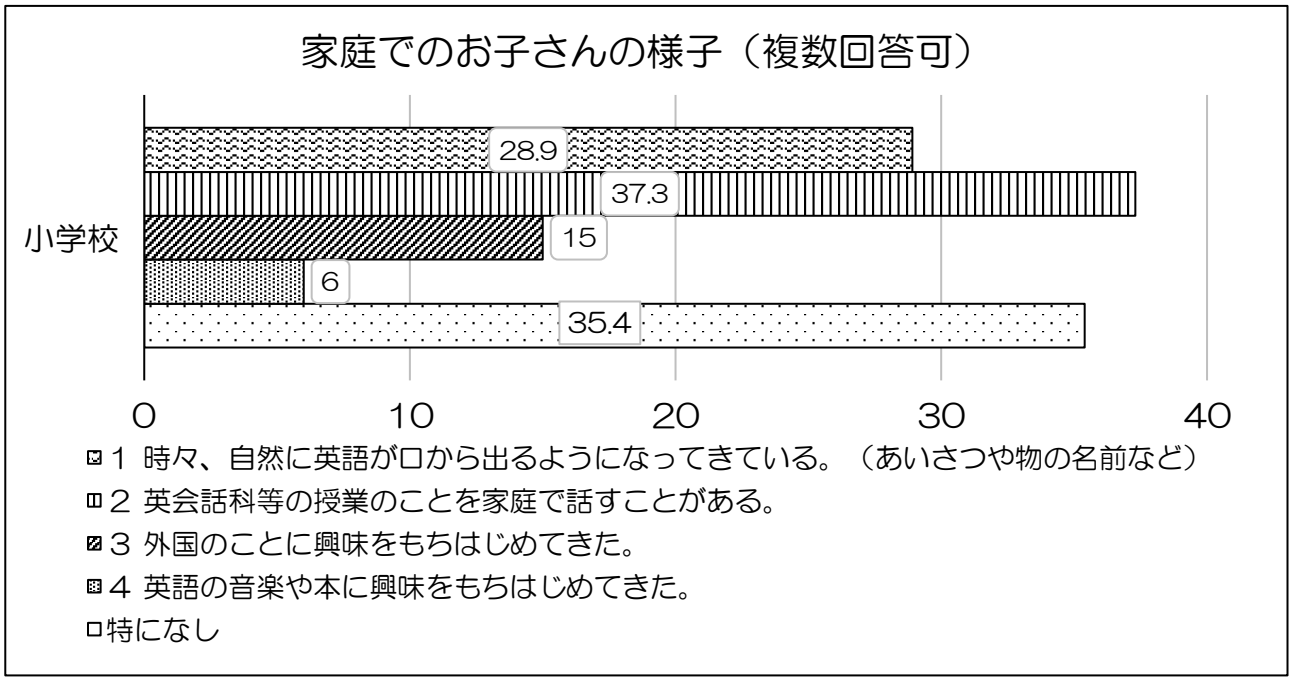
回答率は、小学校で４２％、中学校で３８％であった。英会話科等の取組に対する肯定的な意見が多くみられた。

①　公開授業月間中に、英会話科等の授業を参観されましたか。



※　上記グラフは、授業公開を行った学級（小学校 10 学級、中学校３学級）についての結果である。

②　家庭でのお子さんの様子について（小学校のみ）



【家庭での変化】（自由記述より）

・英語できらきら星を歌ったり、授業で習ってきたことを口に出したりして復習しています。 少しずつ、身に付いてきているようです。

・メーコンとの交流事業は昨年行かせて頂き、本人もすごくいい経験になったようなので今後も続けて欲しいです。

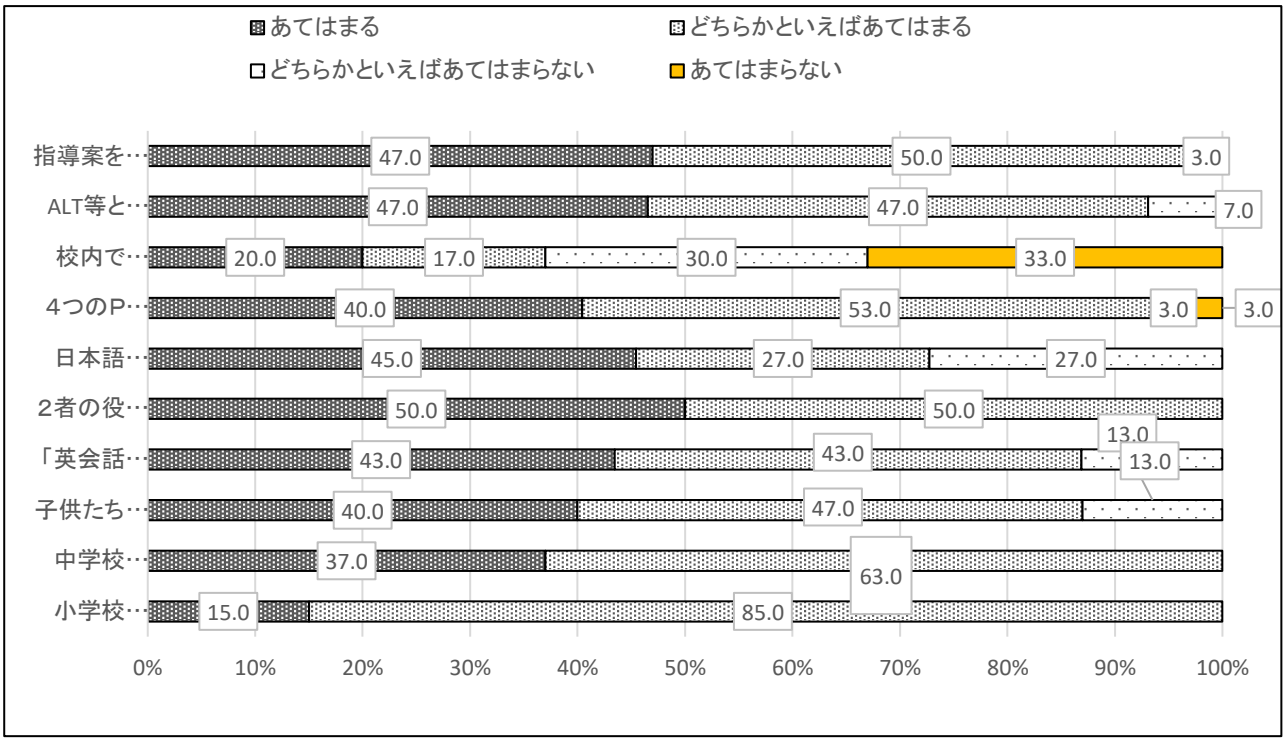
（６）　教員アンケート

授業公開月間は、公開をした教員にとって、授業についてより深く考えたり、普段の授業を見直したりするよい機会となった。教員及び ALT にアンケートを実施した結果が、下のグラフである。

※グラフは、解答数による割合であり、質問によって解答数に相違がある。

【公開授業を実施してよかったこと・向上したこと】の質問項目

・指導案を書いて、単元構成や１時間の流れについて考えた。
・ALT 等との打合せをいつも以上に綿密に行うことができた。
・校内で授業を相互参観した。
・４つのＰを意識して授業を行った。または、４つのＰを意識して授業観察をした。
・日本語の使用を必要最低限にした。クラスルームイングリッシュを多く使うようになった。
・３者（または２者）の役割を意識して授業を展開した。
・「英会話科が目指すこと」※を意識して、授業に取り組んだ。
※「英語を用いたコミュニケーション能力」及び「ふるさと黒部を豊かに語れる生徒」の育成
・子供たちが今まで慣れ親しんできた英語表現を使うようになってきた。
・中学校の英会話科の授業を観察することができた。
・小学校の英会話等の授業を観察することができた。

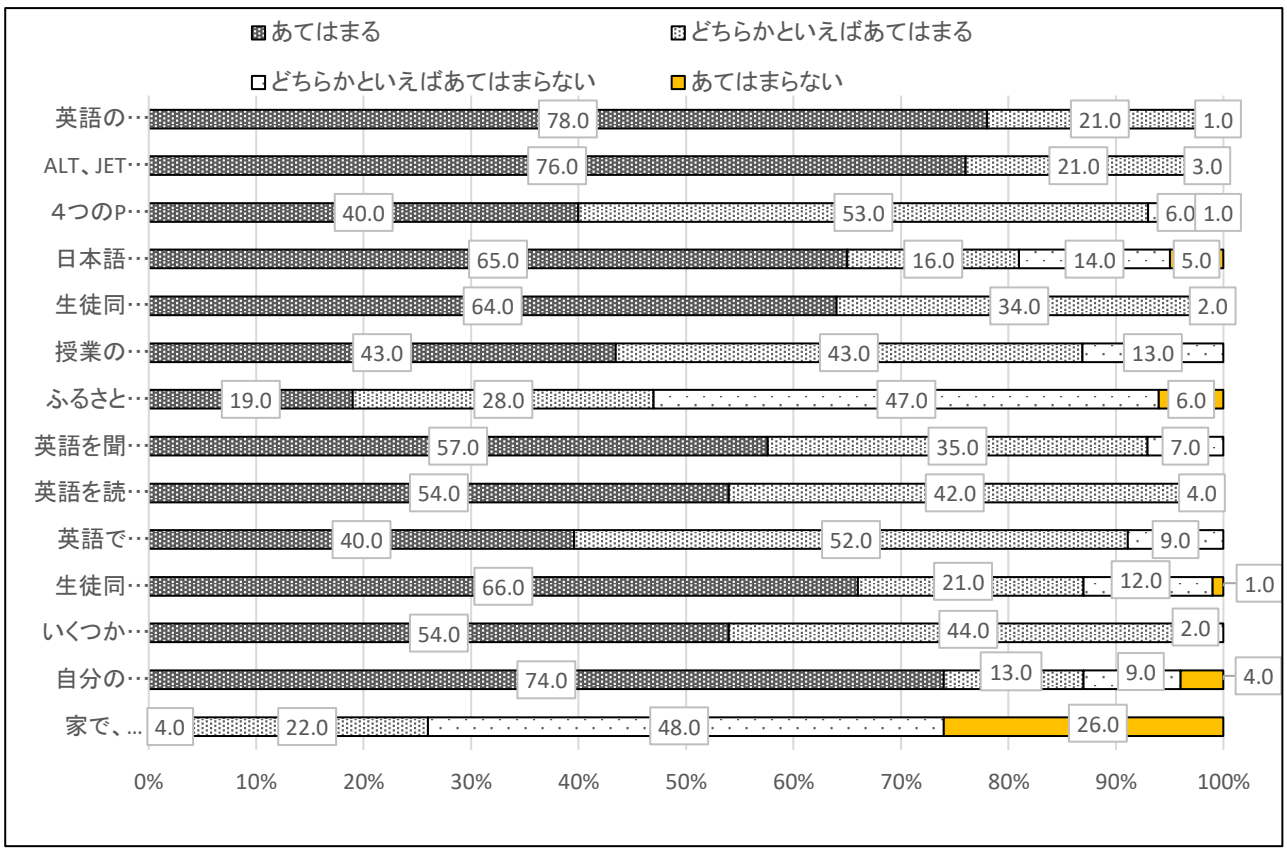


○昨年度よりも、<u>他の小中学校で英会話科等の授業公開を参観する教員や ALT が増えた</u>。授業力向上や小中連携の意識が高まってきている。

▲「子供たちが今まで慣れ親しんできた英語表現を使うようになってきた。」と回答する教員の割合は 87％で比較的高いが、昨年度よりも減少している。

【指導力向上に向けて取り組んでいること】の質問項目

・英語の指導に関する年間指導計画や学習指導要領を踏まえた指導を行っている。
・HRT、ALT、JET の役割を明確にして、効果的なティームティーチングになるよう努めている。
・４つの P に基づき、創意ある展開を心がけている。
・日本語の使用は必要最低限にしている。
・生徒同士が自分の思いや考えを伝え合う活動を行っている。
・授業の終末で、成果の確認を目的とした生徒とのやり取りを行っている。
・ふるさと黒部を豊かに語るための指導を工夫している。
・英語を聞いて、(一文一文ではなく、全体の) 概要や要点を捉える活動をしている。
・英語を読んで、(一文一文ではなく、全体の) 概要や要点を捉える活動をしている。
・英語で質問されたことに対して、即興で(特に準備をすることなく)自分の考えや気持ちなどを英語で話す活動をしている。
・生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合う活動をしている。
・いくつかの文を合わせたスピーチなど、まとまった内容を英語で話す活動をしている。
・自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動をしている。
・家で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりするよう促している。

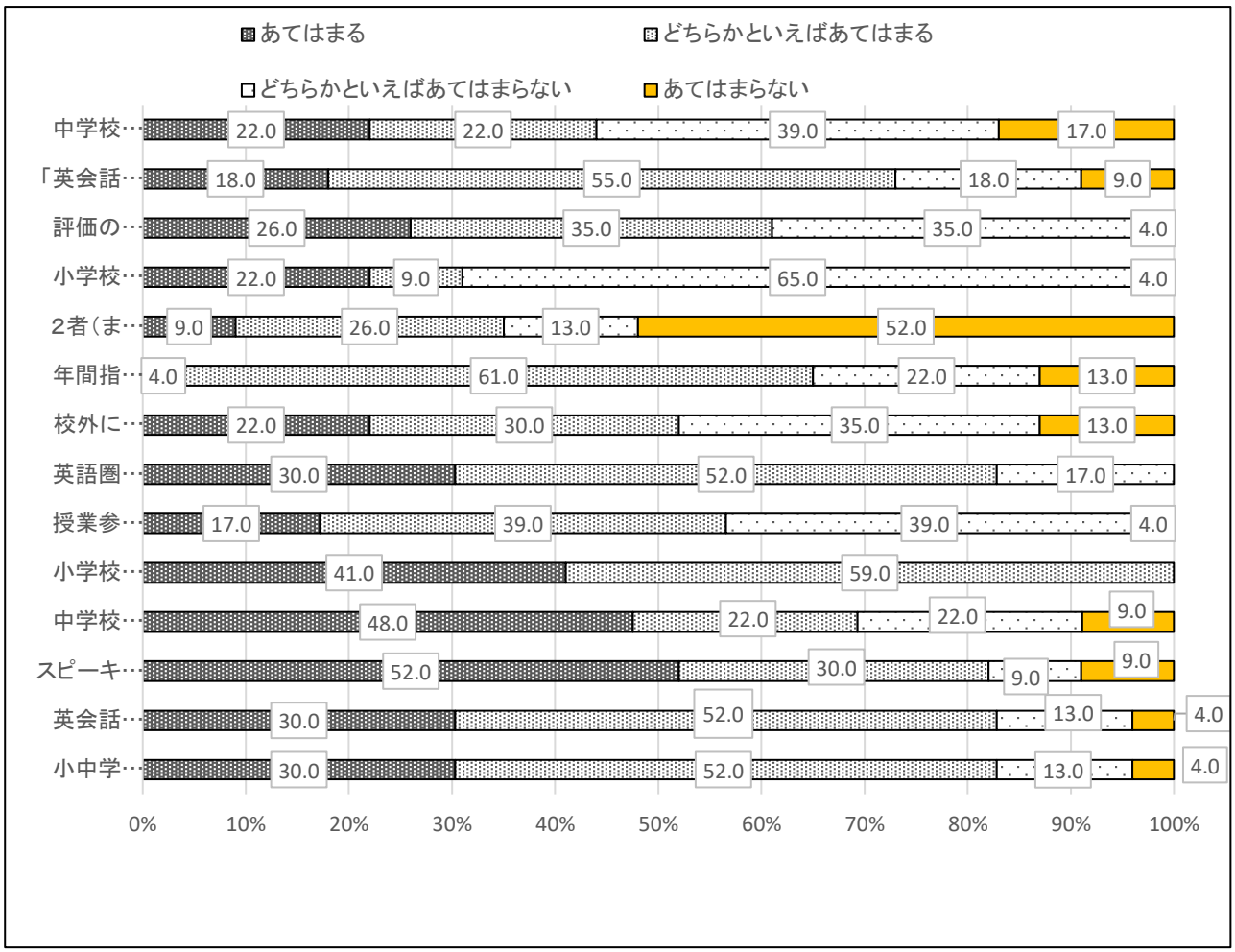


〇ほとんどの項目において、昨年度よりも「あてはまる」と回答した教員の割合が増加しており、<u>指導力の向上に向けて意識して取り組んでいる</u>ことがうかがえる。

▲ふるさと黒部を豊かに表現しようとするような学習過程の工夫や、ICT 機器を活用した家庭学習の効果的な在り方についてさらに深めていくことが望まれる。

【今後の英会話等の授業をより充実させるために望むこと】の質問項目

・中学校の生徒と小学校の児童が交流した授業（活動）を仕組む。
・「英会話科が目指すこと」※を見直す。
・評価の在り方・文言を見直す。
・小学校で、文字にふれる学習を増やす。
・２者（または３者）による授業の体制を見直す。
・年間指導計画をより使いやすいものにする。
・校外に出て英語表現を使う場を設ける。
・英語圏の雰囲気を出す環境整備に力を入れる。
・授業参観や学校行事等で、積極的に保護者に授業を公開する。
・小学校教員が指導方法や英語に触れる研修会を開催する。
・中学校英語科の教員と JET の連携を密にする。
・中学校のスピーキングテスト（例）を作成する。
・英会話科に関する研修を継続する。
・小中学校の教員の連携を図る。



○教員の研修や小中連携、ティームティーチングで指導する大切さ、英語に関する環境づくりが重視されている。

英語に関する指導についての黒部市の環境のよさを生かして、今後もさらなる授業力向上に努めていくことが望まれる。

２　外国語教育研究部会研修会のまとめ

「外国語教育研究部会」を年３回実施し、外国語教育研究部員、ALT、JAT、JET が一緒に研修して、授業力の向上に努めている。

（１）中学校英会話科の授業参観と事後研修（６月６日）

第１回は「黒部市中学校教育研究会英語部会」と合同で研修会を行い、小中連携や英語科と英会話科の連携等が円滑になるようにした。また、「外国語教育研修会」とも兼ねて実施し、魚津地区に勤務する希望教員も参加した。

〈清明中学校　英会話科学習指導案〉

２年３組　３７名
指導者 JET：　道用　裕志
ALT：　マーク・ホルンヤック

１　テーマ　Let's talk about our hometown KUROBE!

２　本時の学習（全２時間、本時１／２）

(1)　ねらい　ふるさと黒部の魅力ある場所や特産品、イベントを英語で豊かに表現し、情報交換をする。

(2)　展　開

学　習　内　容（配時）	指導上の留意点　◆評価　＜方法＞
１　挨拶をする。　(2)	・英語で挨拶をし、本時の流れを確認する。（JET、ALT）
２　学習課題を確認する。　(10) 黒部のお勧めの場所や特産物、イベントを英語で伝え合おう	
○教師のデモンストレーションを聞き、本時の活動に必要な表現を口頭練習する。	・黒部市の「お勧めスポット」「特産物」「イベント」の一覧表を使って発音練習をする。（JET、ALT） ・「お勧めスポット」「特産物」「イベント」の３つの話題の中から１つを選び、それについて相手と会話をするというルールを説明する。（JET） ・例文を紹介し、学級全体で練習して活用できるようにする。（ALT） ＜例文＞ ・What is your favorite spot/product/event in Kurobe? ・What can we do there? ・My recommendation is ～.
３　ペアでの会話を行う。　(13)	
○ペアの相手と会話しながら少なくとも３つのよいところを聞き出し、ワークシートにメモする。	・完璧な表現とならなくても、知っている英語でやり取りできることを伝える。（JET） ※教師が生徒の会話に参加しながら、表現の仕方に困っている場合にヒントを出すなどして援助する。（JET、ALT）
○リアクション・フレーズやジェスチャーを交えながら自然な雰囲気で会話するよう心がける。	・会話前後の挨拶やお礼を忘れず言うことを確認する。（JET）
○活動後に、英語でどう表現すればよいか分からなかったことを ALT に質問する。 ＜質問の例＞ ・How do you say "(動物に)触る"? ・How do you say "河口"? ・How do you say "そこでは釣りができます"?	・学んだ適切な表現を活用して全体で練習させる。（ALT） ＜質問に対する回答例＞ ・"To pet." ・"Mouth of river." ・"You can enjoy fishing there."
４　教室内の友達や教師と会話する。　(20)	※直接生徒と会話したり、生徒同士の会話に参加したりしながら、生徒の情報交換の助けとなるように努める。（JET、ALT）
○時間内にできるだけ多くの人と話し、情報交換する。	
○活動後に、英語でどう表現すればよいか分からなかったことを ALT に質問する。	◆思考・判断・表現 ふるさと黒部のお勧めの場所や特産品、イベントについて、適切な表現を選択し、相手に伝えている。 〈観察・ワークシート〉
５　本時の振り返りをする。　(5)	
○授業中に質問できなかったことや本時で学んだことをフィードバック・フォームに記入する。	・フィードバック・フォームに自由に質問を記入するよう促す。（JET）

〔事後アンケートより〕

- 授業では生徒たちが、デモをしっかり聞き取ろうとしたり積極的に会話している姿が印象的だった。特に知っている英語を使おうとしているところがとても良くて、もっと取り上げて褒めてあげるといいと思った。また岡崎先生の机間巡視の活用の仕方についてのアドバイスは是非実践してみようと思った。
- 生徒が英語で会話を続けるためには「お互いが協力して会話を広げる」意識をもつことが大切であると思った。英会話というと習った表現が使えているかテンプレートにあてはめて会話できていればよいという風に感じてしまいがちである。しかし、会話には「質問」や「コメント」が不可欠であり、それがあってこその「英会話」になるということを感じた。会話のターンの中で上手に質問でき、リアクションできる子供たちを育てていくために、普段の授業やコミュニケーションについて考える際の参考にしたいと思った。
- 今の中学校で行われている英語科の学習がこんなにも楽しいことに感動しました。岡崎先生の話からは、質問を返せる生徒を育成することを目指すということを学びました。小学校の外国語指導で土台を作って橋渡ししたいなと思いました。
- 英会話科の授業で生徒が普段の英語の授業で学んでいる表現を活用できる機会を意図的に作ることが必要だと思いました。基礎基本に基づいたスキルを身に付けさせなければ目標に着実に近づけないと思うからです。英会話の授業のある一場面で「通常の英語科の授業で習ったこの英語表現がこんなふうにも使えるんだ。」という気づきになる場を作っていけたらいいと思っています。生徒の心に火をつけるのは、生徒のニーズに寄り添った動機づけや、授業が『わかる』ことだと思います。
- 黒部市の「英会話科」の存在は全県のみならず全国に誇れる素晴らしい取組だと思いますし、それに携わらせていただいていることを大変誇りに思います。

（2）文部科学省の YouTube チャンネルを視聴して研修（11 月 14 日）

第２回は、文部科学省 mextchannel を視聴し、指導方法について意見交換をした。ALT は別室で同じ動画を視聴し、お互いの気づきを共有したり、授業で生かすことができる点について意見交換をしたりした。また、同じ動画を視聴することで、後日、日本人の指導者と意見を交わすことができるようにした。

【小】【外国語】言語活動を通して、「話すこと［発表］」における資質・能力を高める～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図りながら～ - YouTube



Mextchannel を視聴するのは初めての先生も・・・。



岡崎先生はグループ協議にも参加され、そのまま指導助言へ。



動画内の小学校外国語科の授業に釘付けの ALTｓ。意見交換も活発でした。

〔事後アンケートより〕

- 岡崎先生の講義には、毎回「気付き」があり、大事なことを意識し直させてもらえます。今回は、「１つの授業で最低５回はこども同士のやり取りの場を設けること」の大切さです。意識して授業に臨もうと思います。
- 以下ような授業作りのヒントをいただきました。
  「場面を変えて何度も飽きずに会話練習ができる場面設定をすること」
  「生徒に活動に対する明確な目的意識をもたせ、会話で取り組みやすいトピックや会話の出だしの質問を会話が続きやすいように工夫して提示すること」
  「話すときに柔軟に会話を変化させたり質問をしたり、自分の思いを伝えられる場面設定」
- 1 時間でのやりとりの量の目安が参考になりました。子供の興味に合わせて内容を考え、すぐにでもたくさんのやりとりをさせ、英会話を楽しませようと思いました。教師の価値付けも効果的だと思ったので、やりとりの中でも具体的に子供の姿を褒めてあげたいと思いました。できれば ALT の先生にもお手伝いしてもらい、評価してもらおうと思います。
- 担任と ALT、そして子供同士での協働的な活動の役割分担が大切。
- 「ただの活動で終わらせず、学んだフレーズを次の授業でも使えるように定着させられるか」について考えさせられた。小学校低学年は、新しい言葉に触れることが多く、既習事項となると前学年のものとなることが多い。こちらが工夫する必要があると感じた。
- 研修を通して、単元計画や子どもたちへの動機付けの大切さを改めて感じた。今回は中学校の ALT の先生への自己紹介ということを目当てに取り組んだことで「こんなことを話したい」という思いをもって取り組むことができていた。英語に限らず、言いたいから話す、やりたいを出していける環境をつくっていきたいと改めて思った。
- I was happy to see the other English class’s performance and compare and contrast our methods, and see how their methods can apply to Kurobe’s students.

（３）ＩＣＴ機器の活用についての研修（１２月１０日）

今年度の第３回は、清明中の成瀬教諭にＩＣＴ機器の活用について事例を提案していただいた。普段の活用例として、デジタル教科書を活用して動画視聴できることで教員の準備する教材のスリム化、教科書のコンテンツの活用やシャドーイング等の活動による発音練習の容易化、教科書の英文を写し出して説明するなどの板書の簡略化等について紹介していただいた。






〔事後アンケートより〕

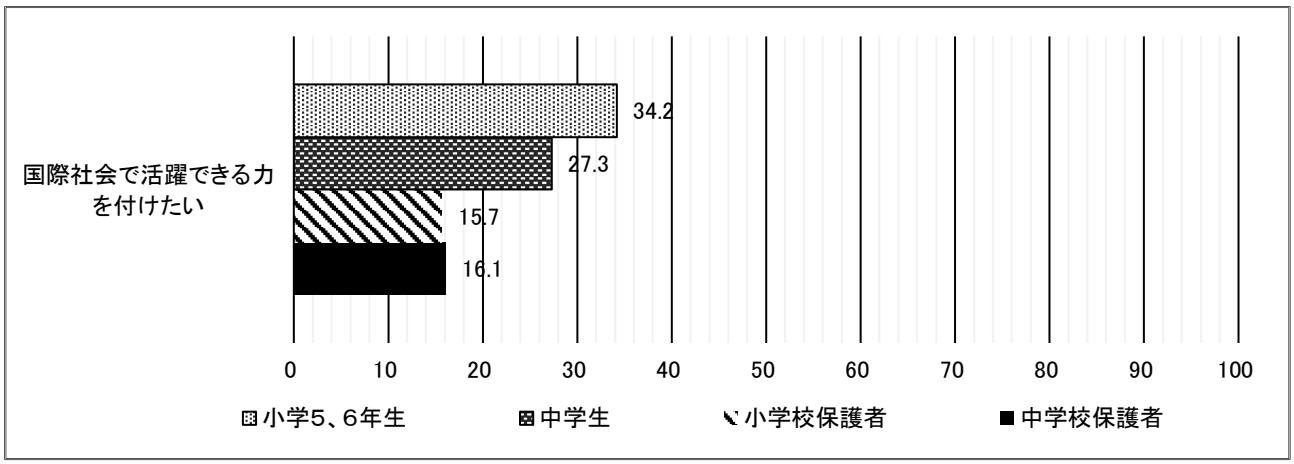
- 外国語科だけに限らず、授業内での ICT 機器の活用方法について考えるよい機会となった。特に最近の学習の個別最適化においては、自分の進度に合わせて学習を進めたり、気になるところを繰り返し取り組んだりできることや、動画による学習もできるというところは今後の指導に活かしていけると思った。

３　英会話科等の学習に関するアンケート結果

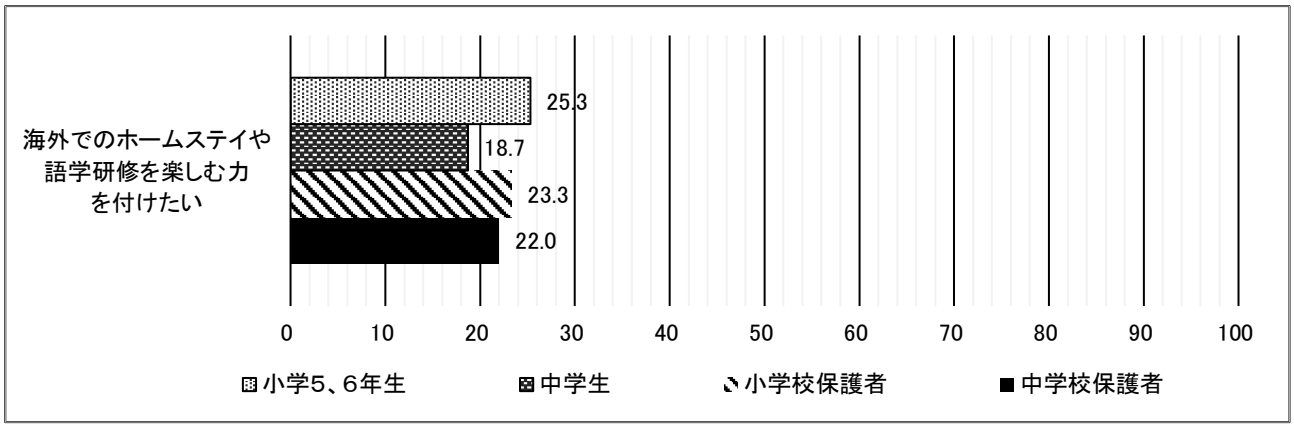
《英語の学習で身に付けたい力【児童生徒アンケート（９）】》

市内の小・中学校の保護者と小学５年生から中学３年生までを対象に「英語の学習で身に付けたい力」についてのアンケート調査（７項目選択式、複数回答可）を行った（保護者：1,106 人、小学５年生：316 人、小学６年生：233 人、中学１年生：270 人、中学２年生：284 人、中学３年生：312 人）。

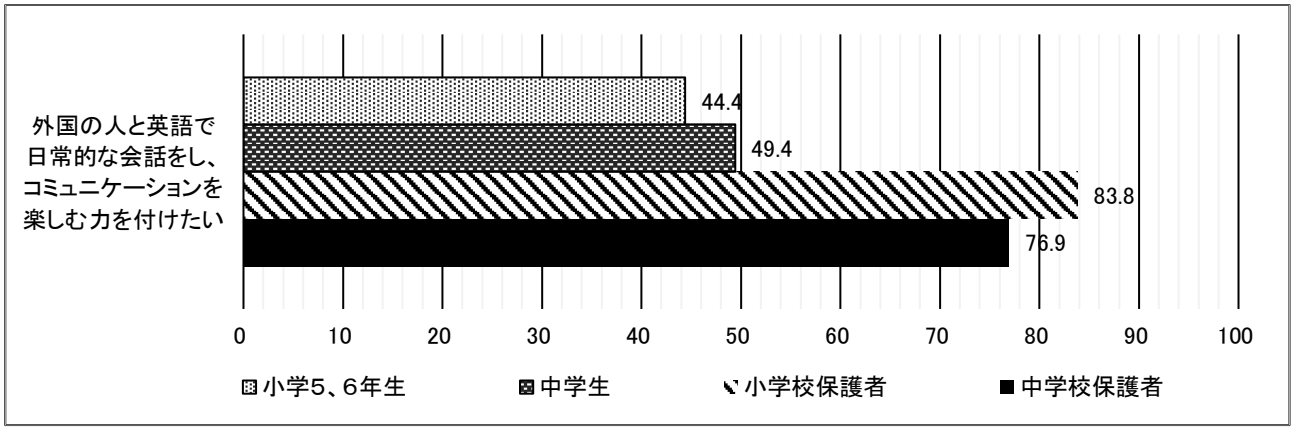
a　国際社会で活躍できる力を付けたい



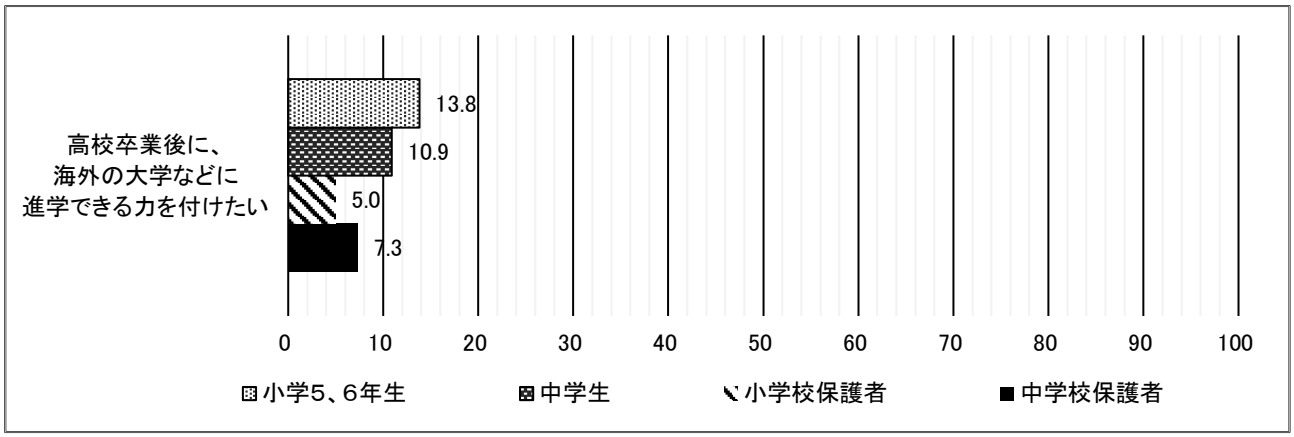
b　海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい



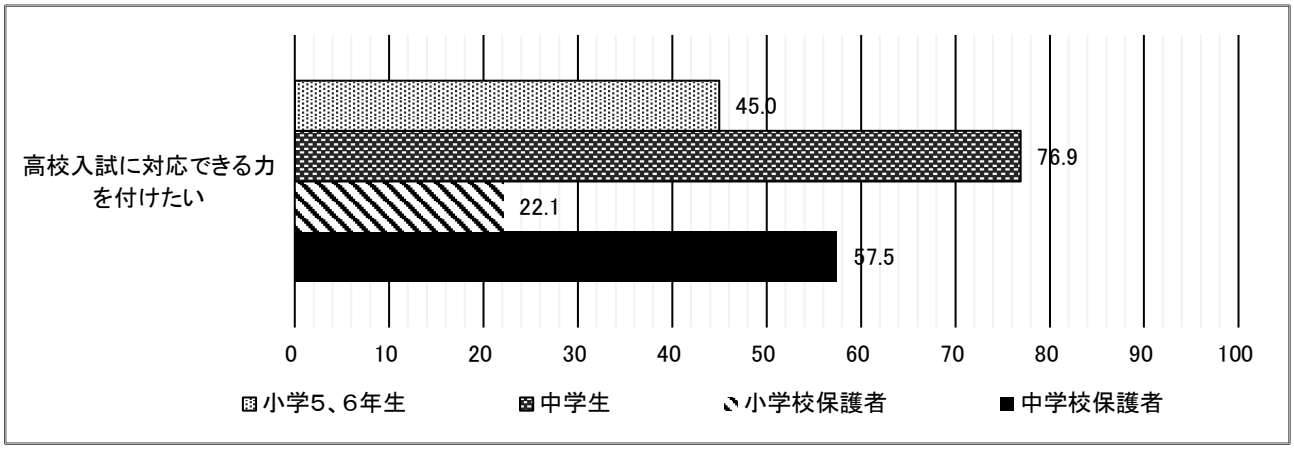
c　外国の人と、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい



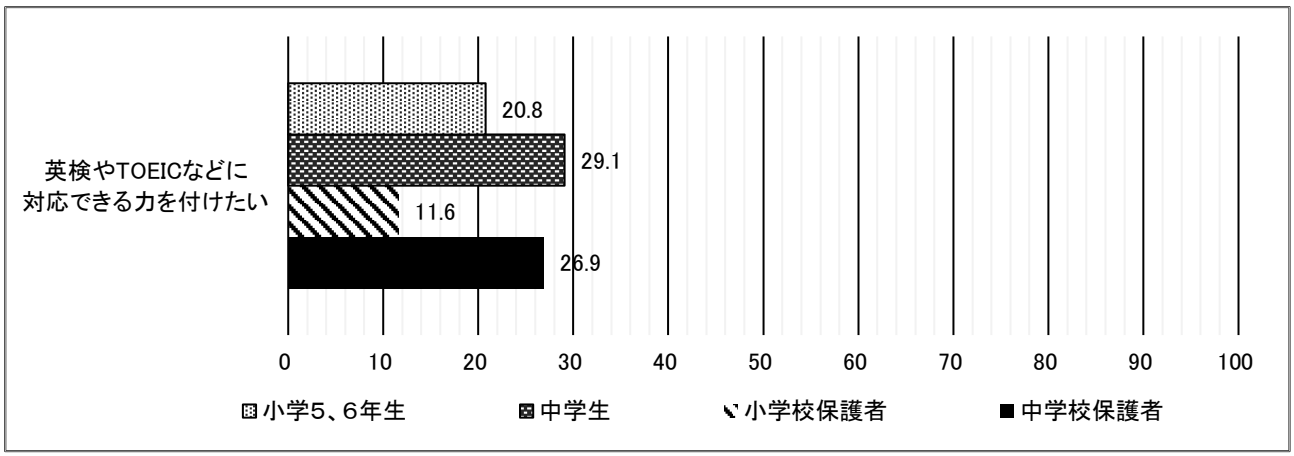
d　高校卒業後に、海外の大学等に進学できる力を付けたい



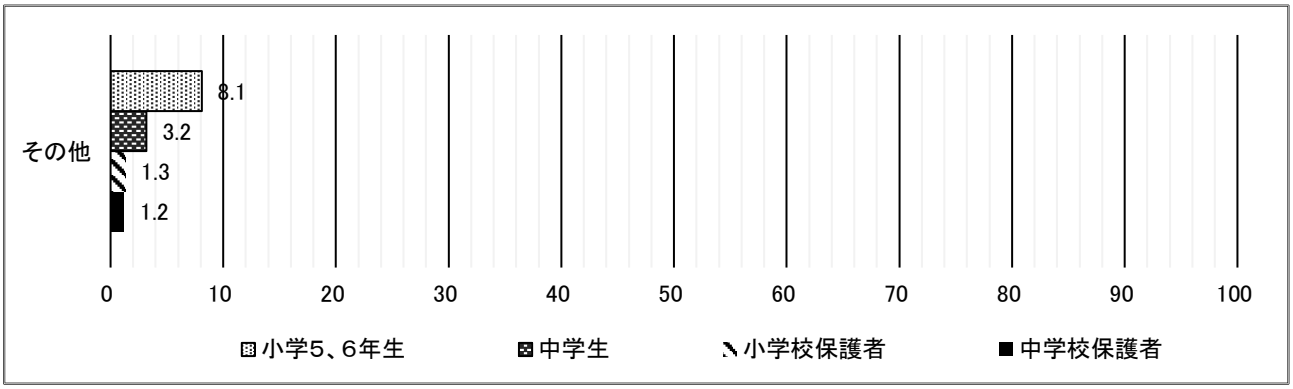
e　高校入試に対応できる力を付けたい



f　英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい



g　その他



〈その他の記入にあった主なもの〉

【児童生徒】

・自分の好きな曲の歌詞を英語にして歌ってみたい
・翻訳をたくさんしたい
・サッカーで外国に行って仲間と喋れる力をつけたい
・ユーチューバーとして、外国の人もわかるように英語でもできるようにしたい
・パイロットになって管制官と英語で交信したい
・英語を教える人になりたい
・旅行などに行ったとき、それなりのことは話せる力をつけたい
・観光客の方とコミュニケーションを取れるようになりたい
・英語の曲を翻訳せずに原曲で聞けるようになりたい
・大学で論文を読むときに役立てたい

【保護者】

・サマーキャンプに参加し、とても英語が好きになった。とても貴重な経験ができて良かった。
・授業を参観したが、とても高度でかつ分かりやすい内容で驚いた。今後もこのように進めてほしい。
・ＡＬＴの先生の英語を直接聞き、会話を体験できることは、子どもたちにとって貴重な学習の機会だと感じています。こうした体験を通して、子どもたちには、国籍を問わず楽しくコミュニケーションできる力を育んでほしいと思っています。毎年、公開してくださりありがとうございます。

〈アンケート結果から〉

・全ての項目の中で１番割合が高かったのは、児童生徒では「e 高校入試に対応できる力を付けたい」、保護者では「c 外国の人と、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい」であった。いずれの項目も、昨年度に引き続き関心が高くなっている。
・「b 海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい」「f 英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい」の割合が昨年度よりも高くなっている。特に、「f 英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい」と回答している小学生の割合が7.8%も増加している。今後も、黒部市の姉妹都市交流研修事業や英検検定料補助についての周知をさらに進める。

《児童生徒アンケート》

市内の小学校１年生から中学校３年生までを対象に、アンケート調査（自分のことを振り返って記入する、自己評価）を行った。

【実施時期】　令和７年 11 月４日～令和７年 11 月 28 日

【実施校数】　小学校９校、中学校２校　※市内全小・中学校

【回答人数】　小学校・・・　１年生　274 人、２年生　254 人、３年生　297 人
４年生　276 人、５年生　316 人、６年生　233 人
中学校・・・　１年生　270 人、２年生　284 人、３年生　312 人

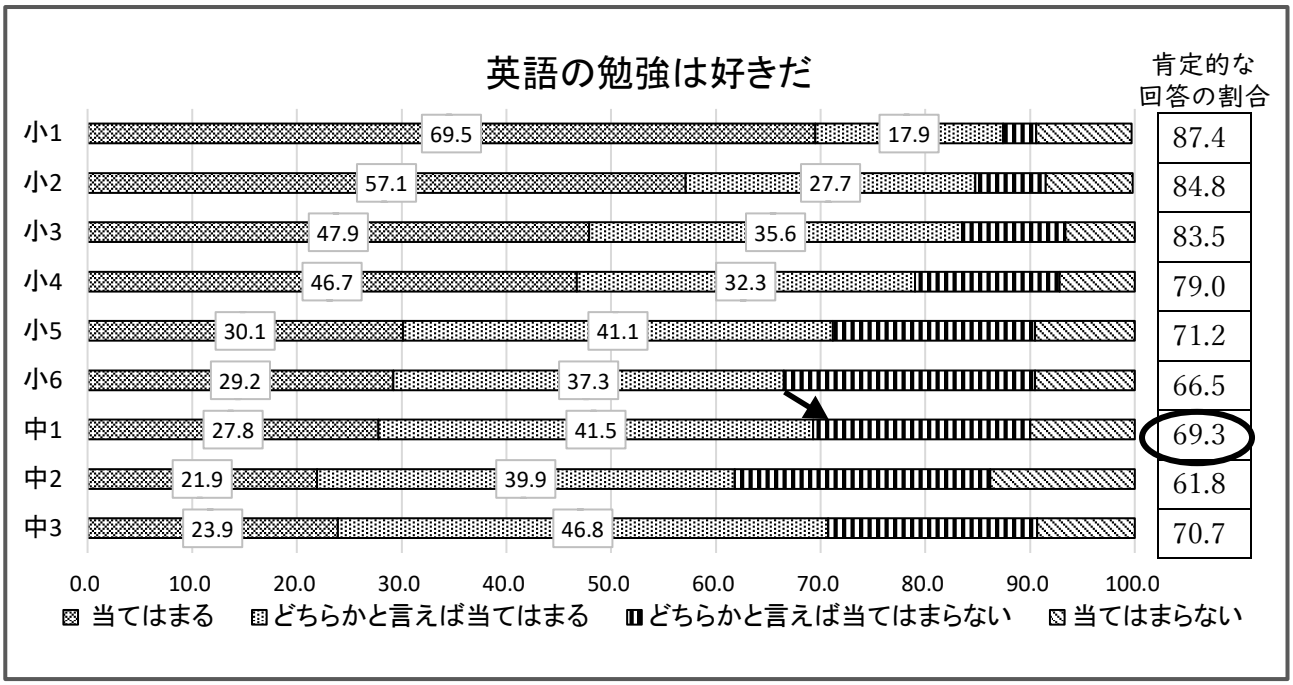
※（参考）令和６年度の回答人数
小学校・・・　１年生　274 人、２年生　296 人、３年生　296 人
４年生　341 人、５年生　305 人、６年生　256 人
中学校・・・　１年生　280 人、２年生　291 人、３年生　316 人

【質問項目】　〈英語や英会話等の学習に対する興味関心について〉
（１）「英語の勉強は好きだ」
（２）「英語の勉強は得意だ」
（３）「英語科や英会話科の授業の内容はよくわかる」
（４）「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」
（５）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」
（６）「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」
（７）「日本や黒部、あなたがすんでいる地域のことを、外国の人にもっと知ってもらいたい」
（８）「これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があった」
（９）英語の学習で身に付けたい力
「あなたは英語を使ってどんなことをできる力を付けたいですか（複数回答可）」

〈英語や英会話科等の学習活動について〉
（10）聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」
（11）読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」
（12）話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」
（13）話すこと（やり取り）
「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」
（14）話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」
（15）書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」
（16）家庭学習「家で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている」

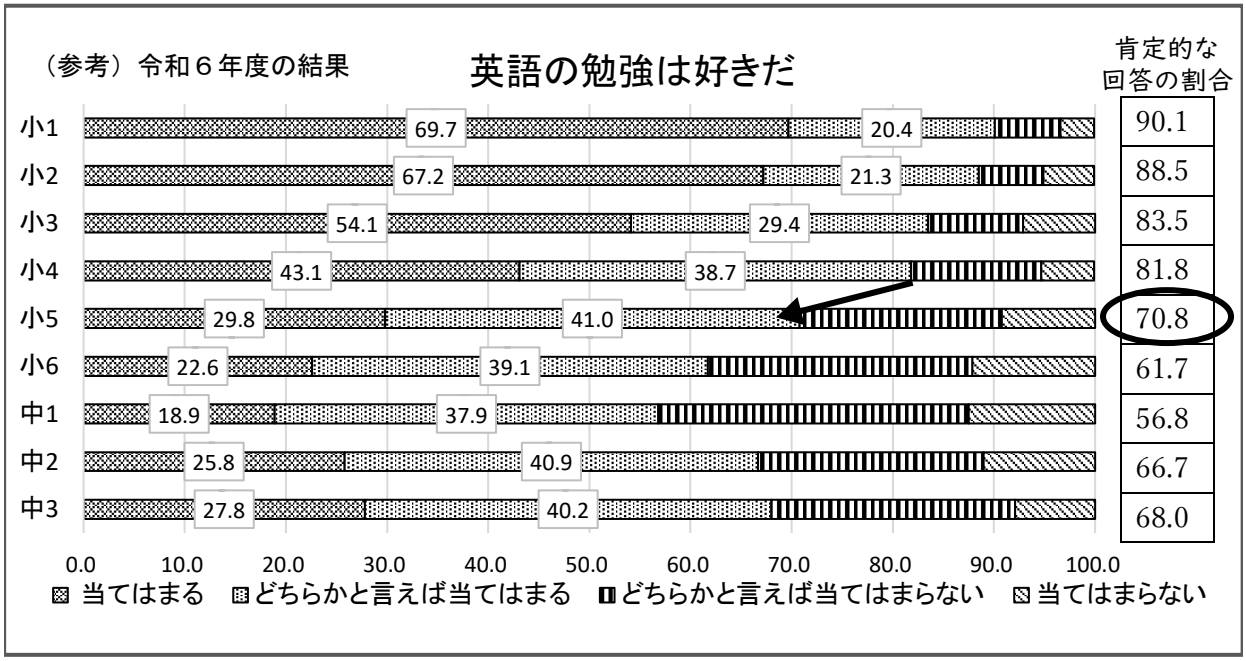
※児童生徒の発達段階に応じた質問数及び質問内容とした。

（１）「英語の勉強は好きだ」

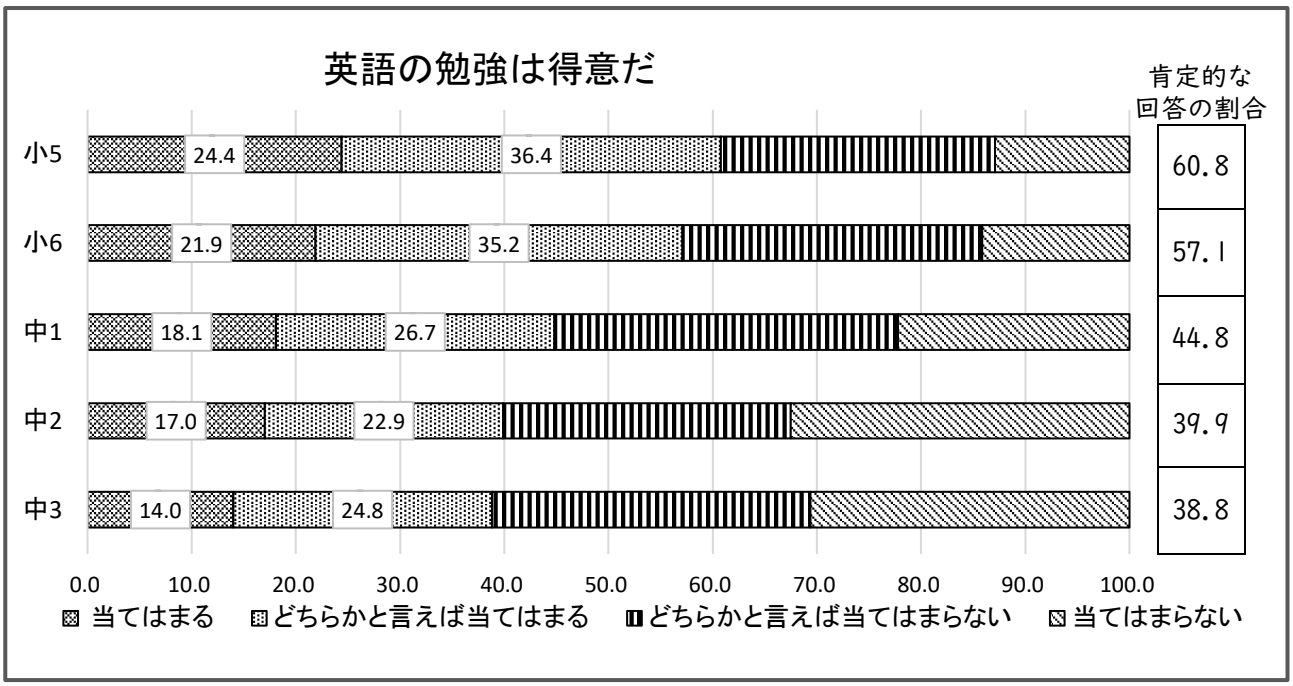


学年が上がるにつれて肯定的な意見（当てはまる、どちらかと言えば当てはまる）の割合が低くなり、中学校で少し増加傾向に転じるところは昨年度と変わらない。特に、外国語科と教科に変わる小学校4年生から5年生の肯定的な意見の割合の減り方は、８ ポイント程度と大きい。一方で、中学校に入ると肯定的な意見が増加傾向に転じている。昨年、小6だった児童が今年中１となり、肯定的な意見の割合が増加している。

今後も、英会話から外国語活動、外国語活動から外国語科、そして小学校から中学校への円滑な接続を意識した指導が大切である。

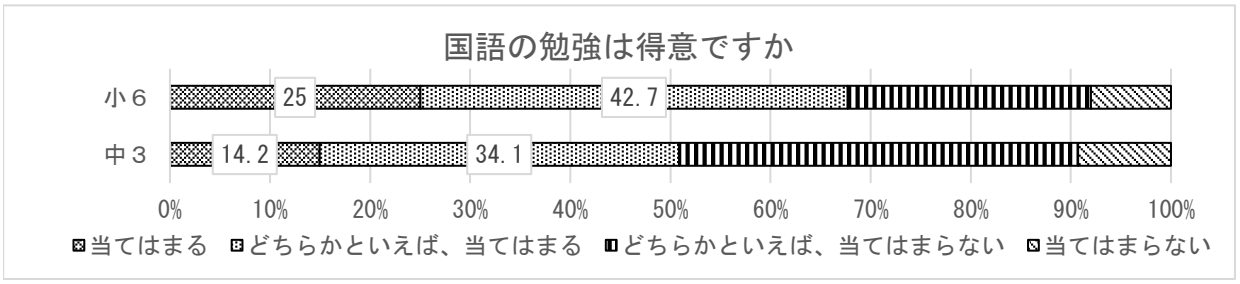


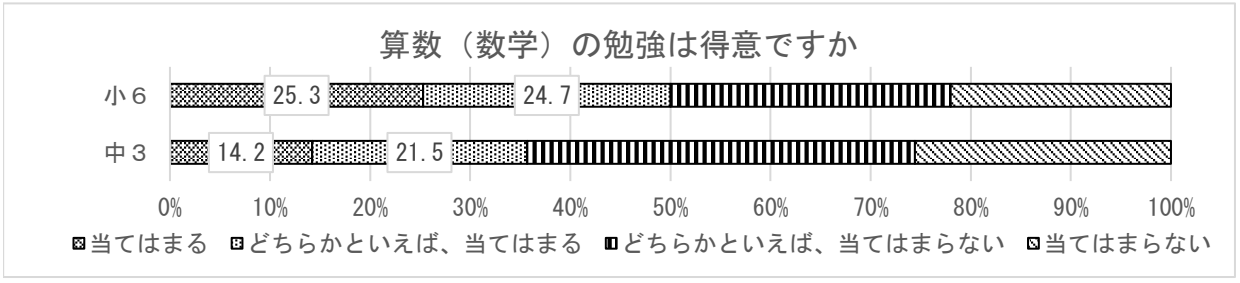
（２）「英語の勉強は得意だ」

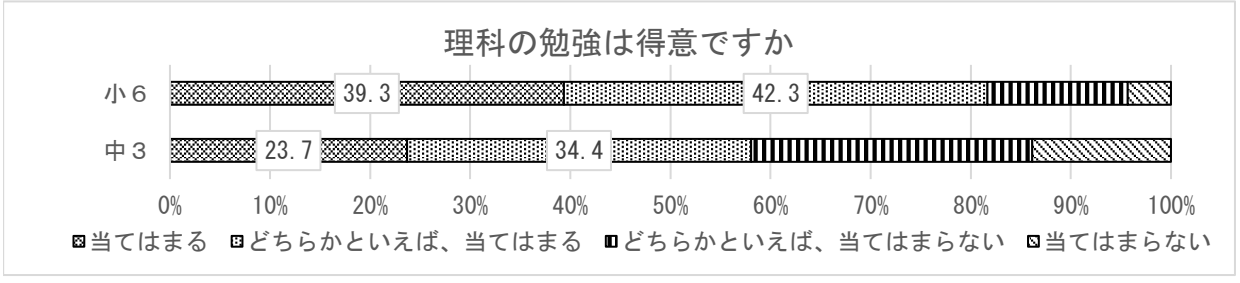


「英語の勉強は得意だ」と感じている児童・生徒の割合は小学校高学年で６割程度、中学校で４ 割程度となっている。「英語の勉強は好きだ」と感じている児童・生徒よりも低い結果となった。また、国語や理科よりも苦手意識が強いことがうかがえる。学習への苦手意識が学習を妨げる要因になる可能性があるので、苦手意識を払拭するような活動の設定や働きかけが求められる。

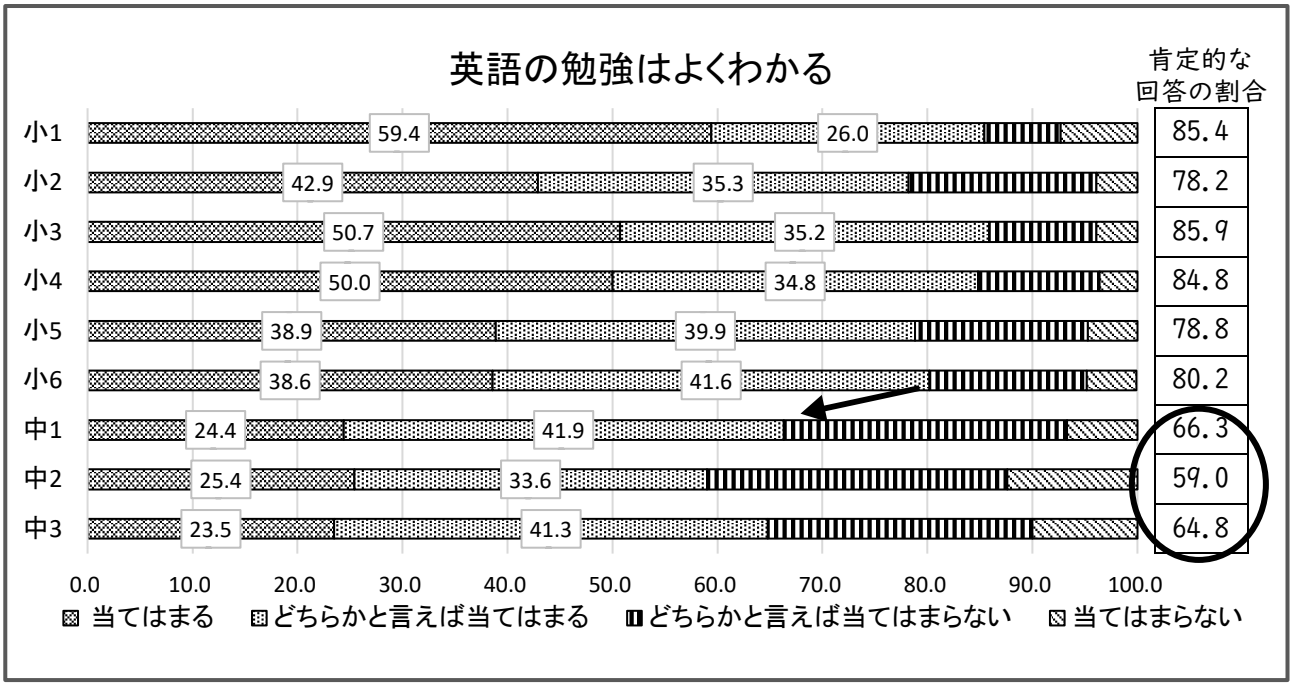
（参考）令和７年度全国学力・学習状況調査の黒部市の結果





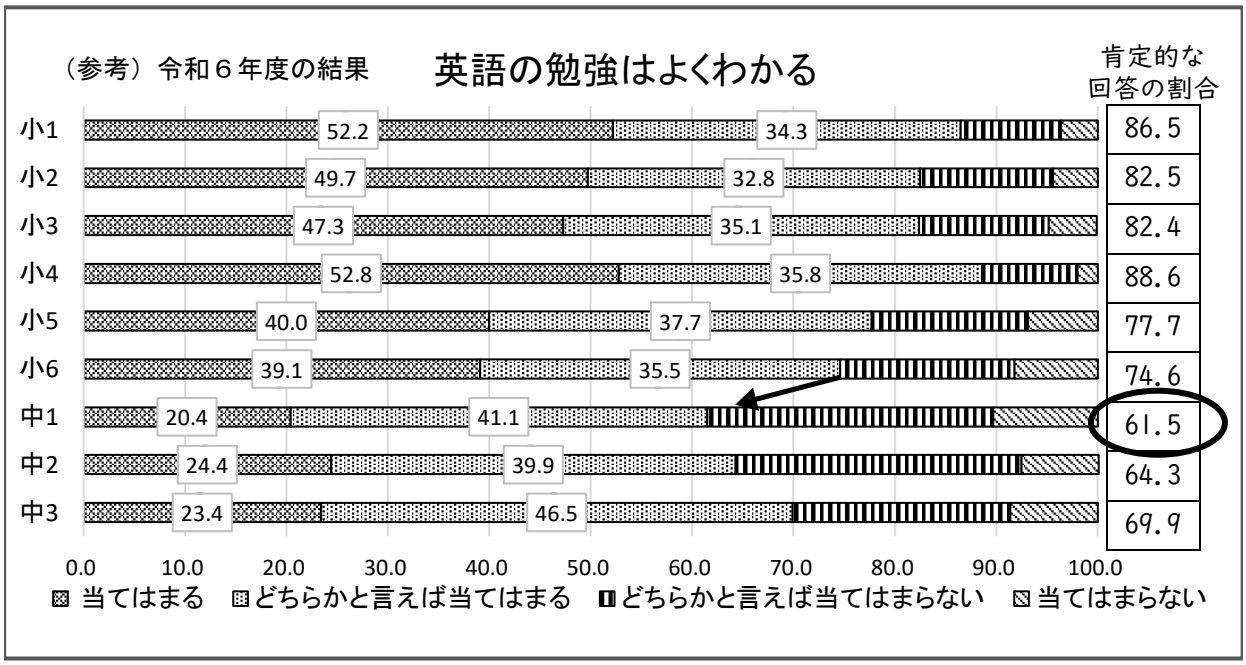


（３）「英語や英会話科の勉強はよくわかる」

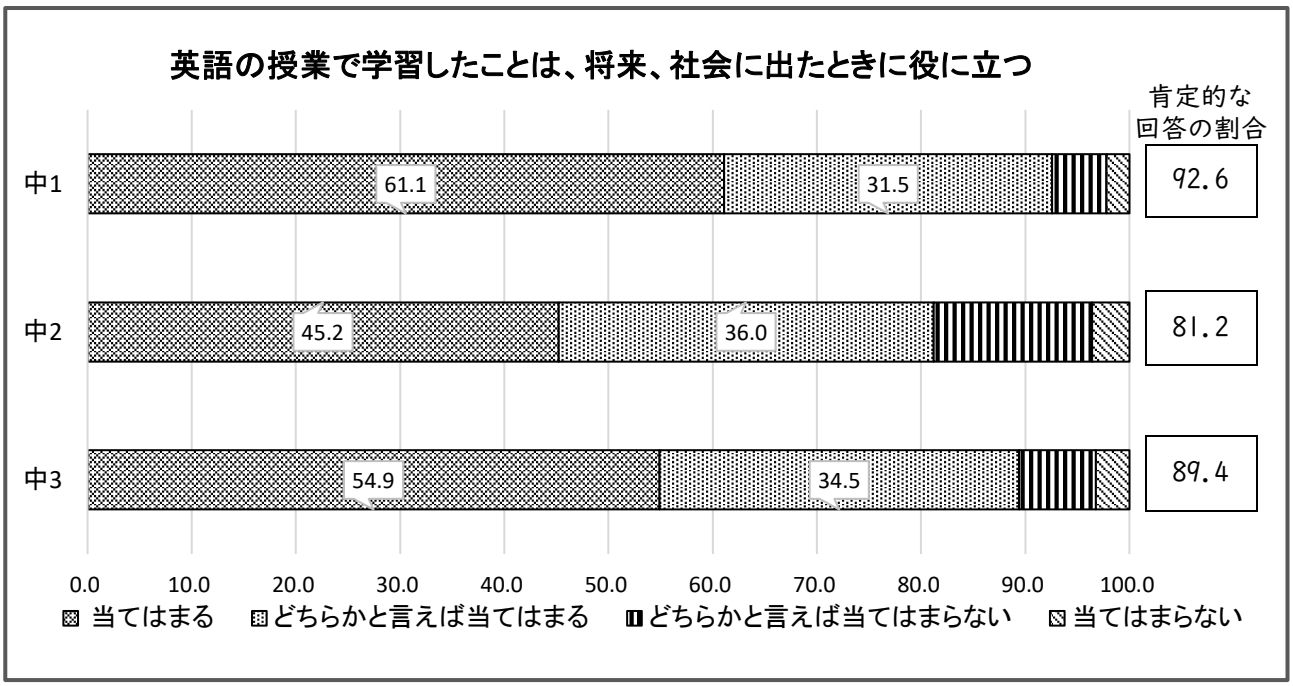


小学校では肯定的な意見の割合が8割程度で、高学年は昨年よりも改善傾向にある。しかしながら、昨年同様小6→中1で肯定的な意見の割合が13.9ポイント減少しており、児童生徒の学びの接続に留意していかなければならない。

専科教員や HRT、ALT、JAT の T・T の在り方、英語を用いたペア、グループ活動等のコミュニケーションの場の設定の在り方、指導方法等を再確認し、児童生徒に寄り添いながら理解度を高められるようにしていきたい。



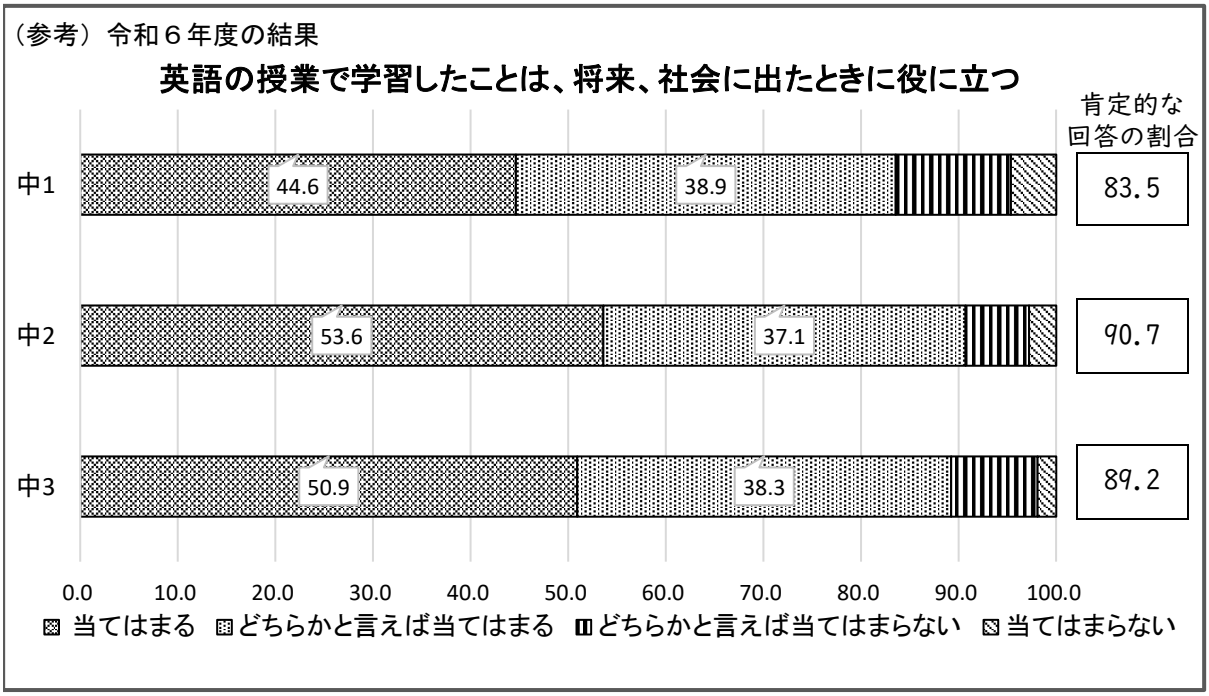
（４）「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」



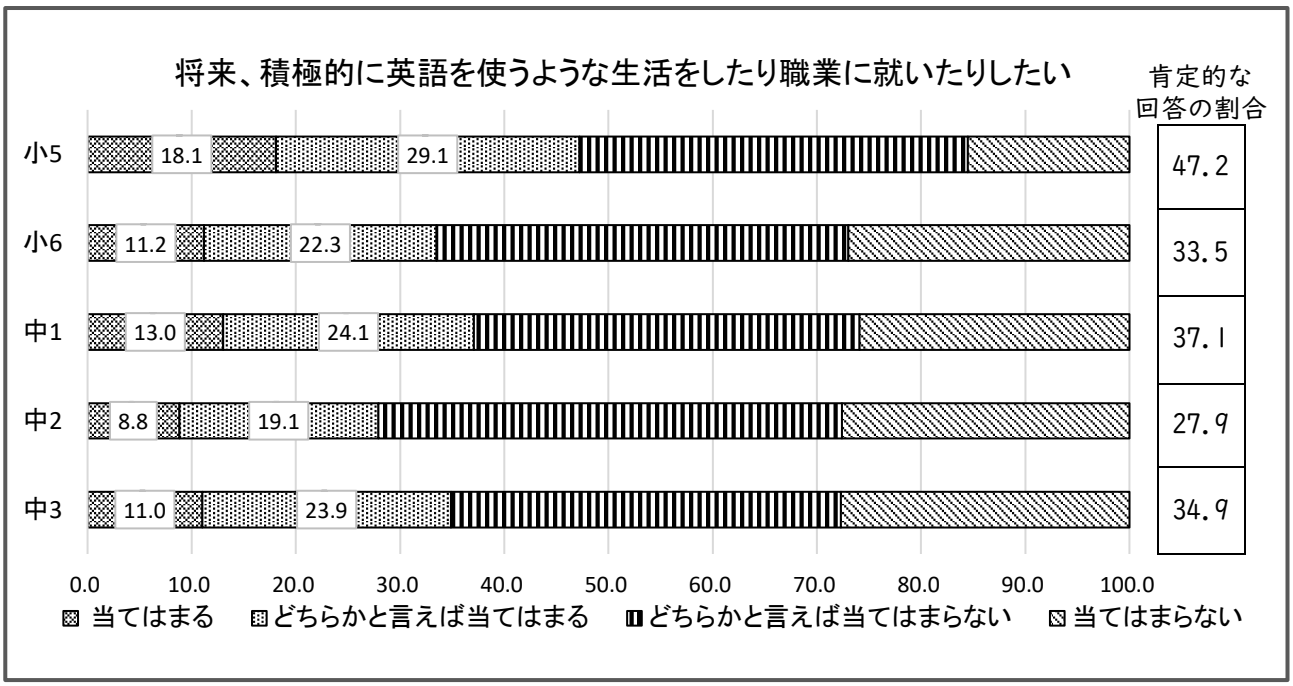
多くの中学生が英語の有用性を感じており、特に中１では昨年度よりも肯定的な回答をした生徒の割合が9.1ポイント増加した。グローバル化が進み、英語によるコミュニケーション能力が生涯にわたる様々な場面で必要とされていることを理解していると思われる。また今年度、市内中学校に姉妹都市から学生が訪問し、より多くの生徒が英語によるコミュニケーションの有用性を実感することができたことも影響しているかもしれない。

コミュニケーションを支えるための文法指導を意識しながら、言語活動が授業の中心となるような学習展開を重視していきたい。

（参考）令和６年度の結果

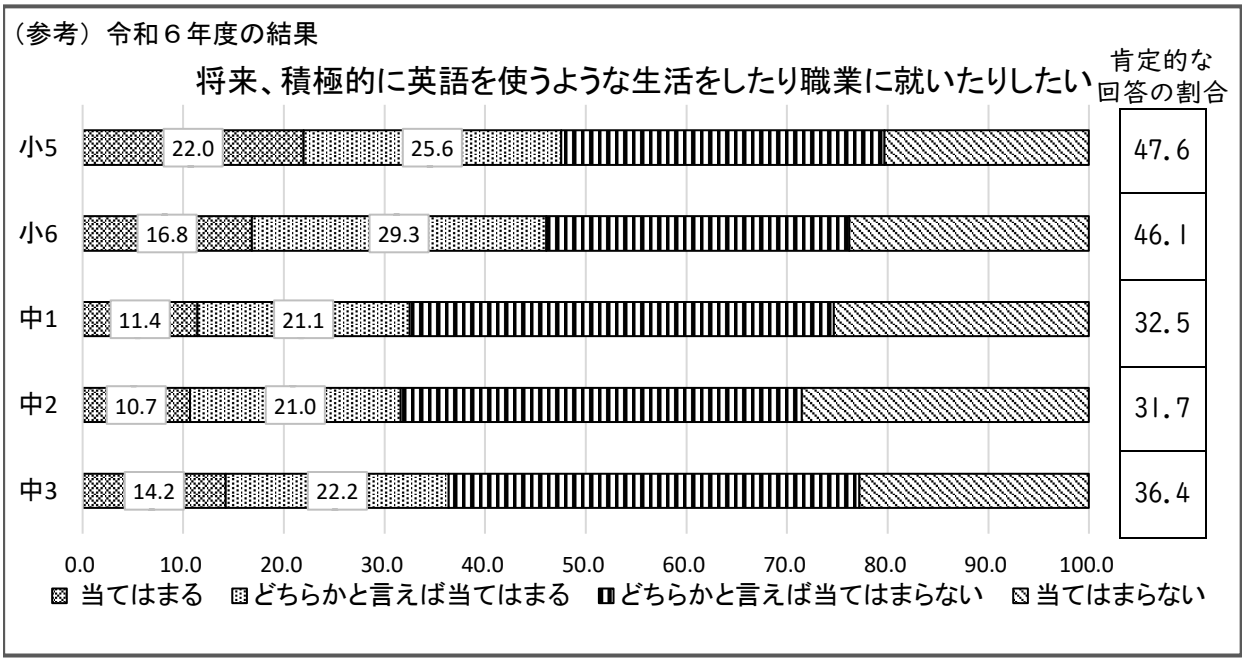


（５）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」

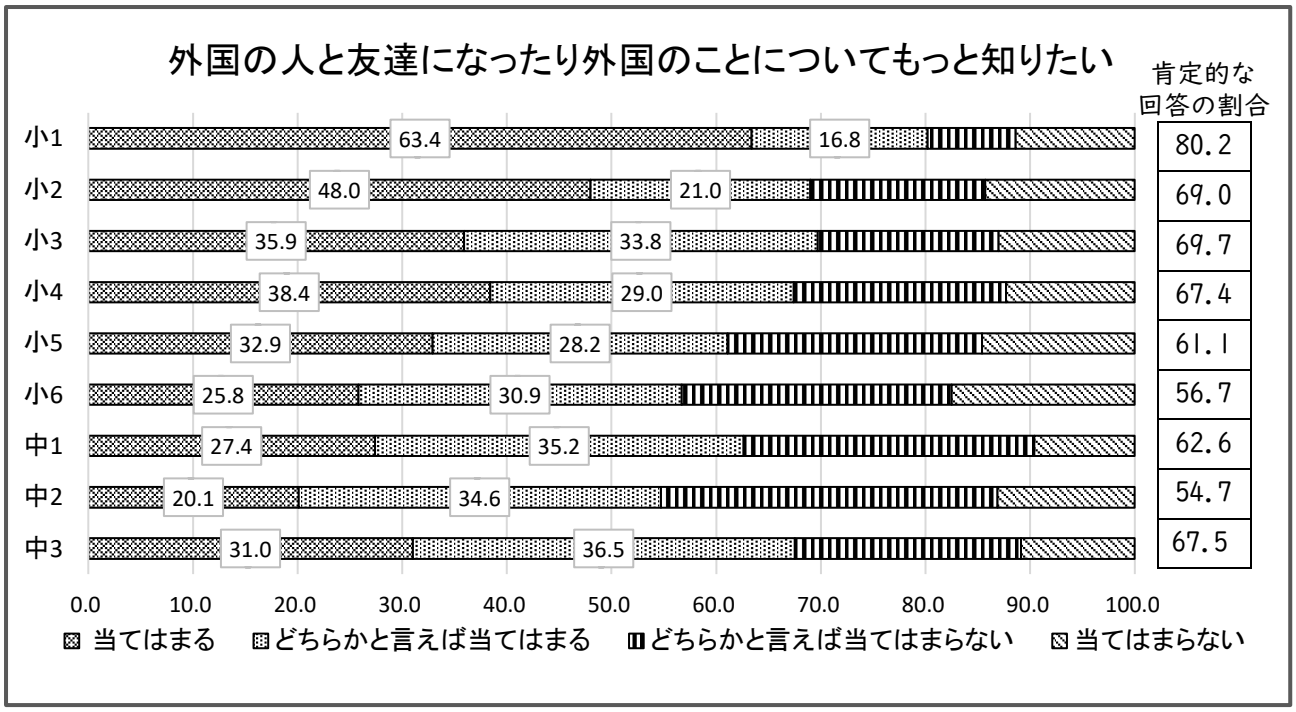


どの学年も肯定的な回答の割合は低めであり、中学生では３割程度となっている。児童生徒は、将来、自分から英語を使うことについてはあまり積極的ではないと言える。しかし、自由記述欄でパイロットや英語の先生、海外で活躍するスポーツ選手等になる夢を具体的に記述している児童生徒も多い。また、（2）や（4）の回答結果からも分かるとおり、多くの児童生徒は英語の重要性や有用性を理解している。英語を使うことで自分の世界が広がり、生活が豊かになり、職業の選択肢が増えることに児童生徒が気づくことができるよう、コミュニケーション能力の育成に向けた授業改善をさらに進め、自ら積極的に英語を使う態度を養っていきたい。

（参考）令和６年度の結果



（６）「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」

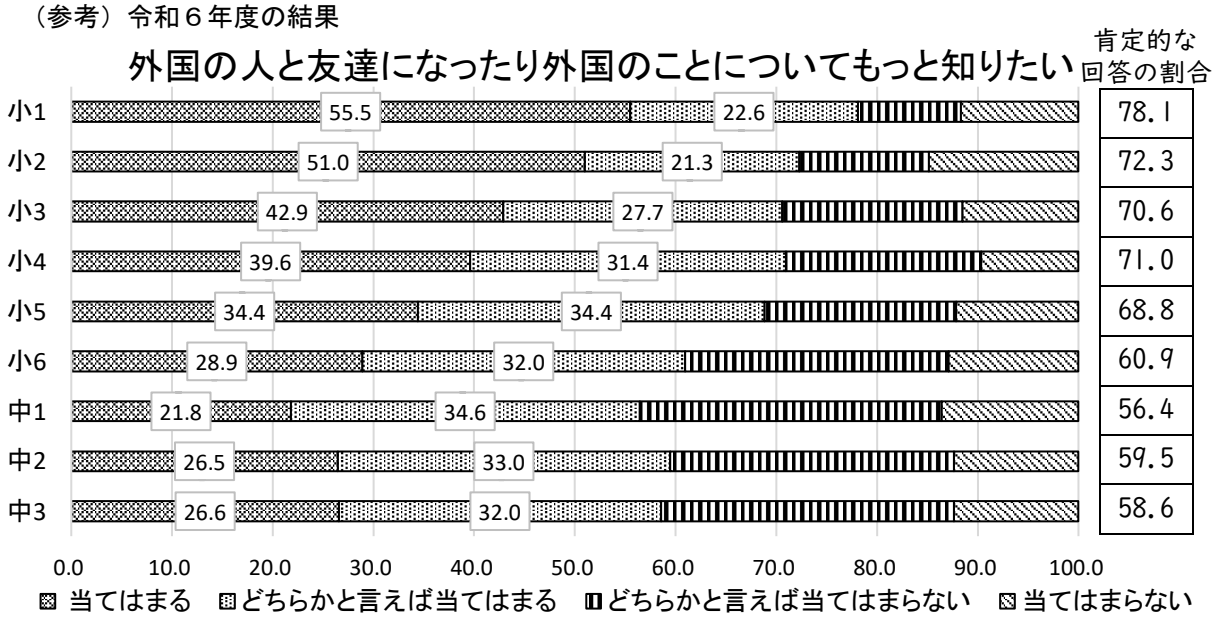


外国や異文化への興味関心については、小学校低学年の頃は 7～８割の児童が肯定的な回答をしているが、学年が上がるにつれ、低くなる傾向にある。

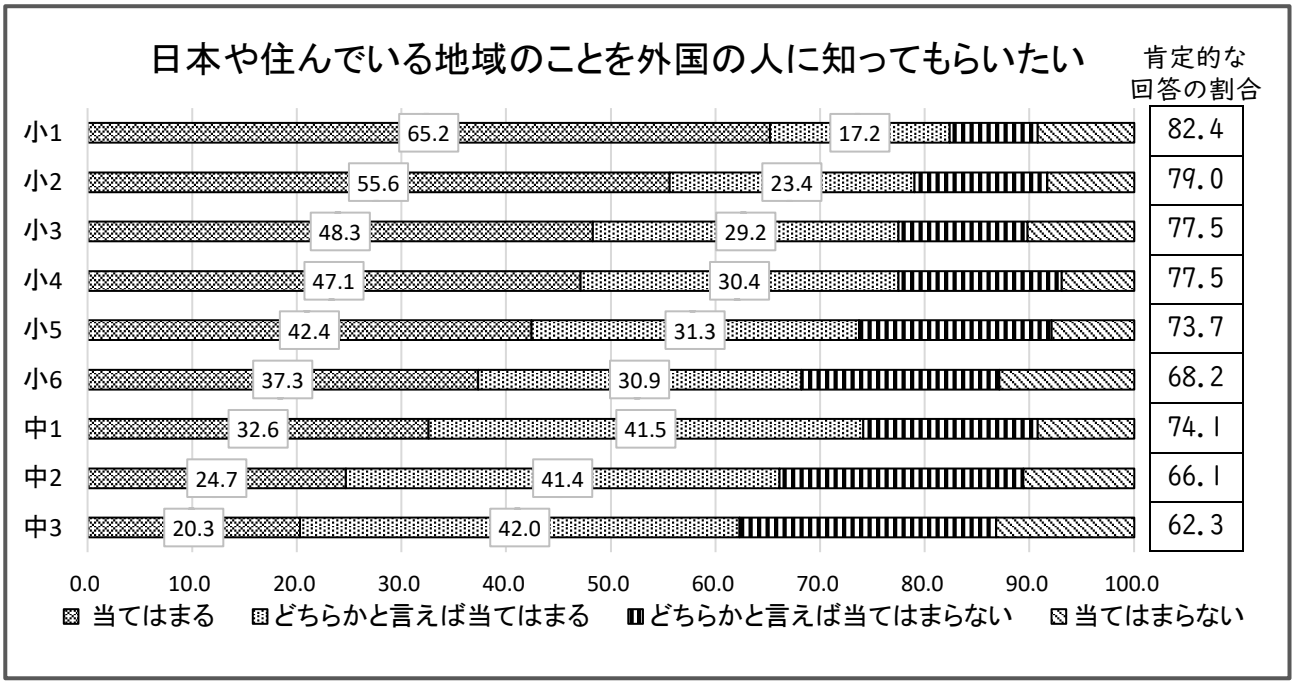
また、昨年度の結果と比較すると、小２～小５において肯定的な回答をした児童の割合が昨年度より減少している。一方で、中学校においては昨年度よりも肯定的な生徒が増加している。

黒部国際化教育の環境を生かし、ALT が外国の文化に触れる授業を行ったり、黒部市姉妹都市交流の活動をよい機会として活用したりするなど、外国を身近に感じ、興味関心を高められるような工夫が望まれる。

（参考）令和６年度の結果



（７）「日本や黒部、あなたがすんでいる地域のことを、外国の人にもっと知ってもらいたい」

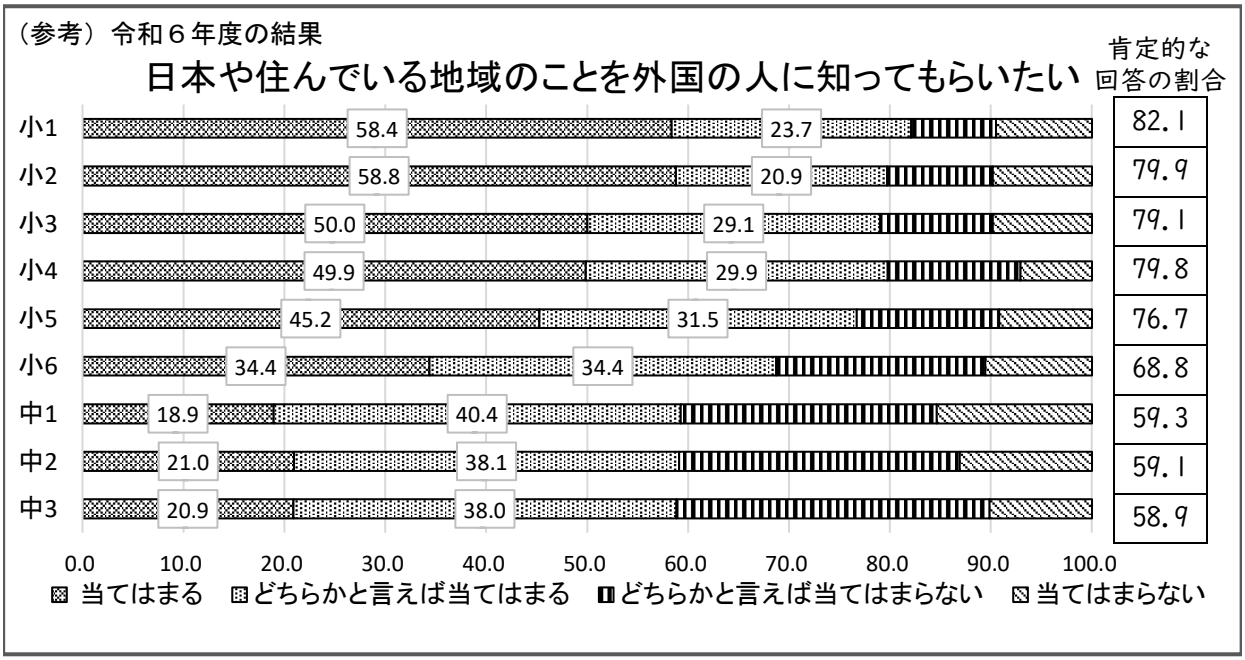


小学校低学年の頃から、日本や黒部等のことを外国の人に知ってもらいたい、という願いをもっていることが分かる。学年が上がるにつれ、その割合は低くなっていっている。

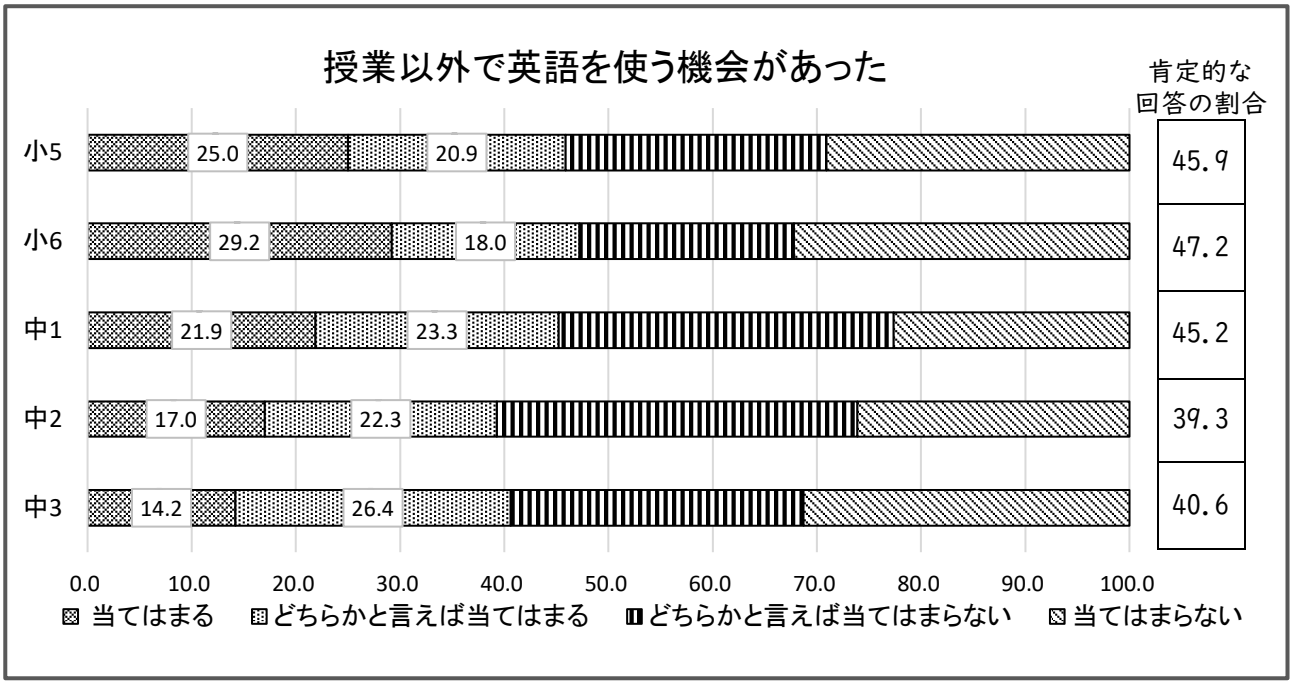
昨年度の結果と比較すると、中学校で肯定的な回答をした生徒の割合が大幅に増加している。特に中１は14.8ポイント増加している。

今後も引き続きふるさと黒部のよさを誇りに思い、愛着をもって、世界に発信しようとする意欲や態度の育成に努めたい。

（参考）令和６年度の結果



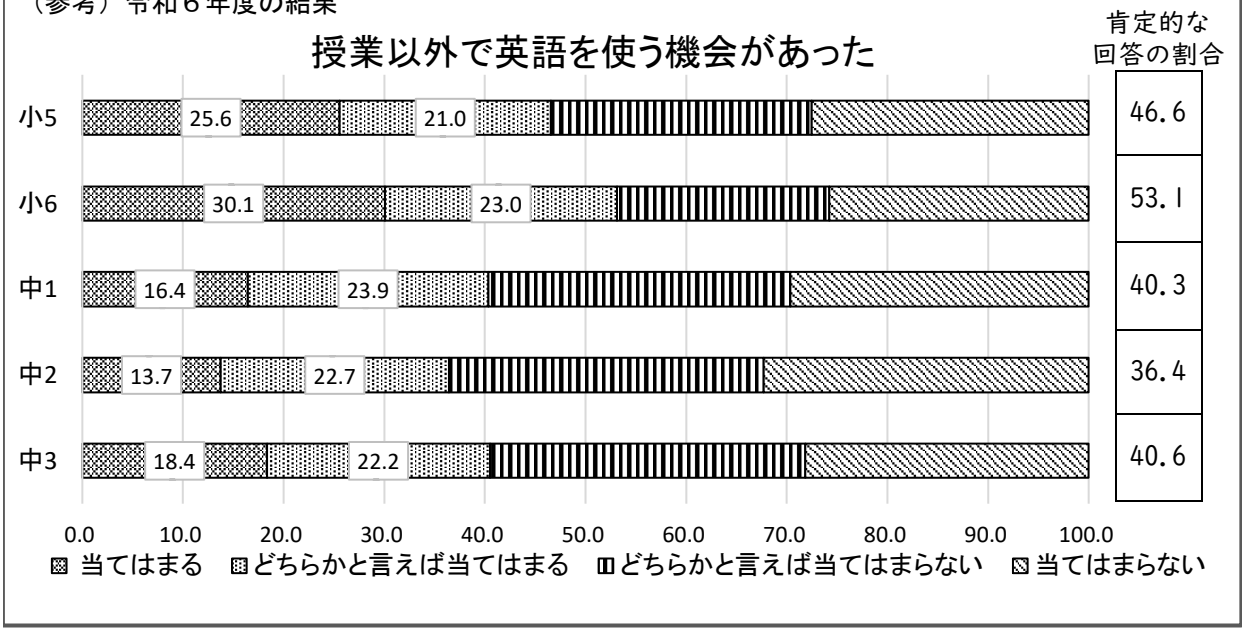
（８）「これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があった」



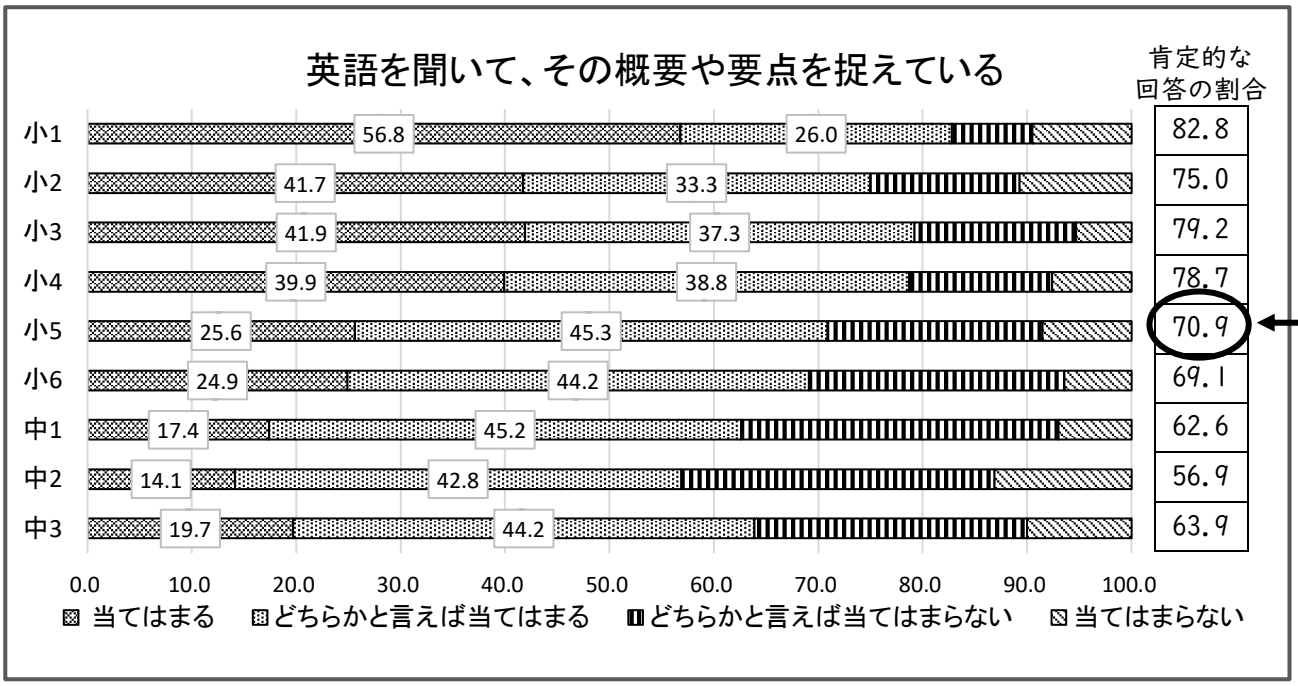
小学校ではおよそ５割、中学校ではおよそ4割の児童生徒が、授業以外で英語を使う機会があったと回答している。昨年度と比べると、小学校はわずかに減少し、中学校は増加している。

小学校では ALT と業間活動で遊んだり一緒に給食を食べたりする、中学校では ALT が部活動に参加するなど、授業以外の時間にALTとふれあうことで英語を使うよい機会となっていると思われる。また、メーコン・ビブ郡との姉妹都市交流による学生受入があり、より多くの中学生が交流する機会があったことも、授業以外で英語を使うよい機会となった。姉妹都市交流やサマーキャンプ等英語を使う機会の充実を今後も図っていきたい。

（参考）令和６年度の結果

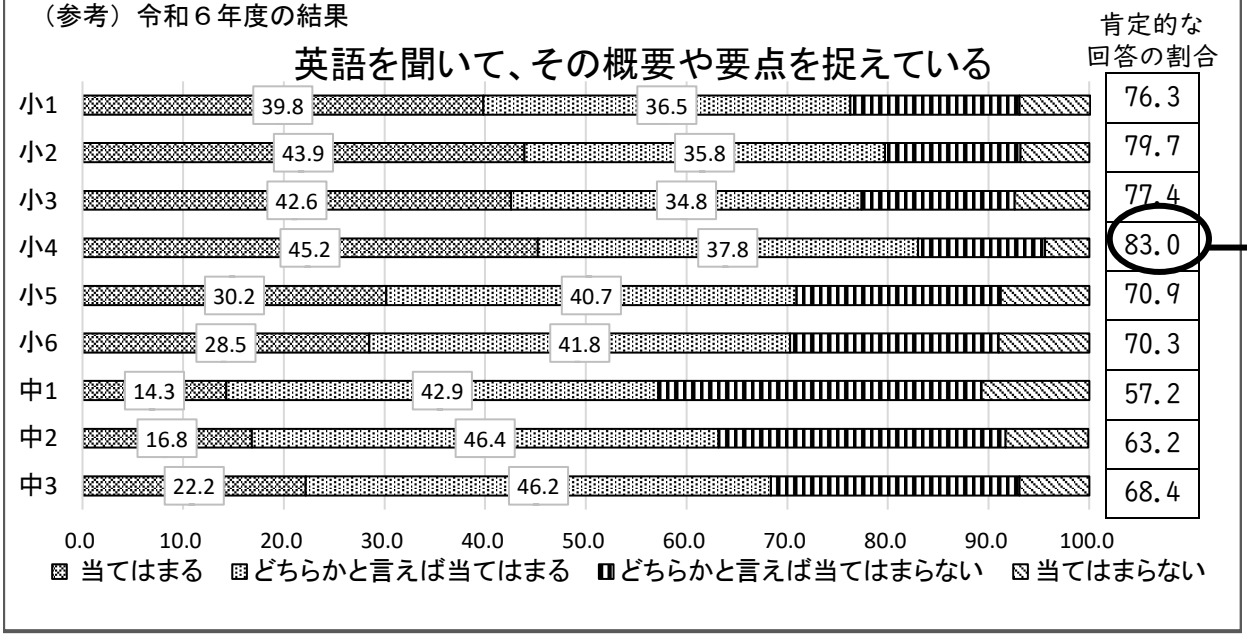


（10）聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」

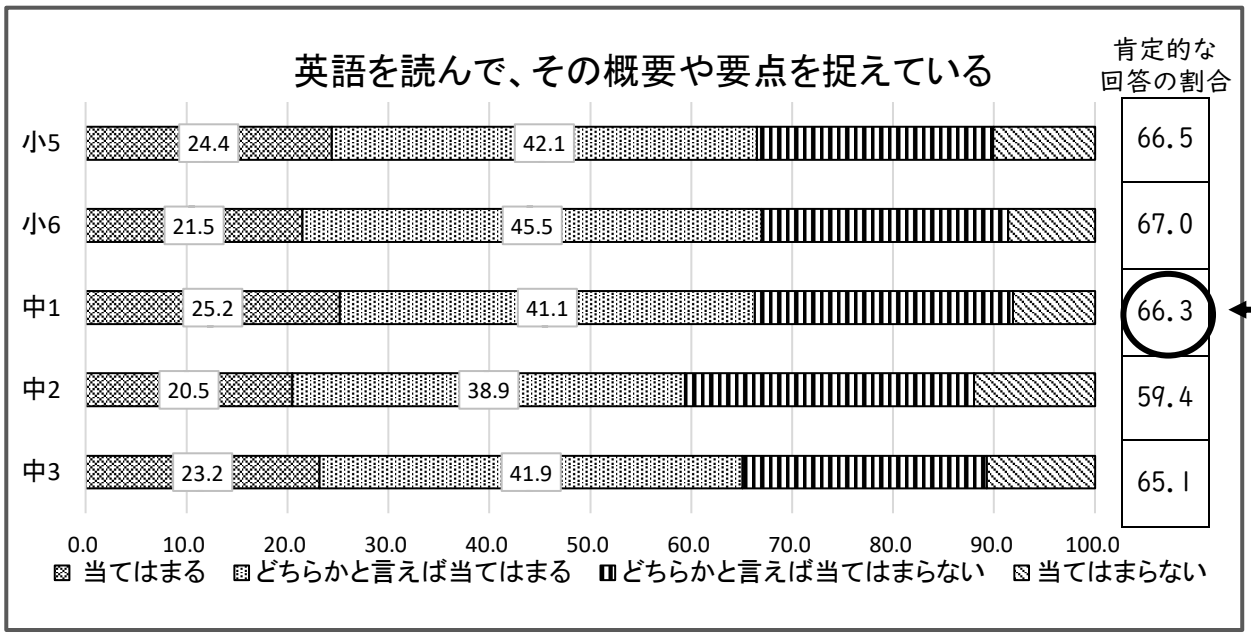


小学校の肯定的な意見の割合は7割台～8割台、中学校は6割前後となっている。学年が上がるにつれて、肯定的な回答の割合が減少傾向にあるが、特に今年の小５では小4の頃よりも肯定的な意見の割合が12.1ポイントも減少している。外国語活動から外国語科に変わり、単語が増えセンテンスが長くなるため概要や要点を捉えることが難しくなっているようである。すぐに日本語に訳すのではなく、英語で話す速度を変化させながら複数回聞かせる、大切なワードを強調する、聞く視点を与えるなど、児童生徒が内容を類推しながら聞くことができるように工夫していくことで「分かった」と思えるようにしていきたい。

（参考）令和６年度の結果

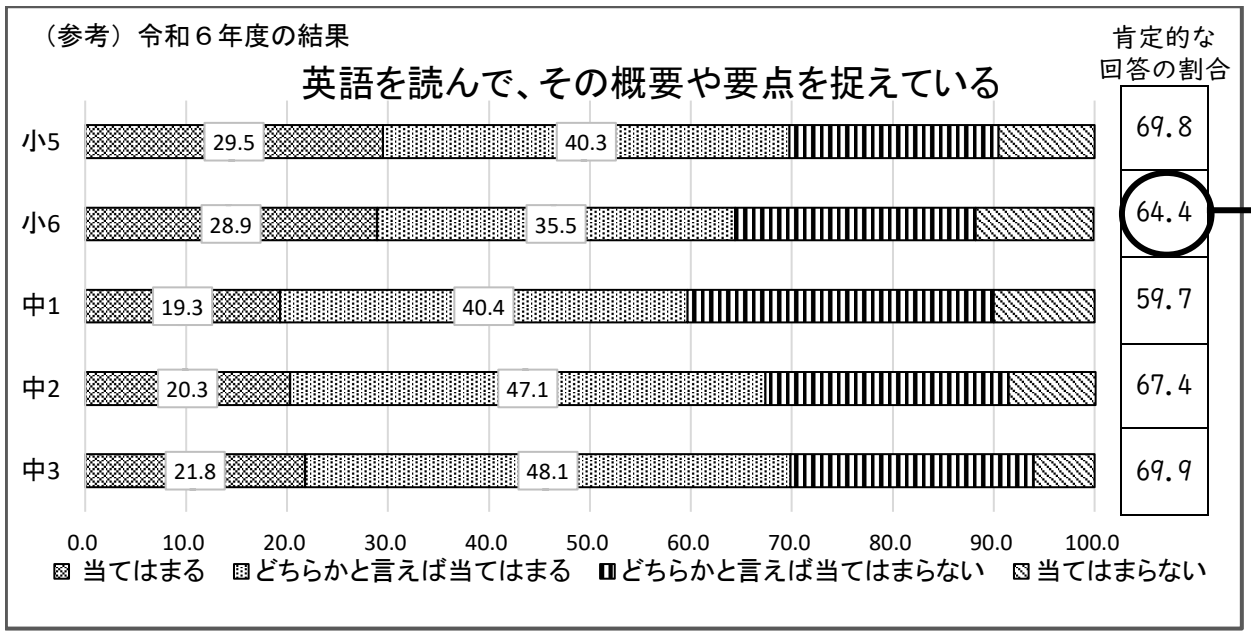


（11）読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」

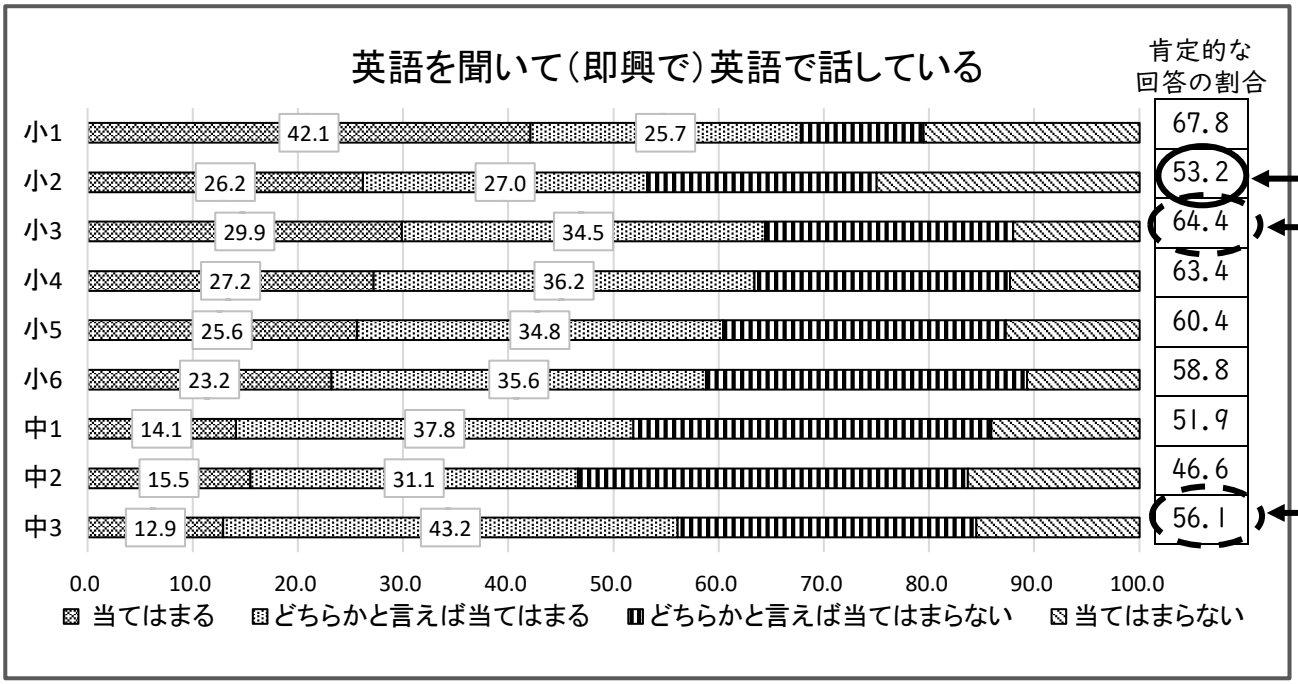


小学校の肯定的な意見の割合は6割台、中学校は6割前後となっている。

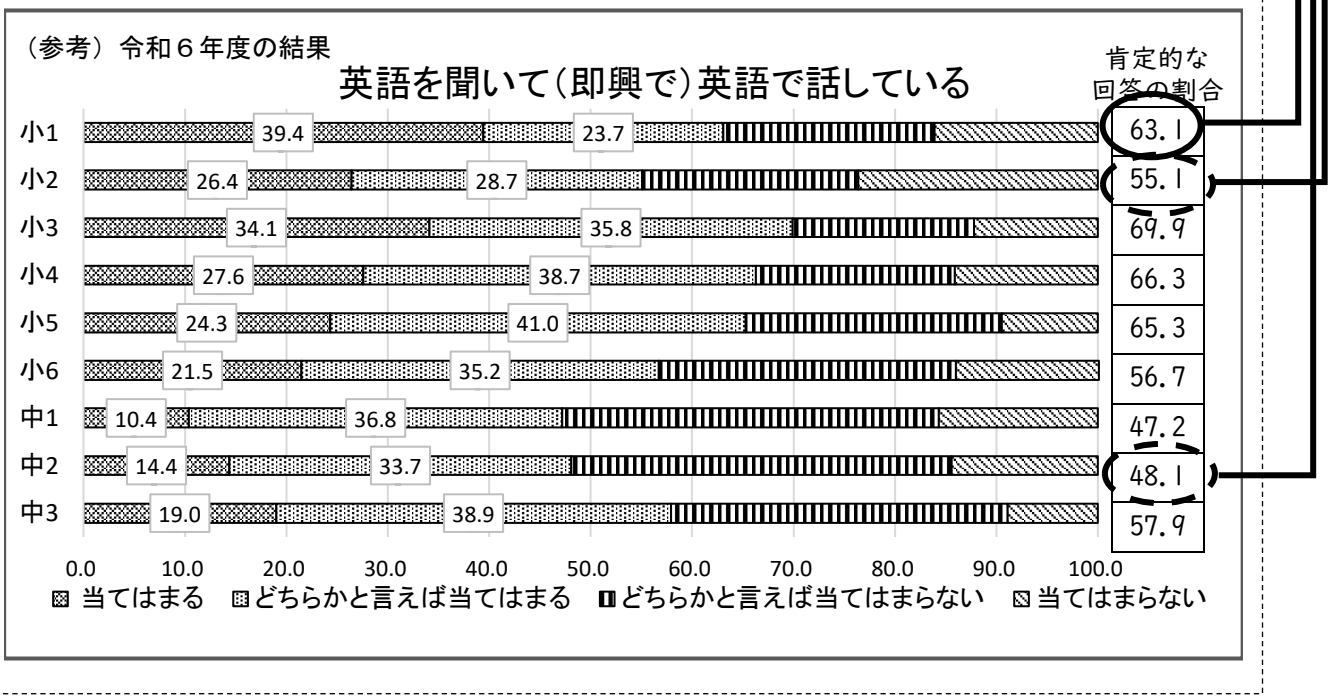
昨年度のグラフと比較すると、現中学1年生の生徒は昨年度よりも肯定的な意見の割合がやや増えている。中学校に入り単語が増えて難しくなったり、文章が長くなったりすることが考えられるが、「読むこと」についてはスムーズに接続しているようである。一方で、「読むこと」に抵抗が見られる児童生徒はどの学年にも3～4割程度いる。段階を追った指導を心掛け、「読むこと」に自然に慣れながら習得できるようにしていきたい。また、すぐに日本語に訳すのではなく、キーワードを見付ける、読む視点を与えるなど、児童生徒が大まかな内容を捉えたり、最も伝えたい内容を捉えたりすることができるように工夫していくことが大切である。



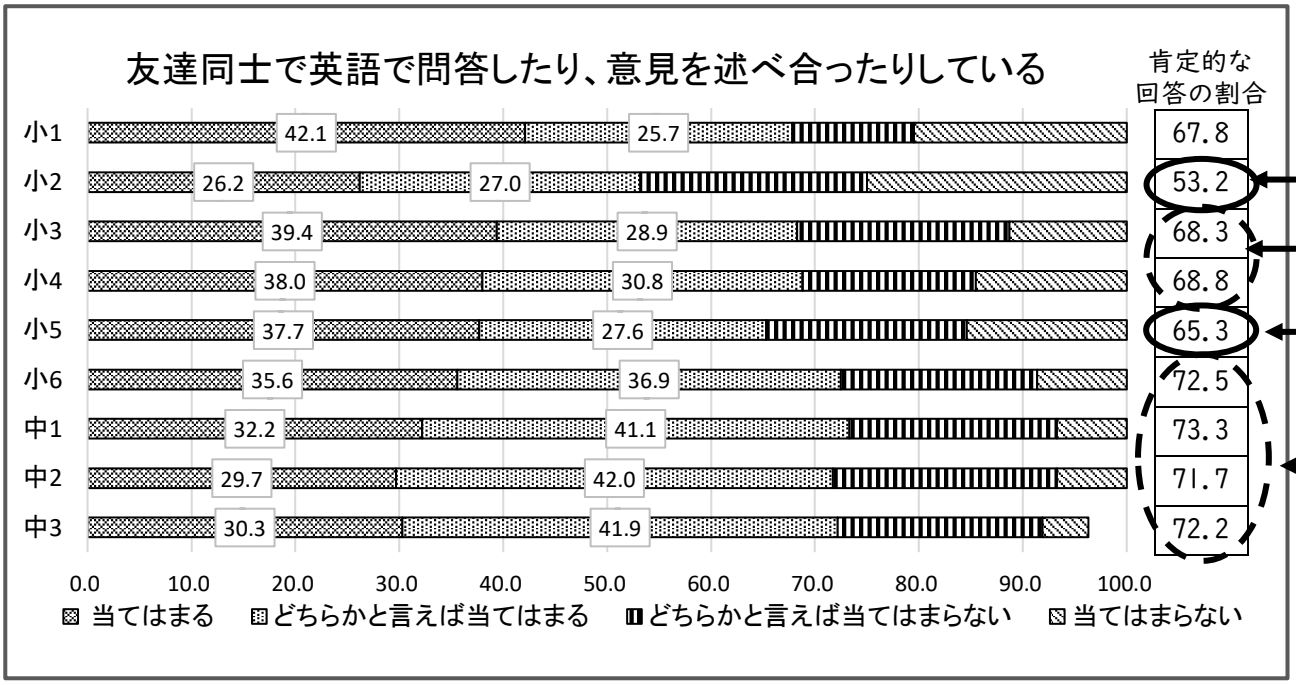
（12）話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」



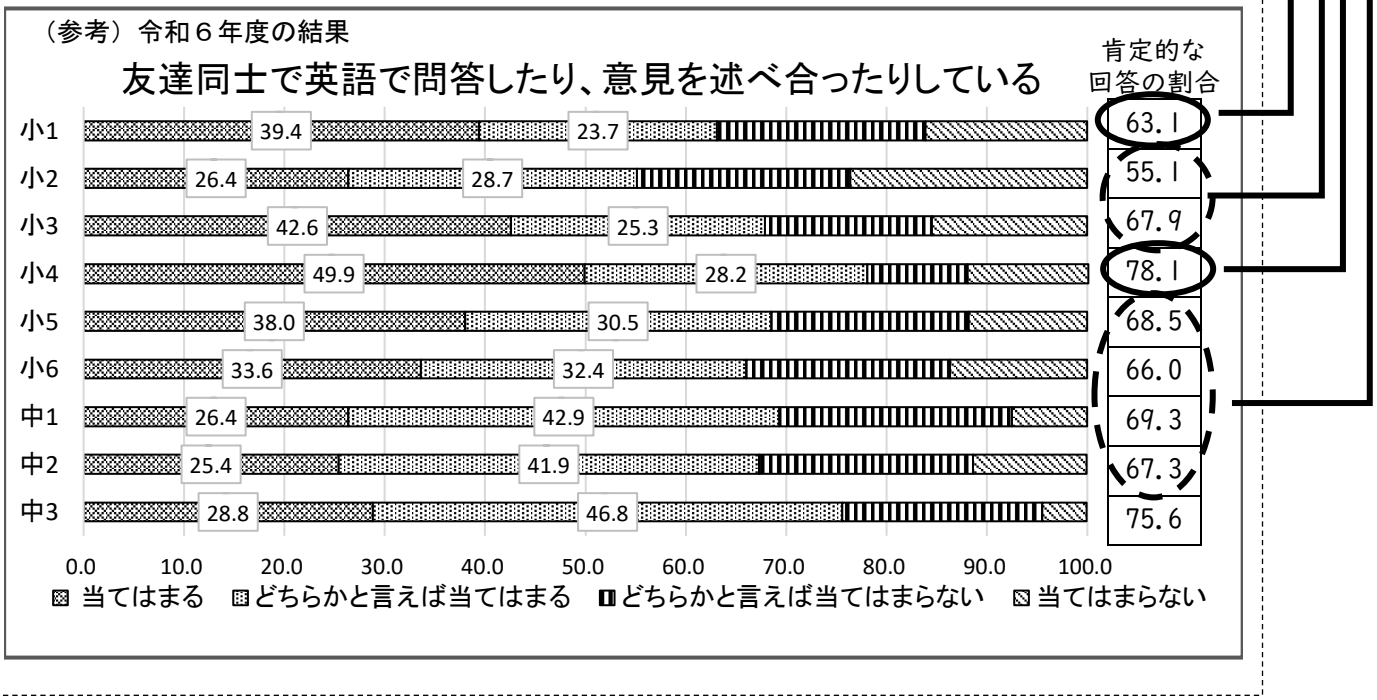
小学校の肯定的な意見の割合は5～6割台、中学校は5割前後となっている。昨年度のグラフと比べると肯定的な意見の割合が全体的に下がっている。特に、現小学2年生の児童たちは昨年度より9.9ポイント（小1：63.1→小 2：53.2）減少している。一方で、現小学3年生の児童たちは昨年度より9.3ポイント（小2：55.1→小3：64.4）増加し、現中学3年生も昨年度より8ポイント（中2：48.1→中3：56.1）増加しており、授業改善により児童生徒の意識が大きく変化することがうかがえる。授業における「スモールトーク」等、学んだ英語表現を活用しながら児童生徒が即興でやり取りする場を大切にするなど、即興でのやり取りをする機会を意図的・計画的に取り入れた指導を今後も行っていく必要がある。



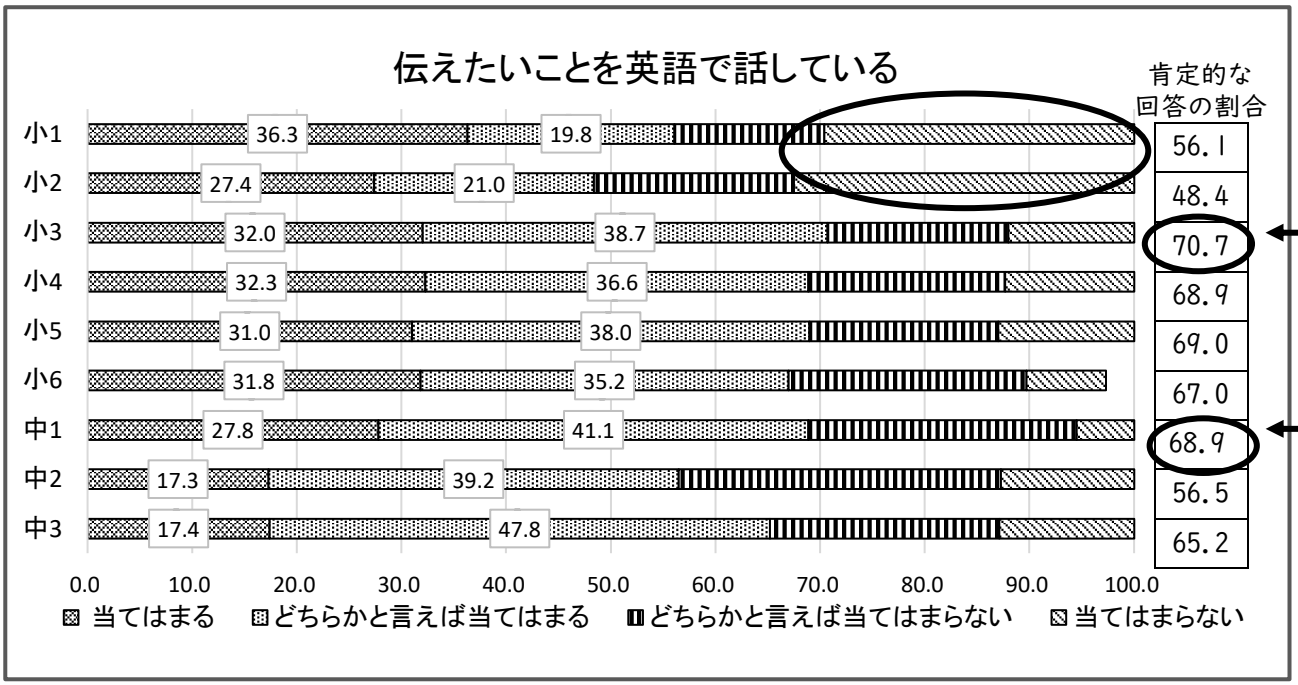
（13）話すこと（やり取り）「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」



小学校の肯定的な意見の割合は 5～7割台、中学校の肯定的な意見の割合は7割以上となっている。昨年度のグラフをもとに変容を見ると、現小学3年生 （小2：55．1→小3：68．3）と現小学6年生（小5：68．5→小6：72．5）、また現中学 1 年生～3 年生は昨年度より高くなっている。これは外国語活動や英会話科等において、英語を使ったやり取りや発表を意識した授業が増えてきているためと考えられる。しかしながら、現小学2年生が昨年度より13．2ポイント（小1：63．1→小2：53．2）、現小学5年生が12．8ポイント（小4：78．1→65．3）低くなっている。英語を用いてやり取りをする場面設定を取り入れたり、短い英語でのやり取り等の工夫をして、友達とコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるようにしたい。



（14）話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」

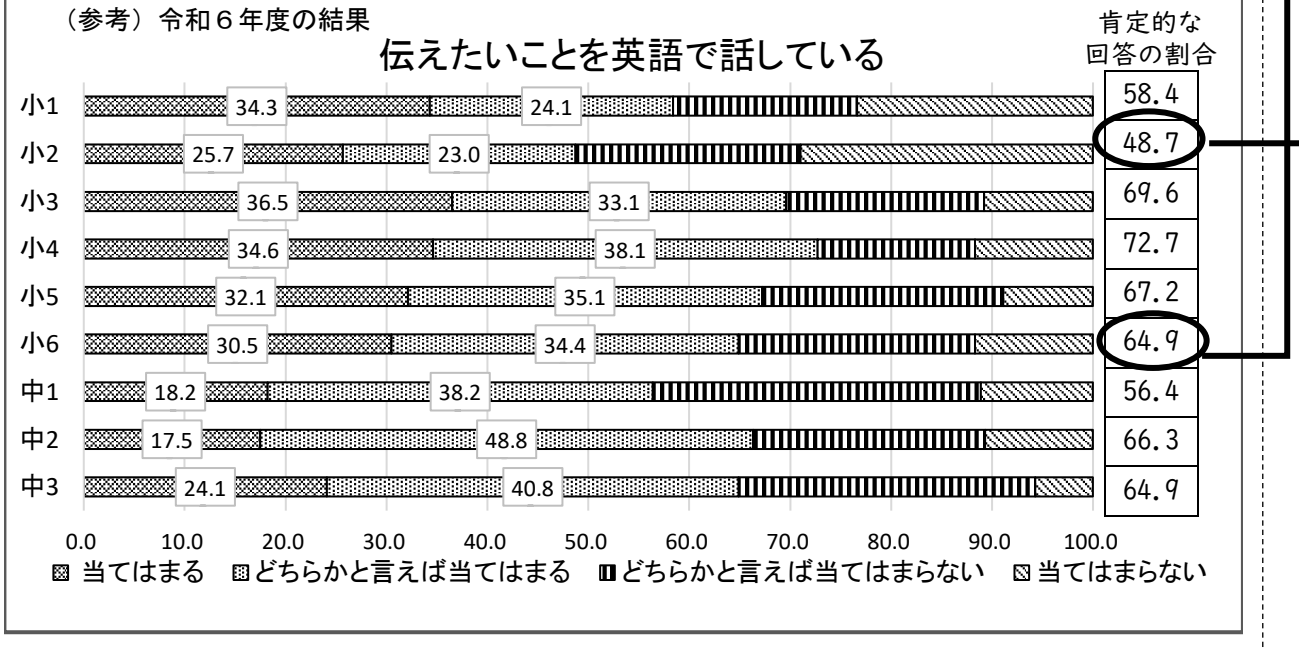


昨年度のグラフと同様、話せる表現が少ない小学校低学年では、「当てはまらない」の割合が2割を超えている。

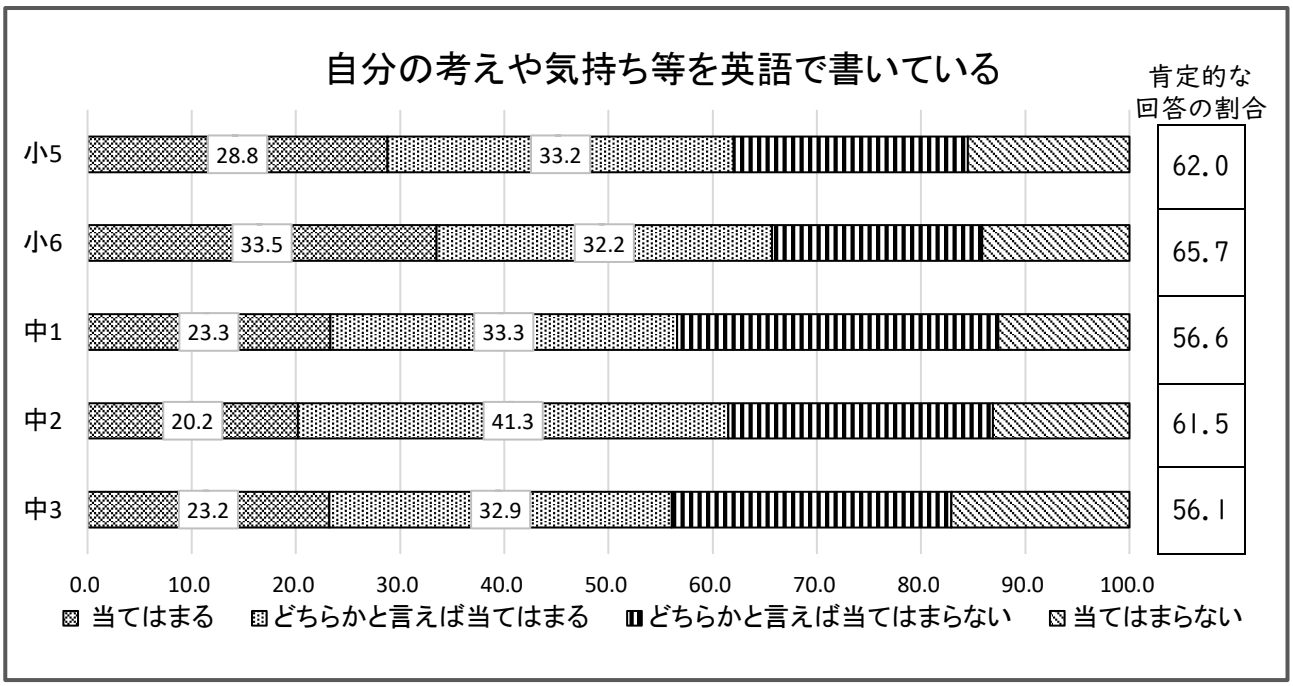
一方で、学年が上がるにつれて、肯定的な意見の割合は現小学3年生（小2：48.7→小3：70.7）と22ポイントも増加している。これは例年見られる傾向である。中学年になり外国語活動の時間が大幅に増加したことで使える英語表現が増えたと実感する児童が多いためと考えられる。また、昨年度は中学１年生になると減少傾向であったが、今年度は現中学1年生が4ポイント（小6：64.9→中1：68.9）増加している。

今後も、積極的に自分の考えや思いを英語で話す機会を大切にしていきたい。

（参考）令和６年度の結果



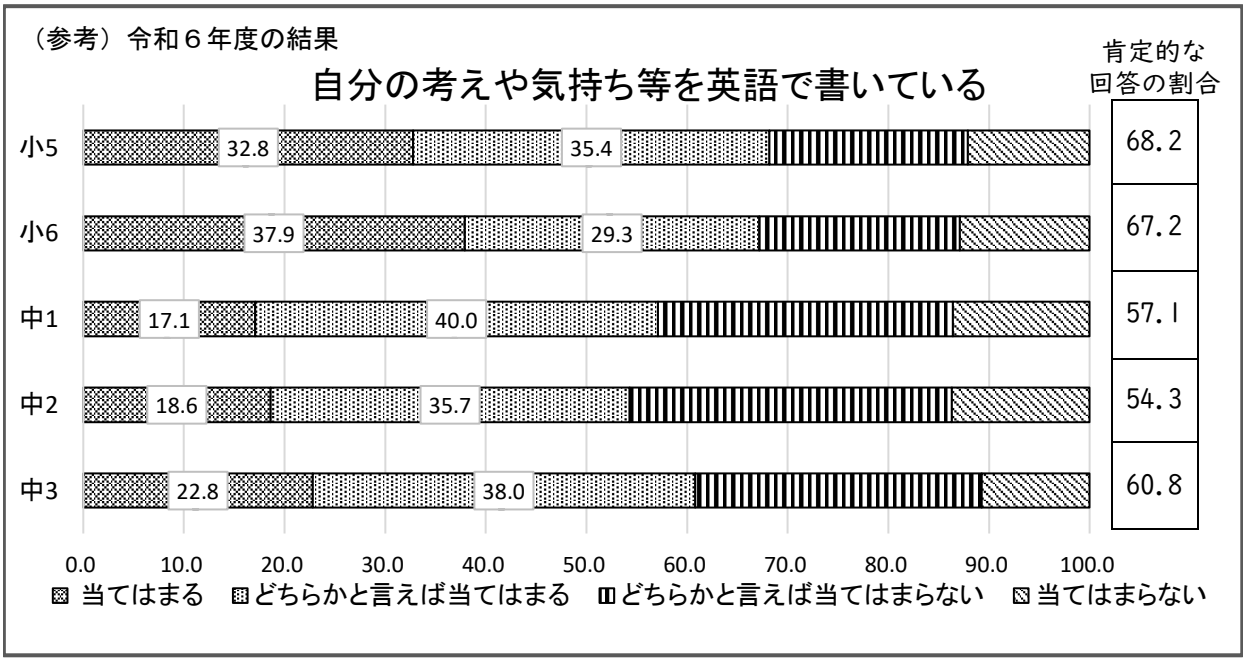
（15）書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」



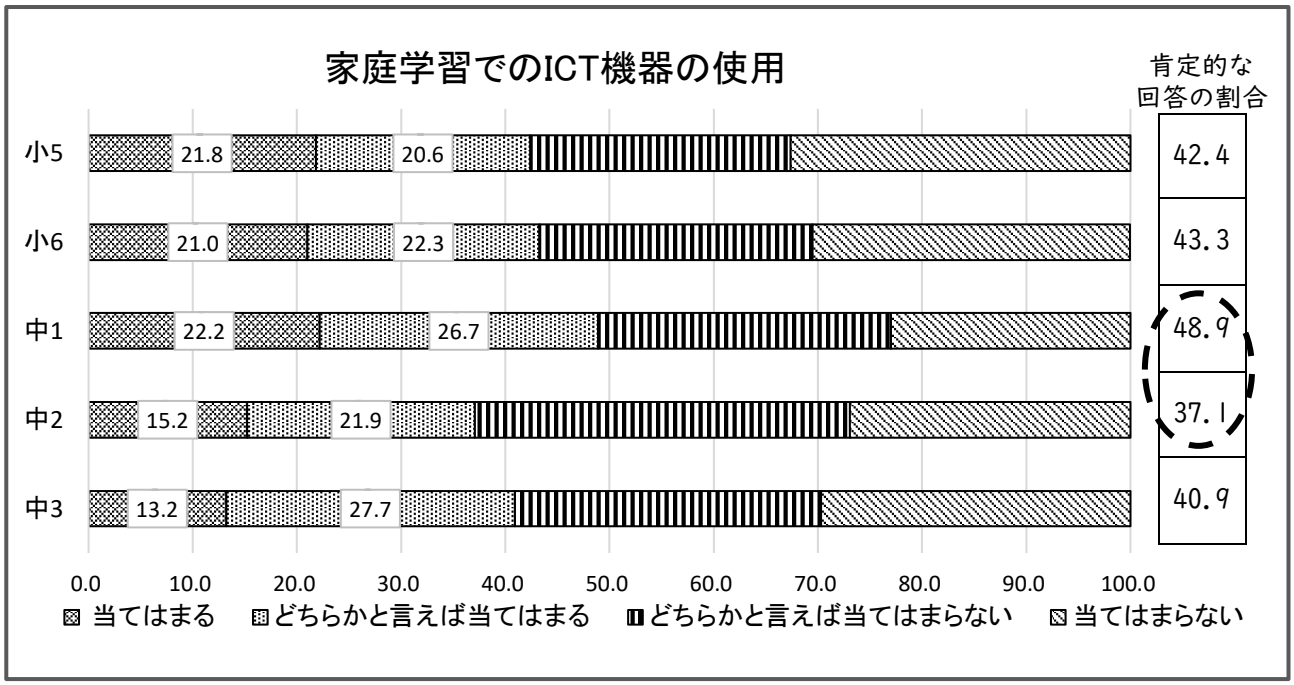
肯定的な意見の割合は 5～6 割台となっており、昨年度のグラフと比較するとほとんどの学年で減少している。

小学校での英会話、外国語活動において「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語学習への動機付けを工夫した上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて、総合的・系統的に扱う外国語科による学習を進めることが大切である。また、中学校と小学校とのスムーズな接続を図ることができるように、教員同士の情報交換を定期的に行いながら、互見授業を奨励するなど小中の連携を図っていきたい。

（参考）令和６年度の結果



（16）「家で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている」

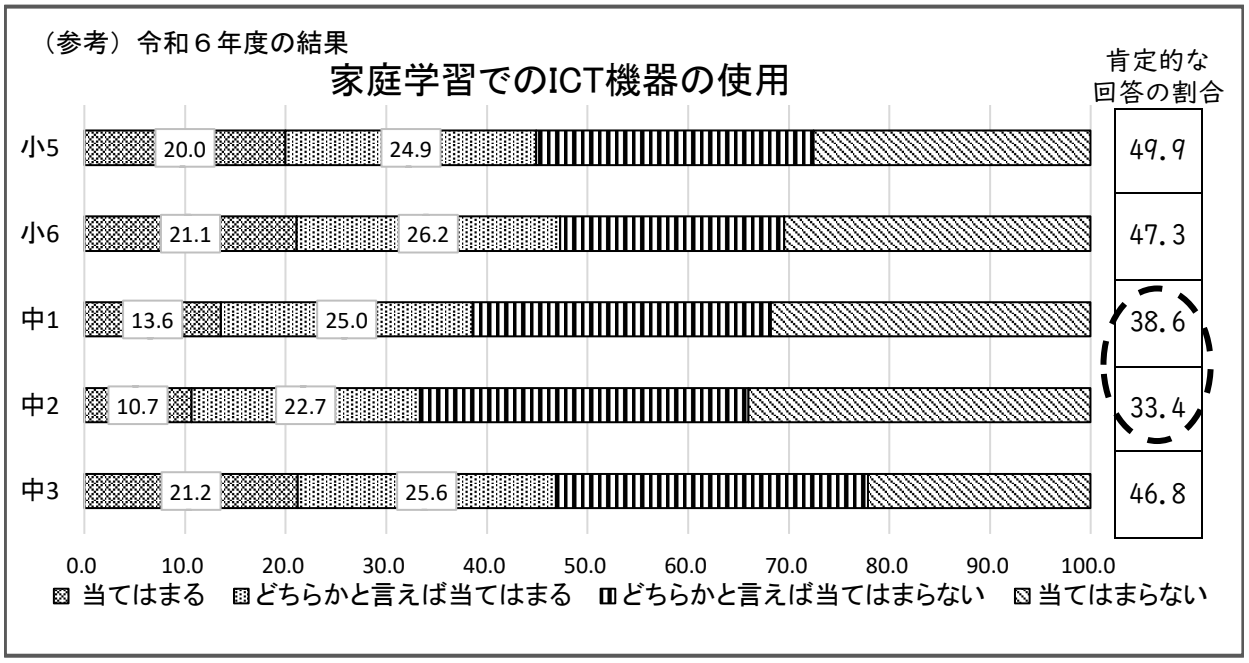


英語に関する家庭学習での ICT 機器の活用について、肯定的な回答をした児童生徒はどの学年も3～4割程度である。音声中心の指導である小学校では、外国語科の宿題をあまり出さないことが理由として挙げられる。

しかし、昨年度の結果と比べると、中学 1 年生と 2 年生において10.3ポイント、3.7ポイント増加している。これは、AIドリルのリスニング機能の認知度が上がってきたことや、中学校において AI ドリルの活用が増加してきていることが関係しているものと考えられる。

ICT 機器を活用することで、英語の学習の大きな特徴である「聞くこと、話すこと」の言語活動が容易にできることや、家庭学習で「聞くこと、話すこと」の言語活動を自分で行うことで、表現の定着が図られることを踏まえ、ICT 機器を活用した家庭学習の在り方・出し方を今後も工夫していきたい。

（参考）令和６年度の結果



《学校質問紙》

市内の小・中学校を対象に、アンケート調査を行った。

【実施時期】　令和7年11月1日～令和7年11月28日

【実施校数】　小学校9校、中学校2校 ※市内全小・中学校が回答

【質問項目】　(1)学習の工夫について※自由記述
(2)T・Tについての成果と課題 ※自由記述
(3)英語の日常化に向けた環境整備についての成果と課題 ※自由記述
(4)「This is Kurobe」や「Picture card」の活用についての成果と課題 ※自由記述
(5)英語科と英会話科の連携について ※自由記述
(6)その他(日頃の授業で感じていること) ※自由記述

調査の結果、主な意見をまとめると次のようになった。

(1)　学習の工夫について

≪成果≫

・３学年のブレスレット作りや４学年のしおり作り等、形の残るものを作る過程の中で、英語でのやりとりやアルファベットの習得を楽しみながら行っていると感じる。
・１時間の見通しがもてるよう活動内容を黒板に書いている。
・昨年度から採用されている教科書は、ビデオや音声教材が充実しており、これまでより英語表現の定着が感じられている。
・一人一人が会話する場を設け、話す機会を確保している。
・授業開始時に学習のゴールを明確に伝えることで、前向きに取り組めるようにした。
・ALT との対話をゴールに設定し、できたときにはトークン（シール）を与えるようにした。そのシールをネームカードの裏に貼り、貯めていくことで「できた」を積み重ね、子供が自信をもてるようにした。
・教員はデジタル教科書で視覚的に情報を提示することやリスニング指導に活用し、スムーズな授業展開に役立てている。
・英会話科では、英語科の進度を確認し、既習の文法事項を英会話科でタイムリーに活用させることで、知識を「使う力」として定着させている。学校行事の内容や生徒の気持ちなどを事前に把握することに努め、生徒自身が自分の思いを具体的に英語で発話できる機会を創出している。

≪課題≫
・話すことの指導については、学習した表現を使ってコミュニケーションをする活動をしたが、実際にやりとりを行う場面が少なく、もっと言語活動の場面を増やす必要がある。
・教員用デジタル教科書は活用する場面が増えたが、生徒用デジタル教科書の活用が難しい。
・会話の時間を多く設定し、たくさん英語でやりとりするよう工夫する必要があった。
・英語だけで指示を出すと分からない児童が不安になるため、日本語でもう一度説明すると時間がかかる。

２　Ｔ・Ｔについて
（ＡＬＴは他市町村に比べ多く配置、ＪＡＴやＪＥＴは本市独自の配置）

≪成果≫
・英語専科が授業をすることで、中学校への接続も意識しながら、専門的に学ぶことができ、英語好きの児童が増えている。
・ALT、JAT、担任が打ち合わせる時間をもち、黒部市の年間指導計画をもとに、学級の実態に合わせた授業の進め方を検討し、行うことができている。
・JAT が経験豊かな授業提案をしてくださり、担任は児童の実態に合わせて授業を展開するようにしている。
・JAT を介して、ALT と HRT が連携を取り合っている。また、スケジュール調整等の連絡も密で助かっている。
・英語専科として、１日１時間の空き時間が確保されており、事前に ALT や JAT と授業の打ち合わせを行うことで、スムーズに活動することができた。
・３人で役割演技しデモンストレーションをすることで、本時の学習内容が分かりやすくなっている。
・ALT に授業を担当してもらい、生の英語に触れる時間としている。英語圏の文化や考えに興味をもつ生徒が増えたように感じる。
≪課題≫
・月曜日と金曜日の勤務の為、祝日や学校行事、出張が重なることが多く打ち合わせの時間を調整するのが難しいことがあった。
・ALT と打ち合わせを行うが、ALT によっては授業の組み立てで、狙いとする言語材料から外れていくことがある。
・週１回の授業頻度では、生徒一人一人の学習上の課題や変化を把握しにくいため、担任からの情報共有(特に配慮点)が必要である。また、ＡＬＴが周囲や生徒への関心が薄く、コミュニケーションに消極的だと、効果的な授業準備や改善が困難になるという課題がある。

３　英語の日常化に向けた環境整備について

≪成果≫

・ランチルーム前の英会話コーナーを見て、楽しんでいる児童の姿が見られる。
・１年書写の「書写体操」で、数を英語で自然に数えている。
・プロジェクターとUSBでPCを繋げられるので、スムーズにビデオや音声教材を用いることができた。
・毎週給食の時間にイングリッシュタイムを行い、ALT の母国の行事についてクイズをしながら理解を深めることができた。
・掲示物やALTのゲームもあり、英語と触れ合える機会がある。
・国際理解につながる掲示がしてあり、児童の興味・関心を高めるのに効果的である。定期的に内容を変えていただいているので、多様な話題に触れることができている。
・ALTが普段の生活や行事、部活動に参加して、生徒に話しかけてくれている。英語の読書の実施をしている。

≪課題≫

・来年度以降、工作が得意な ALT がいない場合は、英語コーナーの掲示板がどうなるか不安である。
・英語専科として、兼任している学校で同じ授業がしたいので、ICTの機器は市で統一してほしい。
・児童が授業以外で英語を使う場面がまだ少ない。ALT や JAT と廊下では挨拶はするが、それ以上のちょっとした会話もできるとよい。
・ALTによって英語の掲示板の完成度に差がある。ALTの負担を減らすためにも、掲示が終わった物でまだ使える物をセンターに集めて違う学校で活用できたらよいのではないか。
・生徒全員に向けた会話や読書の機会を提供することが難しい。
・環境整備のためには、ＡＬＴが「優しい英語」で積極的に生徒と交流する姿勢や、国際交流ボードや昼の校内放送等の交流促進活動をＡＬＴ主導で行うなど、ＡＬＴの積極的な姿勢が必要である。

４　「This is Kurobe」や「Picture card」の活用について（小学校は活用した場面があれば記入）

≪成果≫

・高学年の書く活動を意識して、教科書と同じフォントでPicture Cardを作り、児童が混乱しないように工夫をしている。
・教材の一部としてクイズ形式等を活用している。また、修学旅行等で生徒が黒部市を紹介するための教材として実践的に使用している。

≪課題≫
・「This is Kurobe」を有効に活用することができていないため、活用例を知りたい。
・教科書を使い指導をする際、黒部の地名を出して伝えることはあるが、大きな Picture Card を使って写真を見せることはなかなかできなかった。小学生は文章を読めないので写真ぐらいしか活用できない。
・掲載情報の鮮度維持が困難である。文章表現の見直し等の修正を行い継続して使用している。

5　英語科と英会話科の連携について（中学校のみ）

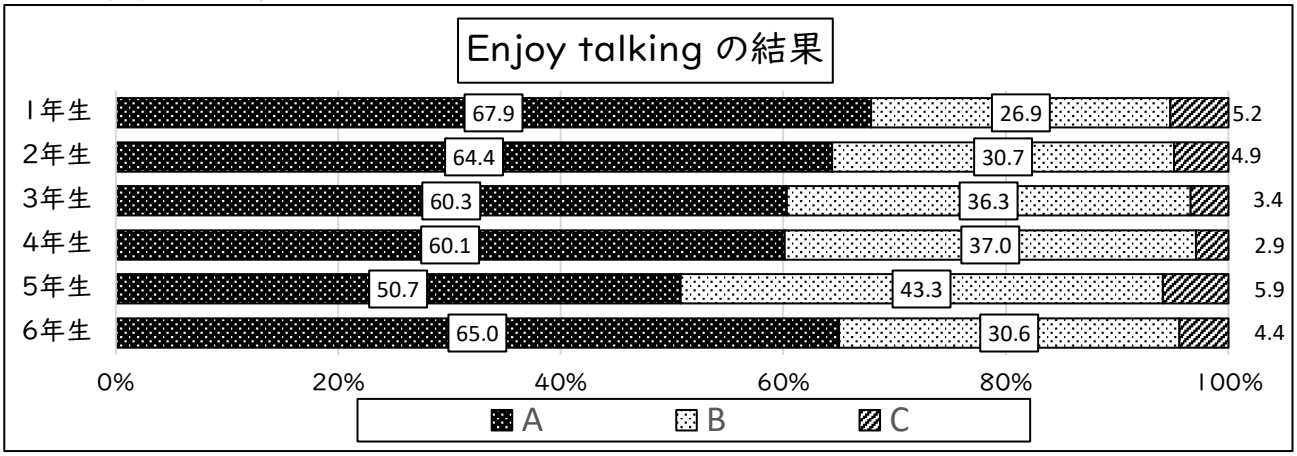
≪成果≫
・英語科教員と英会話科教員とで授業進度を確認して、それぞれの授業で扱う言語材料の目安にすることで連携した指導を行っている。
・英語科の進度を把握し、系統性を考慮した指導のタイミングを見極めている。既習の文法･語彙をタイムリーに英会話に取り入れることで、生徒の知識を実践的な「使う力」として定着させている。
≪課題≫
・生徒が理解できる内容を英会話担当教員で確認して指導しているが、英会話科授業でどうしても必要になる内容は、説明が必要となり、活動時間の確保に影響がでてしまう。

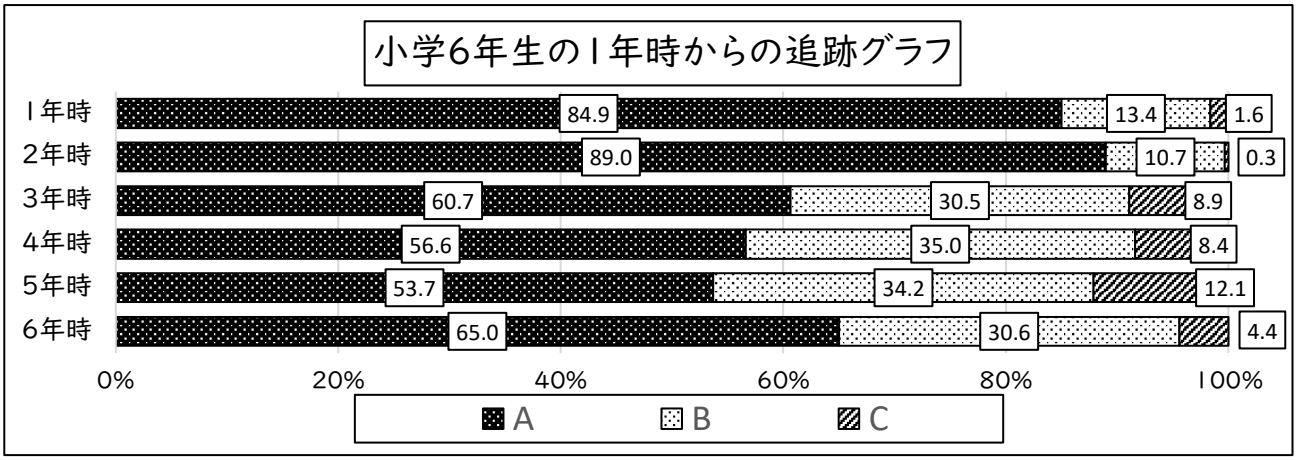
6　その他（日頃の授業で感じていること等）

≪成果≫
・友達が海外に行く、体験で戻ってきた、ということがあり、海外の文化にとても興味をもっている。ALT にもその子たちに関する文化の話などをしてもらい、ありがたかった。
・クラブ活動の１つとして English クラブをつくった。クラブでは ALT が参加して楽しく英語を学ぶことができた。
・休み時間児童と遊ぶ ALT もいて、英語を楽しく学べる環境になっていると感じる。
・学校で ALT に会うと英語で挨拶する子供が増えてきた。授業だけでなく日常生活で自然に英語を使えるのは大切なことだと感じている。
≪課題≫
・英語に対して苦手イメージを持っている児童に、どのようなアプローチを行うべきか悩んでいる。
・週１回の授業（３，４年生）では英語に触れる量が限られるため、授業外でも英語や ALT とふれあう機会を増やしたい。
・即興で会話をすることに難しさを感じている子供は、話す内容を書きとめ、片仮名で準備したりしている。話す活動の時間をもっと増やし自信をもたせられるよう工夫していきたい。
・ＡＬＴとの指導の際の心構えや連携の在り方について、英語科教員や専科とＪＥＴが情報や意見を共有できる場があればよい。

4　Enjoy talking の結果

（1）Enjoy talking の結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・1文や1，2語程度で	・1，2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句を使って答えることができない。
2	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・2往復程度で	・1文や1，2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができない。
3	内容	気持ちや考え、絵カードの質問に対して		
	程度	・3往復以上で	・2往復程度で	・1文や1，2語程度以下で
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	限られた質問にしか答えることができない。
4	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・3文以上で（自己紹介） ・3往復以上で（やり取り） ・適切な音量で	・2文程度で（自己紹介） ・2往復程度で（やり取り） ・適切な音量で	・1文以下で（自己紹介） ・1往復以下で（やり取り） ・1，2語程度以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
5	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で（自己紹介） 4往復以上で（やり取り）	3文程度で（自己紹介） 3往復程度で（やり取り）	1，2文程度以下で（自己紹介） 1，2往復程度以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
6	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で（発表） 4往復以上で（やり取り）	3文程度で（発表） 3往復程度で（やり取り）	1，2文程度以下で（発表） 1，2往復程度以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。

（2）Enjoy talking を実施してよかったと思われること（成果 主なもの）

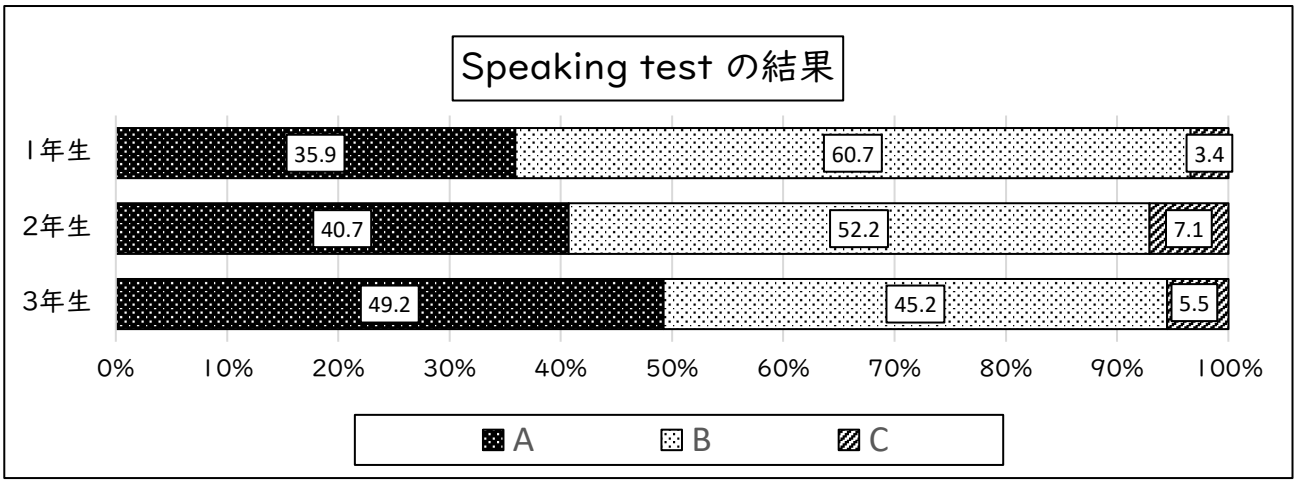
・Enjoy talking を実施することで、単なる受け答えではなく、英会話ということを学ぶことにつながった。自分のことを話すことができるため、表情がやわらかく、ジェスチャーも交えながら会話を楽しむ様子が見受けられた。
・Having 1 on 1 conversations between the students and ALT allowed the students to have more confidence in their communication skills. Most students were able to respond without any assistence.(児童と ALT が 1 対 1 で会話をすることで、生徒たちは自分のコミュニケーション能力により自信をもつことができた。ほとんどの児童は、支援なしで受け答えをすることができた。)
・ALT と 1 対 1 で会話したことで、児童の伝えたいという意欲の向上と自信につながった。
・ALT と 1 対 1 で質問に答えたり ALT に聞きたいことを考え質問したりしたことで、ふだん ALT に話しかけたりしない消極的な児童も学んだ英語を使って楽しみながら表現する姿が見られた。
・ALT と会話をすることで自分の話した英語が通じたという経験をし、児童の自信につながった。
・学習した英語表現を使うことができた喜びを感じていた。
・毎時間、スモールトークやペアトークで会話のやり取りをしていたため、リアクションワードやジェスチャー等を使い、スムーズに ALT とやり取りする姿が見られた。また、単元の終わりには発表会を行った。その際、アイコンタクトや声の大きさ等、発表のポイントを伝えていたことで、Enjoy talking でも意識して会話しようとする姿が見られ、終始和やかであった。
・ALT と話をすることが楽しいと、英語の学習へのやる気につながっていた。
・自らの思いを、英語で相手に伝えたいという思いが、次第に高まっていった。
・ALT が何を話しているのかをしっかりと聞き取りたいという思いも感じられた。また、聞き取ったことを必死で伝えるために、既習事項を生かしながらトークを楽しむ様子が見られた。
・相手の目を見て会話をしている。あいさつもしっかりできていた。
・ALT が何を話しているのかをしっかりと聞き取りたいという思いを感じられた。また、聞き取ったことを必死で伝えるために、既習事項を生かしながらトークを楽しむ様子が見られた。
・They were very motivated to use the English.（児童たちは英語を使うことにとても意欲的だった。）

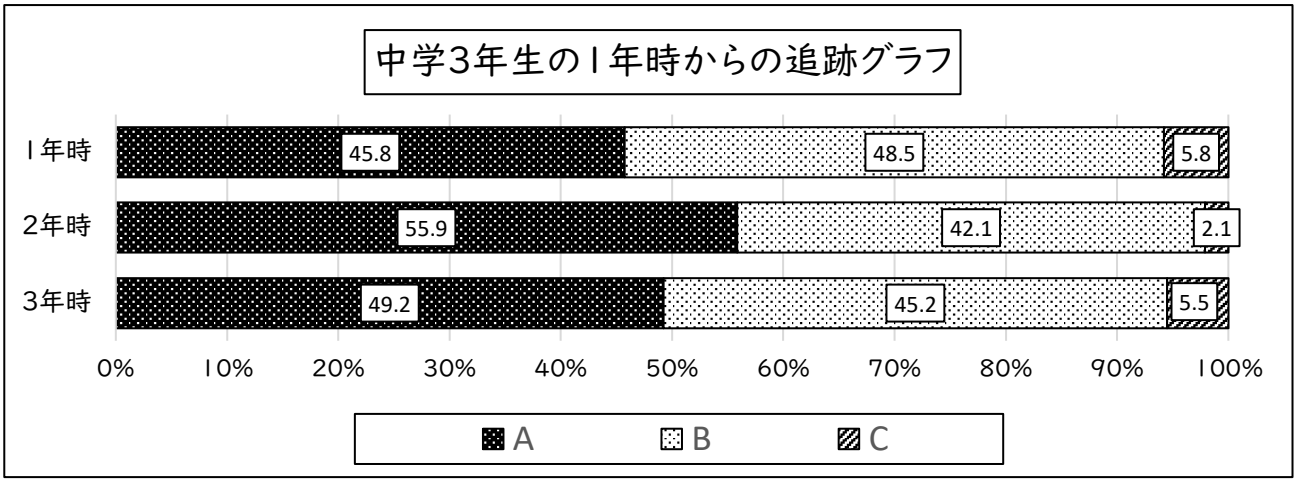
（3）今後、改善が必要だと思われること （課題 主なもの）

・授業で習ったことを覚えて ALT の質問に正しく答えることができていた児童と、しっかり定着しておらず答えに詰まる児童とで差が見られた。数多くの児童への定着が図れるよう、指導法を工夫していきたい。
・既習事項に疑問文が少ないため、Enjoy talking に英問英答を取り入れることが難しい。
・疑問文や応答文が定型になりがちであり、児童の考えを自由に表現することが難しい。
・質問されたことに答えることはほどんどの児童ができていたが、今まで学んだ疑問文が定着していない児童もいた。
・メインのテーマ（My best memory）について、児童の回答に応じた再質問をして児童の思いを引き出すことができるとよいが、限られた時間の中であることや、児童の語彙力では難しい面もある。
・クラスの人数が多いため、一人当たりにかける会話の時間がとても短かった。もう少しゆとりをもって会話できるような工夫をすることで、児童たちはもっと落ち着いて会話を楽しめたと思う。
・Sometimes, they have difficulty answering follow-up questions.（時々、児童たちは追加の質問に答えるのが難しいことがある。）
・返答までの時間は短いが、単語だけで答える児童が多くいた。
・間違えて覚えていることに気付かず答えている児童がいた。特に ate を eat と伝えたり saw を see と伝えたりする児童が多かった。また、答え方に went と want があったので発音が曖昧になり、違いに気付かずに使ってしまう児童がいた。
・ALT からの質問の中に出てくる単語を聞き取ることに、不安を感じている児童もいた。児童の実態に応じて、授業で使用したフラッシュカードを用いながら会話をしてもよいと思う。
・Some students struggled to respond to questions they had not memorised prior to Enjoy talking. (用意していたこと以外の ALT の問いかけには戸惑う児童もいた。)
・児童の人数が多いクラスは実施に2時間、授業を要した。
・伝えたいことより練習したことをそのまま会話で言う子供が多い。ALT との会話の中で自分の伝えたいことを言えるような練習をしていきたい。
・児童から 1 つ質問するように伝えていたが質問を考えていなかったり、何を質問したら良いのか分からない様子の児童が数名いた。

5　Speaking test の結果

（1）Speaking test の結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・５文以上で（発表） ・５往復以上で（やり取り）	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）	・２文以下で（自己紹介） ・２往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
2	内容	日常的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・４、５文程度で（発表） ・４、５往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３文以下で（自己紹介） ・３往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また、質問に答えても、相手に問い返すことができない。
3	内容	社会的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・５、６文程度で（発表） ・５、６往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどを繰り返しながらやり取りを継続することができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちを確かめるために質問をするなどしながらやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また問い返すことができても、相手の気持ちを確かめるために質問をすることができない。

※グループにおけるやり取りの場合には、他のメンバーに聞こえる音量も基準とする。

（2）Speaking test を実施してよかったと思われること（成果 主なもの）

・普段の授業でのコミュニケーション活動に積極的に取り組む学年では、各生徒がその意欲をそのまま発揮できたテストだった。どの生徒にも、自分が今もっている英語力でなんとか気持ちを伝えようという積極的な態度が見られた。

・Most students answered them well. I noticed many students who were speaking under their breath in Japanese – while this isn't really a good idea, I could tell them from these words that many students had the right idea of what the question was, even if the student wasn't sure of it.（ほとんどの生徒は質問によく答えていた。多くの生徒が日本語で小声でつぶやきながら考えているのに気づいた。これはあまり良いことではないが、その言葉から、多くの生徒が、たとえ自信がなかったとしても、質問の意図を正しく理解していたことが分かった。）

・昨年度も、ふるさと黒部について英語で話す課題でスピーキングテストを行ったが、それと比較すると話す内容や表現方法のバリエーションも非常に増えたと感じた。繰り返し指導してきた成果があったと思う。

・1 年次は「原稿を書いて暗記してプレゼン」という流れでテストに臨んでいたが、英会話科の目標の一つである「即興で話す」ことに重点を置き、自分の言葉で話そうとする生徒が増えた。

・More students could get my questions precisely than last semester.（前学期よりも、私の質問を正確に理解できる学生が増えた。）

・伝えたい事柄に対し、既習の英語表現や身振り手振りを活用して工夫しながら発信する生徒がみられた。

・文法誤用の傾向を把握することができた。

・限られた語彙や表現方法の中で、文法的な正確さよりもコミュニケーションを優先し、できる限りの自己表現を通じて ALT とやり取りを成立させた生徒が多くみられた。

・The students generally tried to express their own original thoughts using the English they knew. A few students were able to go beyond that, trying to explain or describe things they thought the ALT would be unfamiliar with. A majority of students were able to seem engaged in the conversation through reaction expressions, and a few could ask in English for clarification on questions that confused them.(生徒たちは概ね、自分たちが知っている英語を使って、自分自身のオリジナルな考えを表現しようとしていた。その中で数名の生徒はさらに一歩進んで、ALT があまり馴染みのない事柄について説明したり描写しようとしたりしていた。また、多くの生徒はリアクション表現を通して会話に積極的に参加している様子が見られ、混乱した質問については、英語で説明を求めることができた生徒もいた。)

・授業で扱った身近な内容や、自己表現が必要な質問を盛り込むことで、会話にバリエーションが加えられた。

・誤った文法や語彙を使用する生徒もみられたが、自分で誤りに気が付いて言い直したり、表現に困っても身振り手振りや知っている単語で話をつないだりして、伝えたいことを伝えようと挑戦することができた生徒が多くいた。

・会話の話題について詳しい情報提供を積極的にできた生徒が多かった。

（3）今後、Speaking test を実施する際、改善が必要だと思われること（課題　主なもの）

・生徒が身の回りのことや自分の思いをより的確に伝える表現と、相手の英語をより聞き取ることができるようになるように指導内容の工夫が求められる。

・プレゼンの際、発音が美しいことも大切だが、イントネーション（抑揚）を意識することが非常に大切である。これが上手にできると、さらに思いが正確に相手に伝わるのにと感じた生徒も多かった。イントネーションについて取り上げる授業の設定も必要だと考える。

・Students may not be too much afraid of making mistakes.　They can be more confident of speaking English and more comfortable during the test.
(生徒たちは、間違えることをそれほど恐れていないようだった。英語を話すことに対して、より自信を持ち、テスト中もよりリラックスして取り組めていたと思う。)

・When students don't know how to answer the ALT's question, or they don't understand what the ALT asks, in order not to make silence, they should use useful expressions like "One more time, please."(　生徒が ALT の質問にどう答えてよいか分からない場合や、ALT が何を尋ねているのか理解できない場合には、沈黙を避けるために「One more time, please.」のような役立つ表現を使うとよい。)

・テストで使おうとあらかじめ準備していた単語や文型も、小さい声で話してしまうためにALTに聞き取ってもらえず、聞き直されてさらに小声になってしまう場面を多く見かけた。準備してテストに臨もうとする前向きな姿勢は理解できるので、生徒のコミュニケーションへの自信がさらに身に付くように、普段の授業で活動の場を多く設け、自分の英語が通じる経験をできるだけ多くもたせたい。

・生徒が ALT の質問を正しく理解することができなかったり、知らない英語表現に困惑したりして、適切な返答ができない場面がみられた。

・生徒の使用する語彙や表現方法が限られていたため、一連のやり取りにおける情報量が限定的で、やり取りの内容が深まらない事例もあった。既習表現を積極的に使う機会を会話活動に盛り込み、学習事項の定着と語彙力の強化に努めていきたい。会話の内容を深められるように会話で使う語彙や質問の仕方を丁寧に指導していきたい。

・ALT からの質問に受動的に応答することだけに集中している生徒が多かった。この受動的な応答だけでなく、生徒からも質問をしたり思いを伝えたりしながらやり取りができるよう、授業で生徒が伝えたいことを英語で伝えられた喜びを感じられる機会をつくっていきたい。

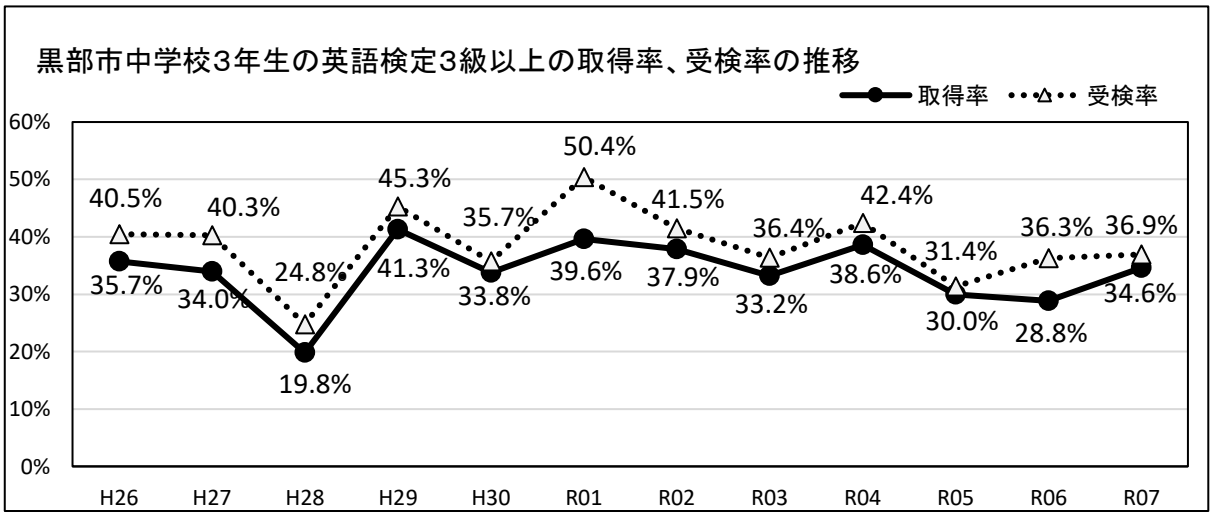
・即興でやり取りをするため、知らない英語表現に困惑したり、聞き取りができなかったりとスムーズにやり取りができない場面もあった。

・生徒によっては使用語彙がかなり限られており、ALT が内容を理解できなかったり、やり取りの内容が深まらなかったりする場面もあった。

・生徒が様々な話題に対し、ふさわしい英語表現と情報量で自分の考えや意見を伝え、より内容を深められる質問ができるように指導を強化したい。そのために分かりやすいデモンストレーションを行ったり既習の表現を使った例を提示したりして、既習表現の確認とアウトプットの機会を充実させたい。

6　英語検定３級以上の取得率、受検率等

黒部市中学校3年生の英語検定3級以上の取得率、受検率の推移



令和７年度の受検率は 36.9%であり、昨年度と比べ 0.6 ポイント高くなった。取得率は 34.6%であり昨年度と比べ 5.8 ポイント高くなった。合格率（取得率/受検率）は昨年度 79.4%、今年度 93.8%で 14.4 ポイント高くなった。取得率、受験率、合格率、すべてにおいて昨年度より高くなった。

取得率においては、第２次黒部市総合振興計画後期基本計画の 2027 年目標値として取得率 50%と設定されている。取得率 50%の達成には、受検率の更なる向上と合格率を上げるよう取組を工夫することが必要である。

児童生徒と保護者を対象に取った英会話科等の学習に関するアンケートの中の「英語の学習で身に付けたい力(P20)」の質問で「英検や TOEIC に対応できる力」と答えた中学生の割合は 29.1%、中学生保護者の割合は 25.9%にとどまっており、関心の低さがうかがえる。

一方で、アンケートの中の「英語の学習で身に付けたい力(P20)」の質問で「英検や TOEIC に対応できる力」と答えた小学生の割合は 20.8%（昨年度 13.0%）であり、英語の資格取得に興味関心がある児童が一定数いることがわかる。

英検取得のメリットや検定料補助について広く周知することを継続するとともに、外国語科を学習し始めた段階で英検について周知して意識をもたせ、挑戦して成功体験を積み重ねていくことで、中３で３級を目指したり取得したりする意欲を高めるなどの環境づくりの工夫が望まれる。

【英語検定取得のメリット】

- 自分の英語力を試すことができ、現在の力を把握することができる。
- どの級からでも挑戦でき、級をステップアップすることで、着実に力を付けることができる。
- 入試や海外留学で活用できる。
- 他の英語の資格試験より少し安価である。黒部市の生徒は検定料補助を受けることができる。

Ⅱ　令和7年度 英語サマーキャンプ

１　期　日　　8/20（水）～8/22（金）　2泊3日

２　場　所　　黒部市ふれあい交流館「あこや～の」

３　参加者　　28名　　小学5年生 5名（男子1名、女子4名）
小学6年生 22名（男子4名、女子18名）
中学1年生 1名（女子1名）

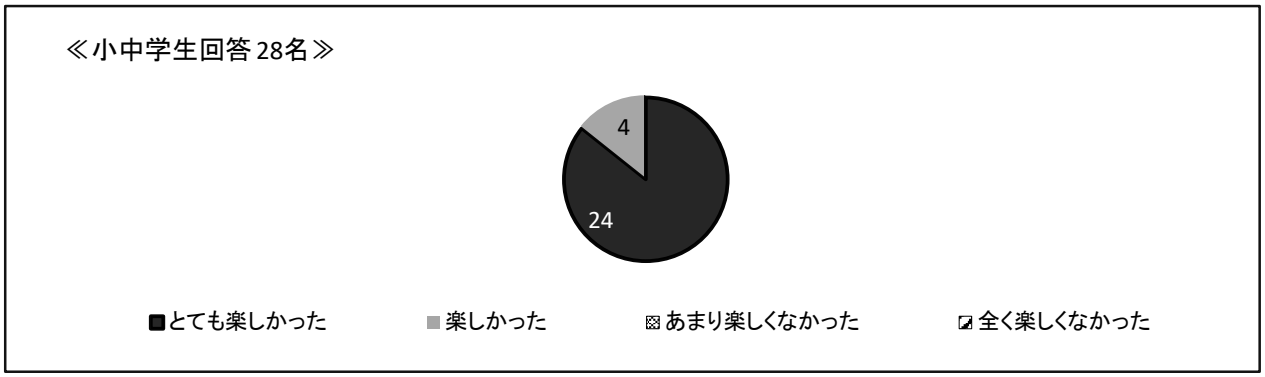
４　指導者　　ALT（4名）、英会話講師（6名）、大学ボランティア（1名）
学校教育課・教育センター職員、養護教諭

５　日　程

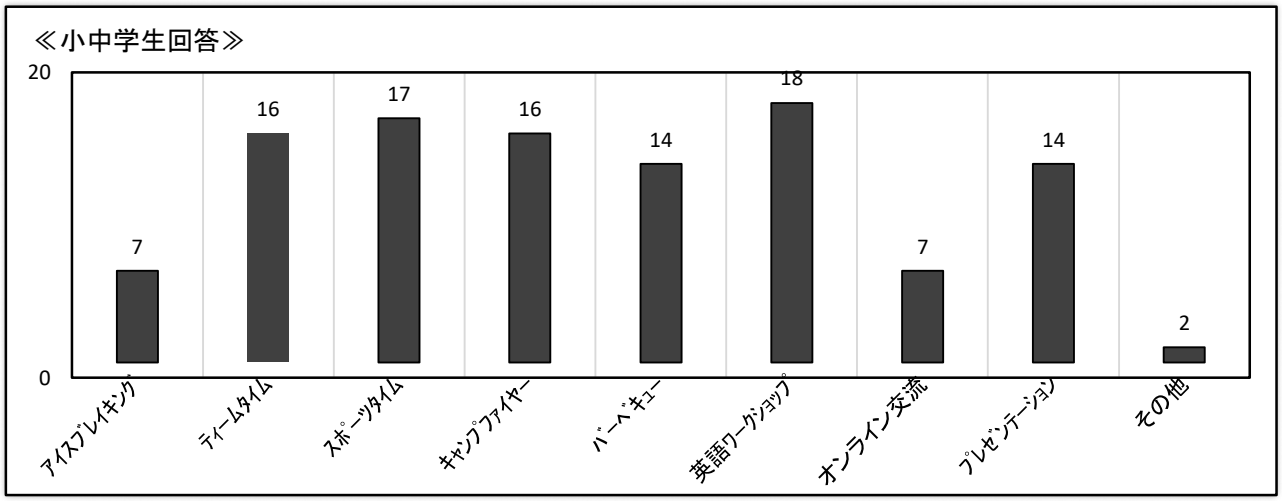
日	時刻	活動内容	活動の様子
20日（水）	～10:50	受付	＜アイスブレイキング＞ ＜ALTの劇・ティームタイム＞
	11:00～11:50	開校式、ｱｲｽﾌﾞﾚｲｷﾝｸﾞ	
	12:00～12:45	昼食	
	13:00～13:10	ALTの劇	
	13:10～14:10	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ①	
	14:20～14:40	館内利用説明	＜スポーツタイム＞ ＜キャンプファイヤー＞
	15:00～16:00	ｽﾎﾟｰﾂﾀｲﾑ	
	16:30～17:30	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ②	
	17:40～18:25	夕食	
	18:40～20:00	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰ	
	～21:30	入浴、就寝	
21日（木）	6:30	起床	＜英語ワークショップ＞ ＜ティームタイム＞
	7:30～ 8:20	朝食	
	8:30～ 9:30	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ③	
	10:00～11:00	英語ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ①	
	11:30～12:30	英語ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ②	
	12:30～13:30	昼食	＜バーベキュー＞
	13:50～14:50	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ④	
	15:10～16:10	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ⑤	
	16:50～20:00	ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ	
	～21:30	入浴、就寝	
22日（金）	6:30	起床	＜ZOOMﾐｰﾃｨﾝｸﾞ＞ ＜英語劇の発表＞
	6:30～ 8:30	朝食、清掃	
	8:45～10:10	ZOOMﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	
	10:15～12:30	ﾃｨｰﾑﾀｲﾑ⑥	
	12:30～13:15	昼食	
	13:30～15:00	劇発表、閉校式	

参加者アンケートの結果（小中学生28名、回答）

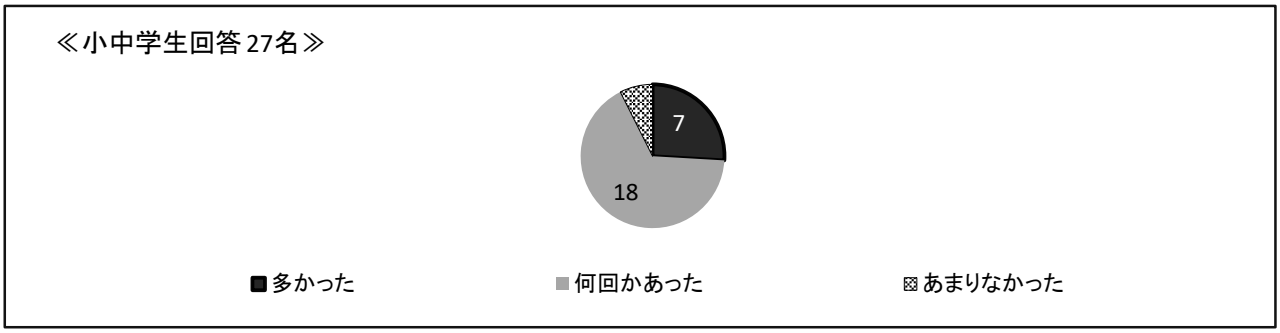
（1）英語サマーキャンプは楽しかったですか



（2）楽しかった・やりがいのあった活動



（3）自分から進んで英語を使うことがありましたか



（4）自由記述

・この3日間たくさん遊んで、勉強しました。
・自分で考えて行動する力や、英語を使って話す機会があって良かったと思う。
・とても英語が好きになりました。
・ALTの先生と英語で会話して楽しかった。
・先生たちがとても優しくて良かった。

≪令和8年度 英語サマーキャンプ（案）≫

・開催時期　　８月中下旬
・開催場所　　ふれあい交流館あこや～の

Ⅲ　令和7年度 姉妹都市交流研修事業（メーコン・ビブ郡受入）

1　期　日　　10/24（金）～ 10/30（木）　6泊7日（うち4泊ホームステイ）

2　訪問団　　18名（学生15名、引率3名）

3　ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰ　15家族（うち10家族がR6にﾒｰｺﾝ・ﾋﾞﾌﾞ郡を訪問した生徒の家族）

4　日程

日付	時間帯	活動内容
10/24（金）	午後	羽田空港 着
	午後	羽田空港 ⇒ 黒部
	夜	ホストファミリー対面
		ホームステイ　1泊目
10/25（土）	1日	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
	夜	歓迎交流会
		ホームステイ　2泊目
10/26（日）	1日	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
		ホームステイ 3泊目
10/27（月）	1日	中学校登校
		ホームステイ 4泊目
10/28（火）	午前	中学校登校、表敬訪問
	午後	黒部⇒東京
	午後	都内研修
		都内ホテル 宿泊
10/29（水）	1日	都内研修
		都内ホテル 宿泊
10/30（木）	午前	都内研修
	午後	羽田空港
	夜	羽田空港発

活動の様子

















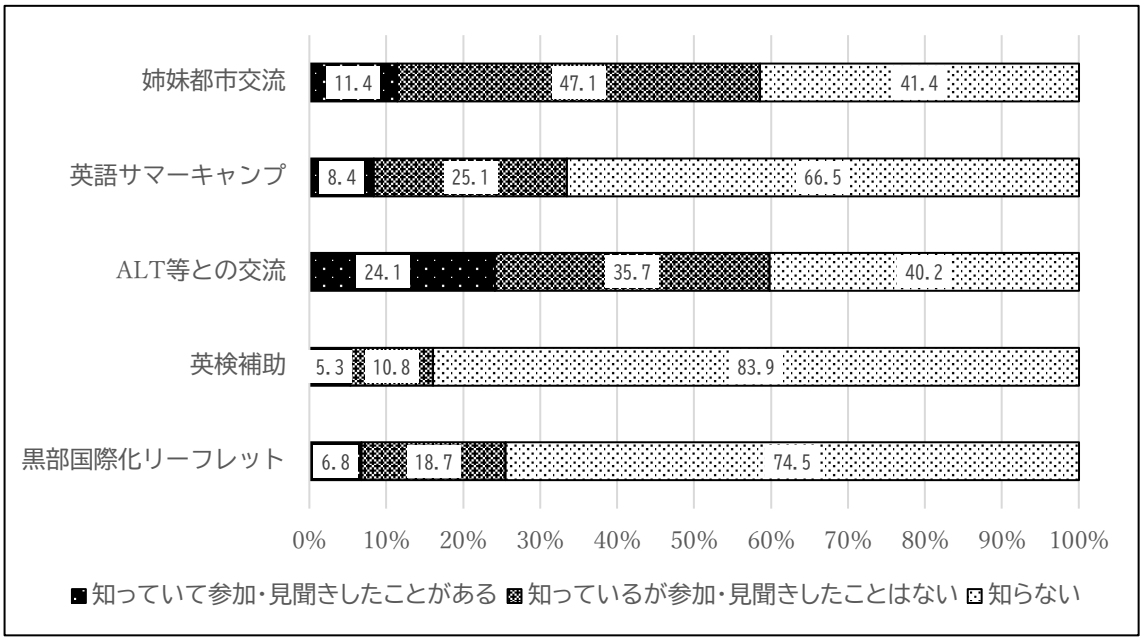
5　ホームステイを受け入れた家族の感想

・昨年、娘がホームステイを体験させていただき大変良い経験となりました。今年、ホームステイを受け入れて、学生と英語で会話が出来ていることに驚きました。
・1番楽しかったのは剣道だったそうです。胴着を貸してもらい、練習に参加しましたが、初めてとは思えない動きでした。学校でも、自分が有名人になったみたいだったと言っていました。短期間ではありましたが、とても貴重な経験で楽しかったです。
・一緒にアメリカのファミリーにテレビ電話をするなど、家族でコミュニケーションがとれてうれしかったです。手紙をもらって感動しました。

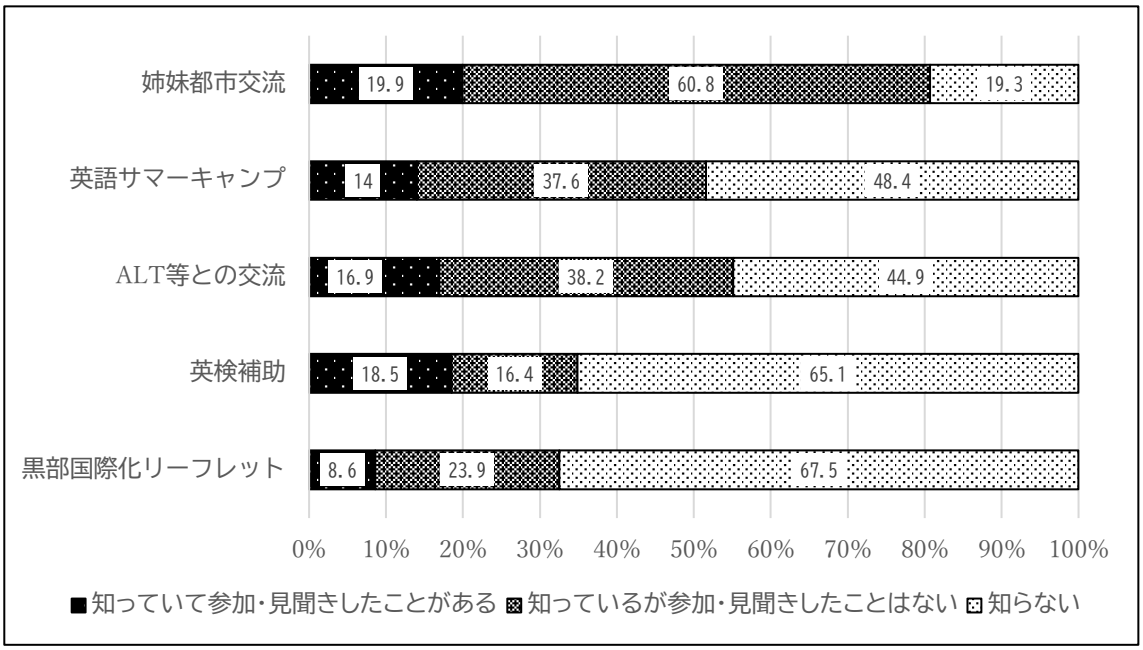
Ⅳ　黒部国際化教育推進事業についてのアンケート結果

黒部国際化教育推進事業について、保護者への周知度をアンケートで確認した。

小学校保護者



中学校保護者



〈アンケート結果より〉

・ＡＬＴや姉妹都市の学生と実際に交流する活動については小学校、中学校ともに約半数の割合で周知されている。

・英検の補助は中３のみ対象であるためか、あまり周知されていない。

・リーフレットの配布や英会話科等公開授業を通して、黒部国際化教育推進事業のさらなる周知を図る必要がある。

Ⅴ　付録　　英会話科等 20 年間のあゆみ（主な取組）

1　平成 18 年度（黒部国際化教育特区として、平成 18～20 年度）

（１）英会話科の推進に関すること

①　市教委、市教セ、学校の役割分担

ア　市教委の役割＝ハード面の整備

・研修会・情報交換会の計画・実施（予算、場所等の確保）、ＡＬＴ、ＪＡＴの給与、服務関係等

イ　センターの役割＝ソフト面の整備

・学校訪問（授業参観、助言等）、研修会・情報交換会における助言、新たな教材開発等

ウ　学校・指導者の役割＝指導面の推進

・有効な打ち合わせ方法の開発、授業実践・振り返り・改善（年間計画へのメモ）、保護者への情報提供

②　英会話科授業時数

ア　小学校

・１、２年・・・標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）

・３～６年・・・「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

イ　中学校

・１～３年・・・「総合的な学習の時間」＋「選択」の一部を割当て（年間 35 時間）

③　英会話科指導案集の作成（カリキュラム評価部会）

・黒部市小学校中学校教科「英会話指導計画」の見直し、作成

④　教材・教具の購入

・ランダム機能付きＣＤプレーヤー、ポータブルＤＶＤプレーヤー、ビッグブック、スターターズパック（英語活動指導用教材）

⑤　ＤＶＤ作成、学校への配布

・ねらい　子供たちが日常生活でよく使用される英語表現に慣れる機会を提供する。

・内容　　あいさつ／レッツゴーたんけん／道案内をしよう／約束する／部活動／レストランへ行こう／
　　買い物をしよう／旅行に行こう／黒部の名所・施設を紹介しよう

⑥　授業公開

・各校の実情に合わせて実施。

⑦　国際化教育特区報告会とディスカッション（２月）

・参加者　　市内小中学校全職員

・内容　　英会話科アンケート調査の結果報告、英会話委員会からの報告、パネルディスカッション
　　指導助言者　文京学院大学教授　渡邉寛治先生

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導研修会（６月に２回実施）

・ねらい　　英会話科の指導の実際を振り返り、指導の改善を図る。

・参加者　　ＨＲＴ、ＪＡＴ

・内　容　　英会話科授業のビデオ視聴、グループ討議、三者による授業の進め方、効果的な役割分担、興味関心を高める指導方法

②　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）

・参加者　　市内小中学校教員希望者

・内　容　　リスニング、スピーキングの具体的なアクティビティー

・講　師　　富山国際大学助教授　福島美枝子先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　互見授業や授業実践に基づく情報交換、ＤＶＤやカリキュラム作成の補助

④　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会

・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ

・内　容　　模擬授業を通した実践的指導力の向上

⑤　英会話科実態調査

・ねらい　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。

・対　象　　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任教諭

2　平成 19 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　カリキュラムの見直し

・視　点　　トピック精選､児童の実態に合わせた言語活動の展開､英語と日本語で整理

・進め方　第１回～第７回の 20 年度版カリキュラムを作成、ＨＲＴによる勉強会

②　国際化教育特区成果検証事業（２月）

・趣　旨　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて、１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　田家小学校６年児童

③　ＤＶＤの作成

・ねらい　日常生活でよく使用される英語表現に対し、子供たちが慣れる機会を提供し、話すこと、聞くことの指導の充実に生かす。

・内　容　何て言うのかな？／体の調子は？／お天気は？／教室英語／あいさつ状をつくろう／私・あなた・彼・彼女／様子を表す言葉／言えるかな？／どこにあるかな？／ジャックはどこだ？

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導研修会（７月、８月）

・形　態　各校へ出向いて行う研修

・内　容　基本的な発音練習、クラスルームイングリッシュの練習、子供の興味・関心、意欲を高める実技指導等。

②　英会話実技研修会（市小教研協業）（７月）

・内　容　講演「どうする、どうなる、小学校英語」とワークショップ

・講　師　京都市総合教育センター　直山木綿子　先生

③　英会話科担当者定例会（計 13 回）

・参加者　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　作業部会、ＤＶＤ作成、サマーキャンプ打ち合わせ、「英会話指導のポイント」作成、授業研究

④　文部科学省委託富山県小学校英語活動推進事業拠点校（田家小学校）との協業研修（６月、２月）

・参加者　市内小学校全職員

・内　容　英会話科における教材やアクティビティーの開発、ＡＬＴ、ＪＡＴや地域人材の活用

・講　師　東京国際大学教授　新里眞男先生

⑤　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会（７月）

・参加者　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ

・内　容　模擬授業を通した実践的指導力の向上

⑥　英会話科実態調査

・目　的　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。また、前年度と比較しながら英会話科の成果と課題を探る。

・対　象　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任教諭

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　オランダ・スネーク市訪問（中学生姉妹都市研修）（新規、Ｈ２１にも実施）

・目　的　姉妹都市のオランダ・スネーク市を訪問し、ホームステイや学校訪問を体験し、現地中学生との交流を図る。

・期　間　９月 30 日から 10 月８日（ホームステイ４泊）

・事前研修　５回（活動内容説明、英会話レッスン、交流活動練習、他）

②　英語サマーキャンプ（新規、以降、毎年継続）

・目　的　市内小学生がＡＬＴ等と生活をともにし、友情を深めるとともに、様々な活動を通して、楽しみながら英語に親しむ。

・期　間　７月 31 日～８月２日（２泊３日）

・場　所　あこや～の

③　児童センター英語活動（新規、以降、毎年継続）

・目　的　小学生がＡＬＴ、英会話講師と一緒に遊び、英語や外国の文化に触れる。

・期　間　夏休み中の平日、午前 10 時～12 時

・場　所　中央児童センター、東部児童センター

３　平成 20 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　黒部国際化教育推進協議会の開催（新規）

・趣　旨　国際感覚と実践的なコミュニケーション能力を有し、社会に貢献できる人材を育成すること。

②　黒部国際化教育研究発表会

・趣　旨　黒部国際化教育３年間の取組を振り返り、今後の事業展開の在り方について検討すると共に、小中一貫の英会話科など黒部の取組を市内外にＰＲし、ノウハウを提供するとともに多方面からアドバイスをもらいながら今後の発展に生かす。

・対　象　黒部市小中学校全教員、市内外参観者

・期　日　　11 月 14 日
・会　場　　三日市小学校
・内　容　　公開授業、部会協議会、公開活動、全体会（研究経過、実践報告、講演）
　　演題　「これからの黒部の英語教育　－新学習指導要領のもとで－」
　　講師　東京国際大学教授　新里眞男先生

③　カリキュラムの見直し
・視　点　　中学校のトピックの精選、活動内容と評価の整合性、評価規準の検討、英語と日本語で整理
・進め方　　英会話科定例会において検討した 21 年度版カリキュラム（定例会案）を５回のカリキュラム評価部会において、検討、見直しをする。第４回カリキュラム評価部会で新里眞男教授から指導助言を受ける。

④　国際化教育特区成果検証事業（12 月）
・趣　旨　　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて、１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。
・対　象　　田家小学校６年児童

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）
・内　容　　「聞いて分かる」小学校英語活動（模擬授業、ワークショップ）
・講　師　　新潟市立新潟小学校教諭　渋谷　徹先生

②　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会（７月）
・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ
・内　容　　年間指導計画改善のポイントの共通理解、実技研修

③　文部科学省委託富山県小学校英語活動推進事業拠点校（田家小学校）との協業研修（10 月）
・内　容　　公開授業（効果的なティームティーチングの在り方、ＤＶＤやカード等の視聴覚教材や英語ノート等を活用した指導法の改善、小中の連携）
・講　師　　富山大学　岡崎浩幸　准教授

④　英会話科担当者定例会（計８回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　ＤＶＤの使用法､カリキュラム検討､サマーキャンプ打合せ｢英会話指導｣

⑤　ＤＶＤ指導法研修会
・目　的　　平成 19 年度作成のＤＶＤの活用に関する研修
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師、ＨＲＴ各校１名

⑥　英会話科実態調査
・目　的　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。また、前年度と比較しながら英会話科の成果と課題を探る。前年度６年生の追跡調査を行い、今後の英会話科の指導に生かす。
・対　象　　小学校６年生、中学校１年生、中学校３年生、小学校担任教諭

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　オランダ・スネーク市の中学生受け入れ（新規、Ｈ２２にも実施）
・目　的　　姉妹都市のオランダ・スネーク市の中学生８人を受け入れ、ホームステイや学校訪問を通して、本市中学生との交流を深める。
・期　間　　９月 24 日から９月 30 日（ホームステイ４泊）

②　アメリカ・メーコン市訪問（新規、以降、隔年で実施）
・目　的　　本市の中学生８名が姉妹都市のメーコン市を訪問し、ホームステイや現地生徒との交流を通して、外国文化に触、実践的な英語コミュニケーション能力の習得と国際理解に資する。・期間　10 月 26 日から 11 月３日（ホームステイ５泊）
・事前研修　６回（活動内容説明、英会話レッスン、交流活動練習、他）

4　平成 21 年度（教育課程特例校として、平成 21～26 年度）

（１）英会話科の推進に関すること

①　教育課程特例校に認定（英会話科の授業時数は以下の通り）
ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）
・３～６年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）
イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）
・２、３年　「選択教科」の一部を割当て（年間 35 時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（７、11、３月）
・参加者　　教育長、小中校長会長、小中教研会長、帰国児童生徒教育研究会長、県小教研外国語活動部会長、

学識経験者、保護者代表、国際企業、市教委、市教セ
・内　容　　協議会組織、英会話科指導体制、国際交流事業、黒部国際化教育の予算、ＡＬＴ等の配置・勤務、規定一部改正、客観テストの利用
・その他　　専門委員会として、英会話委員会（カリキュラム評価部会、研修部会）、日本語委員会、地域委員会、予算・人員配置委員会、事業評価委員会を置く。

③　国際化教育の成果の検証事業（２月）
・趣　旨　　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。
・対　象　　田家小学校６年生

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）
・参加者　　推進校教員及び市内小中学校教員希望者
・内　容　　実技研修「知的好奇心発　聞く力経由　コミュニケーション能力行きの提案」
・講　師　　新潟市立白根小学校教諭　佐藤貴子先生

②　外国語活動研修会（センター協との協業）（７月）
・参加者　　魚津地区小中学校教員希望者
・講　演　　「外国語活動を考える」
・講　師　　関西大学外国語学部教授　田尻悟郎先生

③　中学校英会話科スキルアップ講習会（12 月）
・内　容　　授業に取り入れたい学習活動、ＤＶＤによる授業研究

④　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業実践に基づく情報交換、研究授業、サマーキャンプへの協力

⑤　英会話科カリキュラム評価研修会（11 月）
・参加者　　市内各校英会話科担当教員
・内　容　　英会話科カリキュラム、評価規準の見直し、他

⑥　英会話科実態調査（11～12 月）
・趣　旨　　子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。
・対　象　　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任及び英会話科担当者

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　アメリカ・メーコン市の生徒受け入れ（新規、以降、隔年で実施）
・目　的　　姉妹都市のアメリカ・メーコン市の生徒５人を受け入れ、ホームステイや学校訪問を通して、本市中学生との交流を深める。
・期　間　　11 月 22 日から 11 月 29 日（ホームステイ５泊）

５　平成 22 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　黒部国際化教育推進協議会（３月）
・内　容　　平成 22 年度事業の報告、ＡＬＴ等の配置、平成 23 年度予算

②　英会話科授業時数
・小中学校ともに、平成 21 年度に同じ。

③　英会話科実態調査（11～12 月）
ア　中学校１年対象　（７月）
　小学校英会話科が中学校英語へ与える影響と効果についての調査（アンケート）
イ　小学校６年、中学校３年、小学校学級担任
　英会話科実態調査（アンケート）
ウ　小学校６年（抽出校）
　児童の英会話力の検証と授業改善を目的とした調査（面接）

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（７～８月に４回開催）
・参加者　　市内小学校教員希望者
・目　標　　小学校教員の英語運用能力を高める
・講　師　　ＡＬＴ、教育センター研究主事

②　外国語活動研修会（センター協との協業）（７月）
・参加者　　魚津地区小中学校教員希望者

・講　演　　「小学校外国語活動の考え方、捉え方」
・講　師　　麗澤大学　非常勤講師　トム・マーナー　先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　英会話科の授業改善、授業研究

④　英会話科カリキュラム評価研修会（８月）
・参加者　　市内各校英会話科担当教員
・講　話　　「効果的な英会話科の授業展開」
・講　師　　富山大学　准教授　岡崎浩幸　先生

６　平成 23 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）
・３、４年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）
・５、６年　「外国語活動」の一部を割当て（年間 35 時間）

イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」＋「選択」の一部を割当て（年間 35 時間）
・２、３年　「選択教科」の一部を割当て（年間 35 時間）

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（７～８月に４回開催）
・参加者　　市内小中学校教員希望者
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　ＡＬＴ、英会話講師、教育センター研究主事

②　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業実践に基づく情報交換、研究授業、サマーキャンプへの協力

③　英会話科カリキュラム評価研修会（７、８、10、１月）
・参加者　　市内各校英会話科担当教員
・内　容　　英会話科授業改善、カリキュラムの改善、評価規準の見直し、各校の取組の情報交換、各種調査の分析・考察
講演　「英会話科における効果的な小中連携の在り方」
講師　富山大学准教授　岡崎浩幸　先生

④　英会話科の成果の検証

ア　中学校１年対象（７月）
・小学校英会話科が中学校英語に与える影響と効果

イ　小学校６年、中学校３年、学級担任、ＡＬＴ、英会話講師対象
・英会話科に対する児童生徒の意識、態度、姿勢を把握し、授業改善につなげる。

ウ　ＡＬＴとの面接調査（Enjoy talking）（新規）
・対象小学校６年、中学校１～３年
・教員が児童のコミュニケーション面での実態を把握し、授業改善につなげる。
・児童が少人数でＡＬＴと会話することを通して、コミュニケーションの楽しさを味わう。

７　平成 24 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

ア　小学校
・平成 23 年度に同じ。

イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 15 時間）
・２、３年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（５、７、１月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　黒部国際化教育の将来構想、平成 24 年度事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交

換。

③　英会話科企画・運営・評価部会研修会（５、６、９、１月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

④　英会話科授業公開月間（11 月）
・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・「黒部の英語教育」リーフレットの作成、配布
・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布
・英会話科公開月間、英語サマーキャンプ、メーコン市派遣をみらーれテレビで放映
・英会話科の取組を広報「くろべ」で紹介

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導者研修会（８月２回）
・参加者　　小学校教員悉皆
・内　容　　学年の最終ゴールについて、学習指導案作成や実践のまとめ作成の説明
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　上野郁行先生

②　英会話実技研修会（７月２回）
・参加者　　市内小中学校教員希望者
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　東部教育事務所　小学校外国語活動指導員　庭田順子先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　服務、授業力向上、役割分担にかかわる研修、各校の取組の情報交換

④　英会話科カリキュラム評価部会研修会（７、８、１月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員（※中学校からも各校１名）
・内　容　　英会話科授業改善、カリキュラムの改善、実態調査、他

８　平成 25 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数
ア　小学校
・平成 23 年度に同じ。
イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 25 時間）
・２、３年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（６、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 25 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部の英語教育組織部会（６、11、２月）（新規）
・参加者　　小中校長会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、副部長、市教委・市教セ
・内　容　　平成 25 年度英語教育、26 年度の重点、公開授業についての協議、共通理解等

④　英会話科企画・運営・評価部会研修会（１、８月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の充実（平成 25 年度の重点、英会話科に係るアンケート実施、平成 26 年度の重点と授業公開月間の実施）、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・ふるさと黒部を豊かに語れる生徒の育成を目指して、ピクチャーカード、This is Kurobe、デジタル教材、黒部マップを作成し各校に配布する。

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会
ア　第１回（５月）
・初任者や臨任講師に英会話科についての研修を行う。
イ　第２、３回（８月）
・参加者　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・英会話科の授業充実を目指し、講話と学習指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　東部教育事務所　外国語活動指導員　庭田順子先生

②　英会話実技研修会（２回）
・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　東部教育事務所　外国語活動指導員　庭田順子先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　服務、授業改善、研究授業、情報交換

④　英会話科カリキュラム部会研修会（５、８、12 月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員（小中各１名、12 月はＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴも参加）
・内　容　　平成 25 年度の重点、英会話科の授業改善、カリキュラム改善

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ
・中学校１年生も参加する。

９　平成 26 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数
・小学校は平成 23 年度に同じ。
・中学校は平成 25 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（６、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 26 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（５、２月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 26 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（４、７、９、２月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11 月）
・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・ピクチャーカード、This is Kurobe、デジタル教材の一部改訂、追加
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布
・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布
・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」で紹介

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（７、８月）
・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話と指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　庭田順子先生

②　英会話実技研修会（市小教研協業）（７月）
・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　庭田順子先生

③　英会話科定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12 月（12 月はＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴも参加））
・参加者　　市内各校カリキュラム部員

・内　容　　ピクチャーカードの活用や学期末の復習、授業の質的向上について情報交換、平成 27 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校３年生８名派遣

10　平成 27 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成 23 年度に同じ。

・中学校は平成 25 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、２月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　平成 27 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　平成 27 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（８、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの配布

・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）

・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（８月）

・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話とクラスルームイングリッシュのワークショップを行う。

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　浦田栄信　先生

②　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

③　カリキュラム部会（８、12 月（12 月はＪＡＴ、ＪＥＴも参加））

・参加者　　市内各校カリキュラム部員

・内　容　　文字（アルファベット）の指導に関する協議、授業の質的向上について情報交換、平成 28 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業

・メーコン・ビブ郡より高校生が９名来市、ホームステイ。

11　平成 28 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成 23 年度に同じ。

・中学校は平成 25 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 28 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 28 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（５、７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11 月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成
・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布
・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」や「みら～れＴＶ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（８月）
・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話と模擬授業、指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　浦田栄信　先生

②　英会話実技研修会（７月）

・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める。
・講　師　　小学校英語専科講師　杉原栄子　先生
　　ＡＬＴ　ヘンリー・プロサクⅢ　先生

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12 月、12 月はＪＡＴ、ＪＥＴも参加）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成 29 年度の年間指導計画の作成、授業の質的向上についての情報交換、This is Kurobe の活用、英検取得状況、他

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

12　平成 29 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成 23 年度に同じ。
・中学校は平成 25 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 29 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（５、12、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 29 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（３月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会（５月）

・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

②　外国語活動講演会（魚津地区教育センター協業）（７月）

・参加者　　魚津地区小・中学校　教員
・講　師　　文教大学教育学部　教授　金森強先生
・演　題　　新学習指導要領に応じた英語指導の在り方－主体的な学びを促す授業づくり－

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12 月）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成 29 年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
　　平成 30 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約 50 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（10 月）

・メーコン・ビブ郡より高校生が 15 名来市、ホームステイ。

13　平成 30 年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数等

ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間 10 時間）
・３、４年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）
　　新学習指導要領対応小学校外国語活動教材「Let's Try!」(文部科学省発行)を活用
・５、６年　「外国語活動」及び「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 50 時間）
　　新学習指導要領対応小学校外国語教材「We Can!」(文部科学省発行)を活用

イ　中学校
・１、２年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 25 時間）
・３年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間 35 時間）

ウ　年間指導計画
・新学習指導要領に準拠して内容を変更

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成 30 年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（５、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成 30 年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、３月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科研修会（４月）

・参加者　　市内小学校第５・６学年英会話科担当教員、ＡＬＴ、英会話科講師

・内　容　　模擬授業の実践及び協議を通して、授業力向上を図る。

② 英会話科指導者研修会（８月）
・参加者　　市内小学校教員（悉皆）
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・演　題　　「小学校外国語科の同校と授業への関わり方」
・内　容　　講演及び演習（指導案例の作成）

③ 英会話科定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

④ カリキュラム部会（10、12 月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成 30 年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、平成 31 年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

① 英語サマーキャンプ（８月）
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 69 名参加）

② 姉妹都市交流研修事業（11 月）
・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

14　令和元年度

（１）英会話科の推進に関すること

① 英会話科授業時数等
・小学校は平成 30 年度に同じ。
・中学校は平成 30 年度に同じ。
・令和２年度からの教育課程特例校について、小学校は指定廃止、中学校は継続が決定

② 黒部国際化教育推進協議会（７、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　令和元年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③ 黒部国際化教育組織部会（７、３月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　令和元年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④ 企画・運営・評価部会（７、９、３月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤ 英会話科授業公開月間（10～11 月）
・英会話科の授業を保護者や地区住民等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小学校の全学級、市内中学校各学年の一部の学級で授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥ 英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布
・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」や「みらーれＴＶ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

① 英会話科指導者研修会（８月）
・参加者　　市内小学校教員（悉皆）
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・内　容　　Classroom English 及び Small Talk 等の音読練習や授業の題材の検討を通して指導力向上を図る。

② 英会話科定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③ カリキュラム部会（７、８、12 月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　令和元年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、英会話科指導者研修会の事前研修、
　　令和２年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

① 英語サマーキャンプ（８月）
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 58 名参加）
② 姉妹都市交流研修事業（10 月）
・メーコン・ビブ郡より高校生が 14 名来市、ホームステイ。

15 令和２年度

（１）英会話科等の推進に関すること
① 英会話科等授業時数等
・小学校は平成 30 年度に同じ。
・中学校は平成 30 年度に同じ。
・令和２年度から小学校新学習指導要領全面実施
② 黒部国際化教育推進協議会（７、３月）
・参加者　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　令和２年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
③ 黒部国際化教育組織部会（７、３月）
・参加者　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　令和２年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
④ 企画・運営・評価部会（７、２月）
・参加者　小中学校教頭
・内　容　英会話科等の指導の重点等に関する共通理解、各校の意見集約
⑤ 英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること
① 外国語教育に関する研修会　【中止】
② 英会話科等定例会（月１回）
・参加者　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　授業の充実　他
③ 外国語教育研究部会（１月）
・参加者　市内各校外国語教育研究部員
・内　容　授業について情報交換、令和３年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業
① 英語サマーキャンプ　【中止】
② 姉妹都市交流研修事業　【中止】

16 令和３年度

（１）英会話科等の推進に関すること
① 英会話科等授業時数等
・小学校は平成 30 年度に同じ。
・中学校は平成 30 年度に同じ。
・令和３年度から中学校新学習指導要領全面実施
② 黒部国際化教育推進協議会（８、３月）
・参加者　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　令和３年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
③ 黒部国際化教育組織部会（７、３月）
・参加者　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　令和３年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
④ 企画・運営・評価部会（７、２月）
・参加者　小中学校教頭
・内　容　英会話科等の指導の重点等に関する共通理解、各校の意見集約
⑤ 英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobe の作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

① **外国語教育に関する研修会**
- 参加者　　市内小学校教員
- 講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
- 内　容　　英語の好きな児童生徒の育成を目指して－小中連携の視点から－

② **英会話科等定例会（月１回）**
- 参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ
- 内　容　　授業の充実　他

③ **外国語教育研究部会（７、１月）**
- 参加者　　市内各校外国語教育研究部員
- 内　容　　外国語科等の充実に向けた協議、令和４年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

① **英語サマーキャンプ　　【中止】**

② **姉妹都市交流研修事業　【中止】**

17　令和４年度

（１）英会話科等の推進に関すること

① **英会話科等授業時数等**
- 小学校は平成 30 年度に同じ。
- 中学校は平成 30 年度に同じ。

② **黒部国際化教育推進協議会（７、３月）**
- 参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
- 内　容　　令和４年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③ **黒部国際化教育組織部会（６、３月）**
- 参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
- 内　容　　令和４年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④ **企画・運営・評価部会（７、９、２月）**
- 参加者　　小中学校教頭
- 内　容　　英会話科等の指導の重点や公開授業に関する審議。各校の意見集約

⑤ **英会話科等授業公開月間（10～11 月）**
- 英会話科等の授業を保護者や他市町村の教員等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。
- 各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめを作成する。

⑥ **英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動**
- This is Kurobe の作成
- 「英会話科等のまとめ」の作成、配布
- 黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」で紹介
- 黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

① **外国語教育に関する研修会（８月）**
- 参加者　　市内小学校教員
- 講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
- 内　容　　英語の好きな児童生徒の育成を目指して－小中連携の視点から－

② **英会話科等定例会（月１回）**
- 参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ
- 内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③ **外国語教育研究部会（７、12 月）**
- 参加者　　市内各校外国語教育研究部員
- 内　容　　外国語科等の充実に向けた協議、評価問題収集作成、令和５年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

① **英語サマーキャンプ（８月）**
- 「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が２３名参加）

② **姉妹都市交流研修事業（11 月）**
- メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

18　令和５年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校、中学校は平成 30 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和５年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和５年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科等の指導の重点に関する共通理解、各校の意見集約

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobe の作成

・「英会話科等のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　「『聞くこと』『話すこと』から『書くこと』への流れを重視した授業」

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③　外国語教育研究部会（７、12 月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員

・内　容　　外国語科等の充実に向けた協議、評価問題収集作成、令和６年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 27 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（10 月）

・メーコン・ビブ郡より学生 16 名来市、ホームステイ

19　令和６年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校、中学校は平成 30 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（５、７、３月）

・参加者　　会長、小中校長会長、桜井高校校長、保護者代表、YKK（株）社員、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　令和６年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、企画・運営・評価部長、外国語教育研究部長、市企画情報課、市教委、市教セ

・内　容　　令和６年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（６、９、２月）

・参加者　　企画・運営・評価部長、小中学校教頭５名、市教委、市教セ

・内　容　　英会話科等の指導の重点や公開授業に関する審議。各校の意見集約

⑤　英会話科等授業公開月間（10～11 月）

・英会話科等の授業を保護者や他市町村の教員等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。
（本年より毎年公開月間を設け、小学校３校、中学校２校を公開する）

・各校で開催の案内、アンケートの実施・集約、中学校は指導案と実践のまとめを作成する。

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・「英語の指導に関するまとめ」の作成、配布

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（８月）

・参加者　　市内小、中学校教員、魚津地区希望教員

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　個別最適な学びと協働的な学びー外国語の指導を通してー

②　外国語教育研究部会（６、10、12 月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員、専科教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　外国語科等の指導の充実に向けた協議、評価問題収集作成、令和７年度の年間指導計画の作成、他

③　英会話科等打合会（必要に応じて）

・参加者　　ＡＬＴ

・内　容　　サマーキャンプへの企画・運営、他

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 49 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11 月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生 20 名派遣

20　令和７年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校、中学校は平成 30 年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、２月）

・参加者　　会長、小中校長会長、桜井高校校長、保護者代表、YKK（株）社員、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　令和７年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、企画・運営・評価部長、外国語教育研究部長、市企画情報課、市教委、市教セ

・内　容　　令和７年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）

・参加者　　企画・運営・評価部長、小中学校教頭５名、市教委、市教セ

・内　容　　英会話科等の指導の重点や公開授業に関する審議。各校の意見集約

⑤　英会話科等授業公開月間（10～11 月）

・英会話科等の授業を保護者や他市町村の教員等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。

・各校で開催の案内、アンケートの実施・集約、中学校は指導案と実践のまとめを作成する。

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・「英語の指導に関するまとめ」の作成、配布

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（６月）※兼第１回外国語教育研究部会

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員、専科教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ、市中教研英語部会部員、魚津地区希望教員

・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生

・内　容　　話すことの指導の在り方

②　外国語教育研究部会（６、11、12 月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員、専科教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　外国語科等の指導の充実に向けた協議、評価問題収集作成、デジタル教科書の活用に向けて、令和８年度の年間指導計画の作成、他

③　英会話科等打合会（必要に応じて）

・参加者　　ＡＬＴ

・内　容　　サマーキャンプへの企画・運営、他

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が 28 名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（10 月）

・メーコン・ビブ郡より学生 15 名来市、ホームステイ、中学校生活体験

令和７年度　黒部国際化教育推進事業

英語の指導に関するまとめ

令和８年３月　発行

黒部市教育委員会
黒部市教育センター